



第1次埴町地域福祉活動計画

令和3年度～令和7年度

共に支え合い 笑顔あふれる 地域の輪



令和3年4月



社会福祉法人 埴町社会福祉協議会

はじめに



近年、私たちを取り巻く社会環境は、少子高齢社会を迎え、家庭や地域の相互扶助機能が低下し、さらには人間関係の希薄化により地域福祉の課題も多様化しています。

また、子どもや高齢者、障がい者が健康で安心して暮らしていけるよう、地域福祉をどのように展開し進めていくか直面する課題が浮き彫りになっております。こうした状況の中、地域福祉を進めるにあたっては、希薄化した地域での相互扶助のしくみを見直し、誰もが住み慣れた地域で安全で安心した暮らしができるように、支え合いのまちづくりが求められています。

これからの地域福祉は、住民・サービス利用者やボランティア・福祉関係事業者・行政が協働し住民一人ひとりを主体として互いに支え合う地域社会を目指す必要があります。

このため、社会福祉協議会では、できる限り多くの住民の皆様からご意見をいただきながら、埴町地域福祉活動計画を策定いたしました。これは、埴町の「第5次埴町長期総合計画」を最上位とする行政の様々な計画と連携・協働して進めていくものです。保健・医療・福祉分野の『自助、共助、公助』の連携を強化し、地域全体・地域主体の福祉のまちづくりをすすめるため、「地域共生社会」の実現に向けて、住民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました地域福祉計画策定委員会委員をはじめ、アンケート調査等にご協力いただきました住民の皆様並びに関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

令和3年3月

社会福祉法人埴町社会福祉協議会
会長 宮田秀利

ご挨拶



「向こう三軒両隣」という慣わしがあります。助けられたり助けたり、何でも相談することができ、支え合いのできる共同体でした、しかし、近年は、核家族化や少子高齢化によりその機能はなくなりつつあります。

このような中、地域においては様々な課題を抱える人や家庭が増え公的制度だけでは対応が難しくなってきました。これからのまちづくりには福祉サービスの充実を図るとともに、地域住民の皆様とともに「新たな支え合い」を構築する必要があります。

埴町地域福祉活動計画策定委員会では、地域の住民だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを進めていくための地域福祉活動計画を策定するため協議検討を重ねてまいりました。

本計画は「共に支え合い 笑顔あふれる 地域の輪」を基本理念に掲げ3つの基本目標、8つの基本計画で構成されています。難しいことが記載されているわけではありません。地域の皆様が「向こう三軒両隣」の発想を持ち身近なことから取り組みを始めることが地域の課題解決につながります。

この計画が埴町を「笑顔あふれる街」にしていくための羅針盤になることを願います。

おわりに、本計画の策定にあたり貴重なご意見やご提言をいただきました本計画策定委員をはじめアンケート調査や聞き取り調査等にご協力いただきました町民の皆様並びに関係者の皆様に感謝を申し上げます。

令和3年3月

埴町地域福祉活動計画策定委員会
委員長 前藤隆之

目次

第1部 地域福祉活動計画の概要

第1章 地域福祉活動計画とは	
1 地域福祉とは	3
2 地域福祉活動計画とは	3
3 計画策定の背景と目的	3
4 計画の位置づけ	4
5 計画の期間	4
6 計画策定の体制と策定手順	5
第2章 「はなわまち」ってこんなまち	
1 地域の現状	6
(1) 総人口及び年齢3区分別人口の推移	6
(2) 世帯数の推移	7
(3) 高齢者数と高齢化率の推移	7
(4) 要介護・要支援者の推移	8
(5) 子どもの数の推移	8
(6) ひとり親世帯の推移	9
(7) 障がい者(手帳保持者)数及びサービス受給者数の推移	9
(8) 包括支援センター相談件数の推移	10
(9) 地域介護予防活動の推移	11
第3章 私たちの「まち」への思い	
1 地域福祉をめぐる主な課題	12
(1) 町民アンケート調査結果による課題	12
(2) 子育て世代へのアンケート調査結果による課題	16
(3) 民生児童委員との方部委員会結果による課題	18
(4) サロン参加者への聞き取り調査結果による課題	19

第2部 地域福祉活動計画で目指すこと

第1章 計画の基本理念	21
第2章 計画の基本目標	22
第3章 計画の体系	23

第3部 目標達成のための取組み（実施事業）

第1章 【基本目標1】共に支え合う人づくり	25
第2章 【基本目標2】安心して暮らせる仕組みづくり	32
第3章 【基本目標3】ぬくもりあふれる地域づくり	38

資料編

1 町民アンケート調査結果	46
2 子育て世代へのアンケート調査結果	88
3 民生児童委員との方部委員会結果	97
4 サロン参加者への聞き取り調査結果	101
5 策定経過	108
6 埴町地域福祉活動計画策定委員会設置要項	112
7 埴町地域福祉活動計画策定委員会委員名簿	115

第1部

地域福祉活動計画の概要

第1部 地域福祉活動計画の概要

第1章 地域福祉活動計画とは

1 地域福祉とは

住み慣れた地域で、みんなが安心して暮らせるように地域にある問題をそこに住む皆で解決していこうとする取り組みのことです。

2 地域福祉活動計画とは

地域にある問題を解決していくために、みんなで取り組んでいく内容を示した計画です。

3 計画策定の背景と目的

今、地域社会は支え合い機能が弱体化しています。

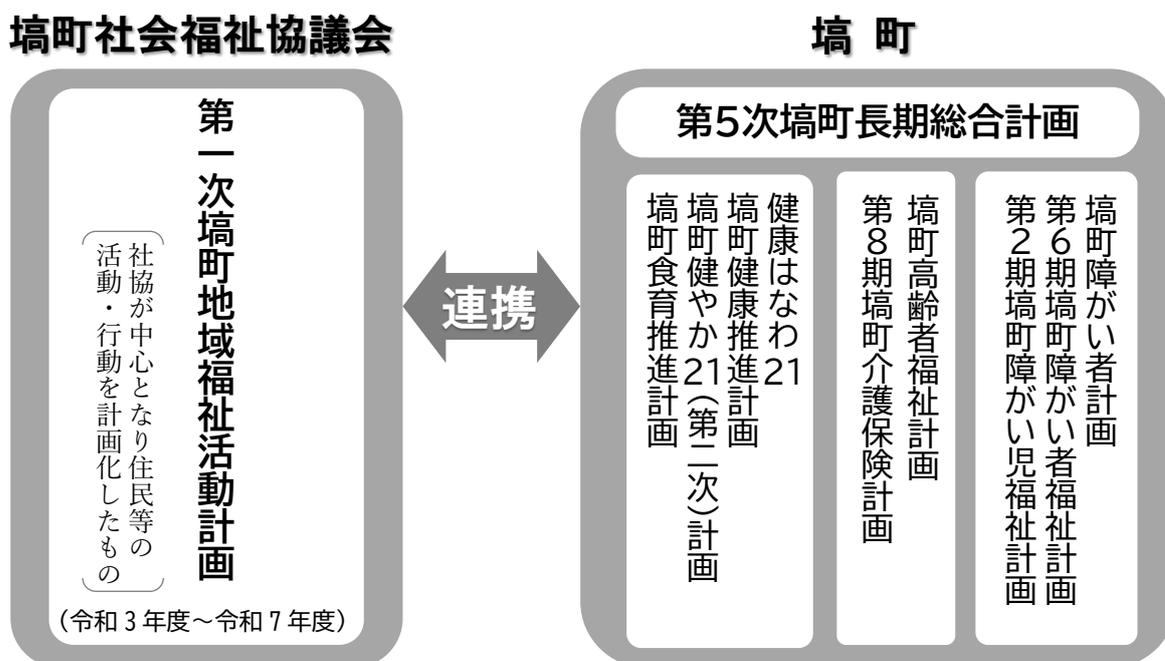
少子高齢化や核家族化、単身世帯、ひとり暮らし高齢者や夫婦のみの高齢者世帯の増加により家庭内の「助け合い」機能も弱まっています。

このことから、地域における課題が多様化する中で、すべての課題に公的な福祉サービスで対応することには限界があります。

このような背景を踏まえ、埴町をみんなで“笑顔あふれる地域”にしていくために、地域住民の皆さまとともに「新たな支え合い」をつくっていくことを目指した「第1次埴町地域福祉活動計画」を策定しました。

4 計画の位置づけ

本計画は、誰もが安心して暮らせる地域づくりを行っていくための「具体的な取り組み」を位置づける行動計画として、埴町の福祉に係る計画と「理念・仕組み」を共有しながら策定し、連携を図ります。



5 計画の期間

第1次埴町地域福祉活動計画の期間は、2021年度から2025年度までの5年間です。

関係する法律の改正や、制度の改正、社会情勢の変化による影響をはじめ、地域における新たな福祉ニーズ、課題に対応するため、2023年度に中間評価を行い、計画の見直しを行います。

また、計画の進捗状況を社会福祉協議会の理事会、評議員会に報告します。

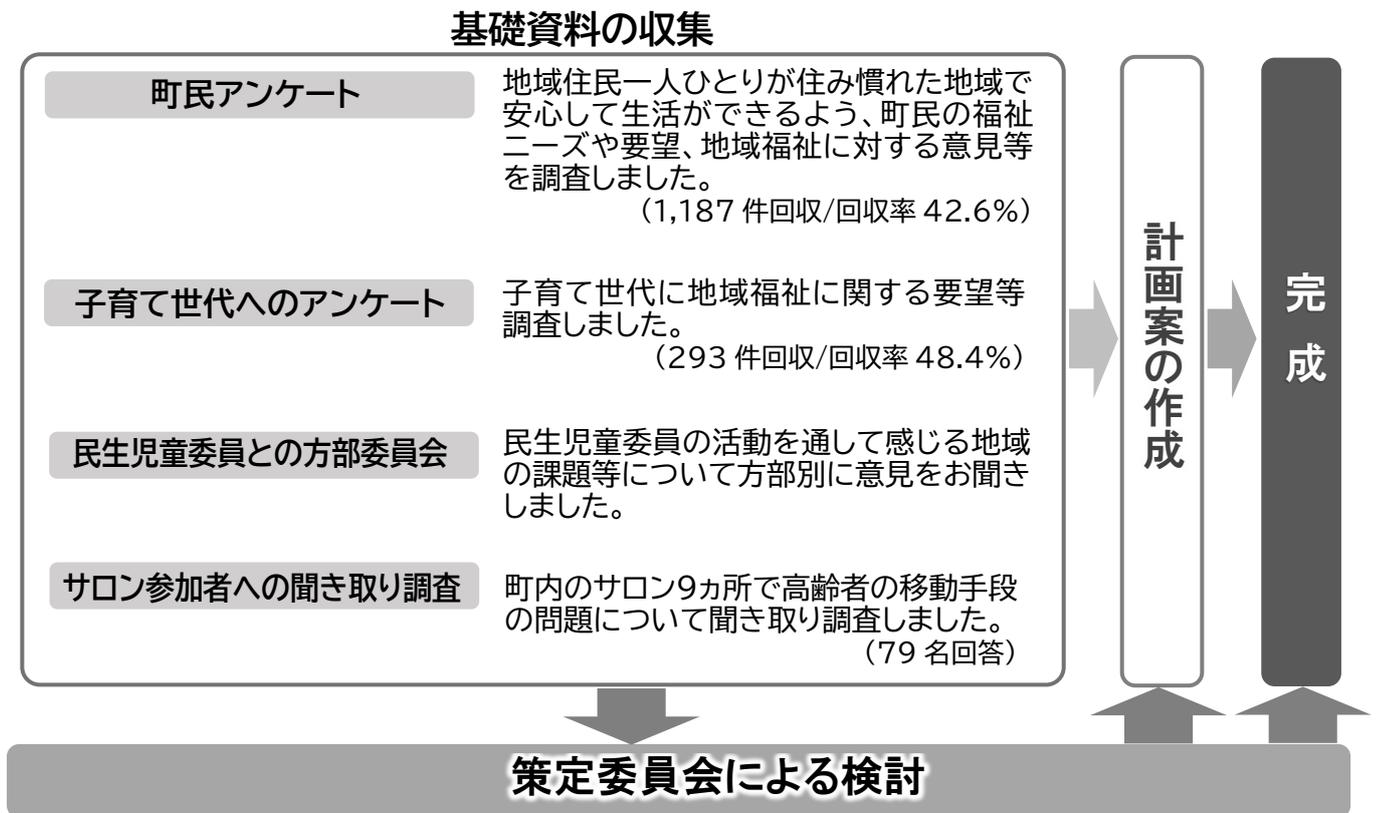
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～ 2030年度
第1次地域福祉活動計画					第2次
		中間評価・見直し	策定期間		

6 計画策定の体制と策定手順

計画の策定にあたっては、策定委員会と作業部会を設け検討しました。策定委員会は、地域住民の代表や福祉関係者、ボランティア団体など地域に関わる人々で構成され、社協職員による作業部会が策定委員会のサポートをしながら策定を進めました。

また、策定のための調査として町民を対象にアンケートを行い、現状や課題を把握、計画の内容について協議を進めました。

■ 策定手順



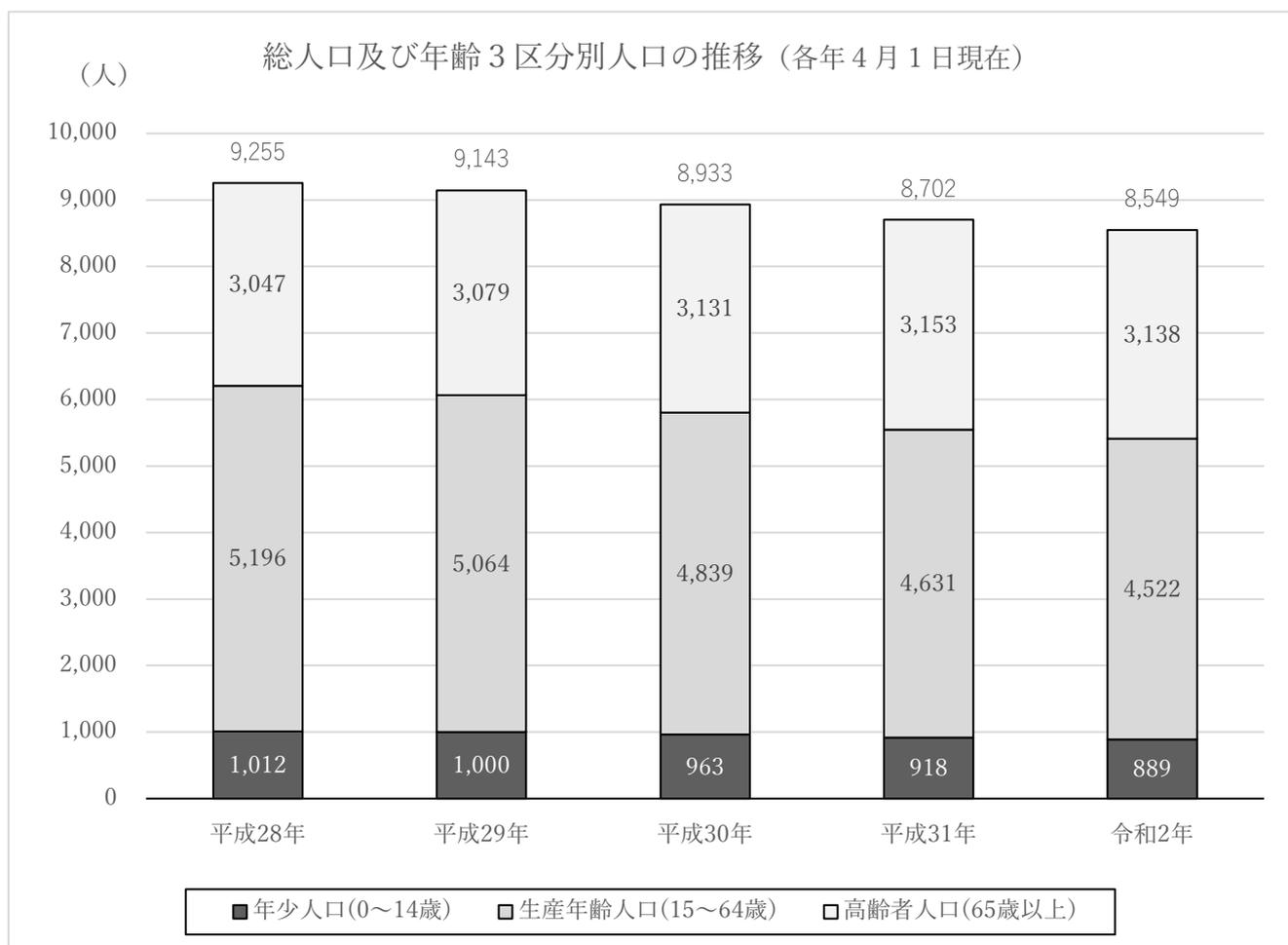
第2章

「はなわまち」ってこんなまち

1 地域の現状 ※統計から見る現状

(1) 総人口及び年齢3区分別人口の推移

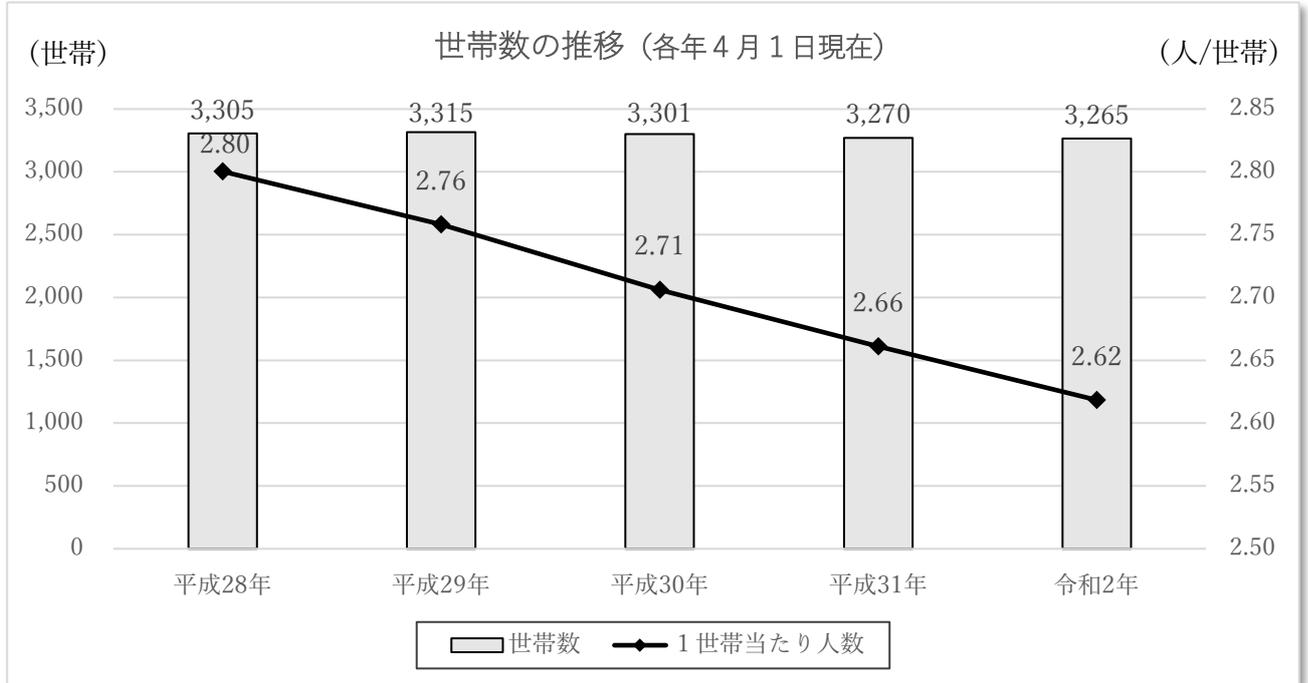
埴町の人口は、1955年の16,670人をピークに年々減少し続けており、令和2年4月1日現在で8,549人となっております。同様に64歳以下の人口も減少している一方、65歳以上の高齢者は増加傾向にあります。



(資料：住民基本台帳)

(2) 世帯数の推移

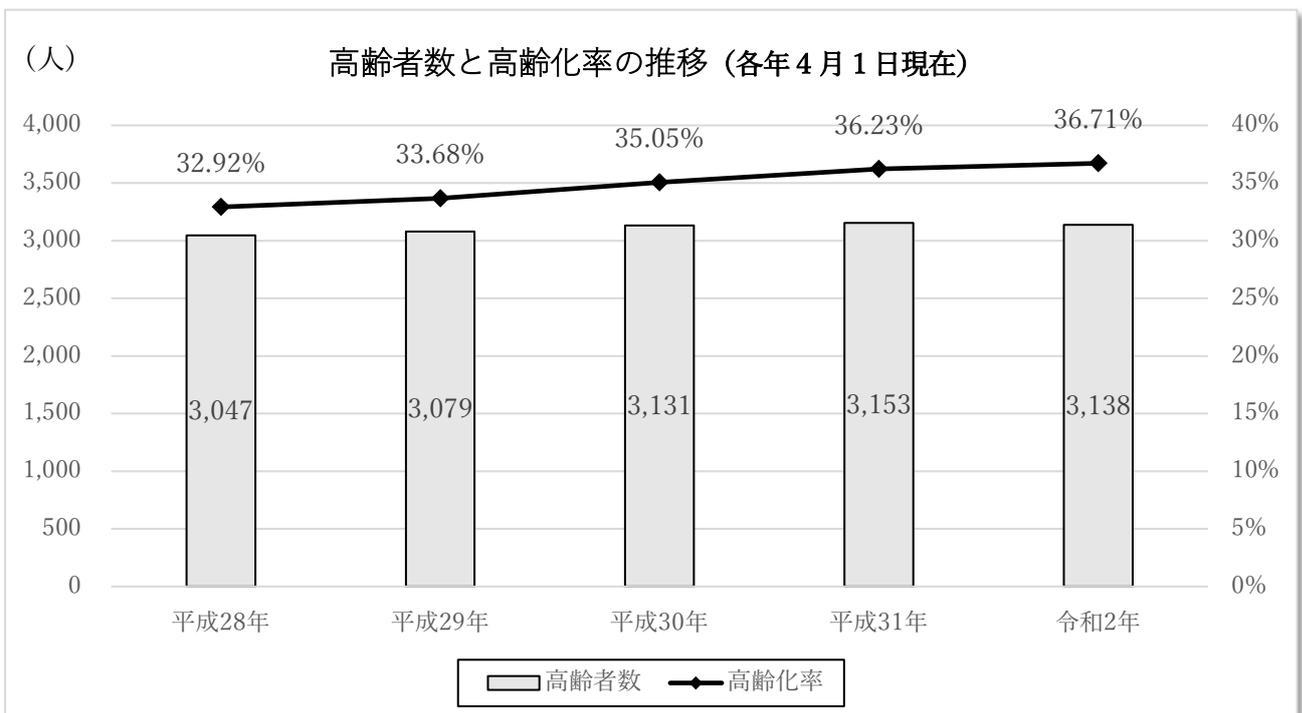
人口は減少傾向にあるものの、世帯数はほぼ横ばいで推移しており、令和2年は3,265世帯となっています。このため、1世帯あたり人数は年々減少しており、平成28年は2.80人でしたが、令和2年は2.62人となっています。



(資料：住民基本台帳)

(3) 高齢者数と高齢化率の推移

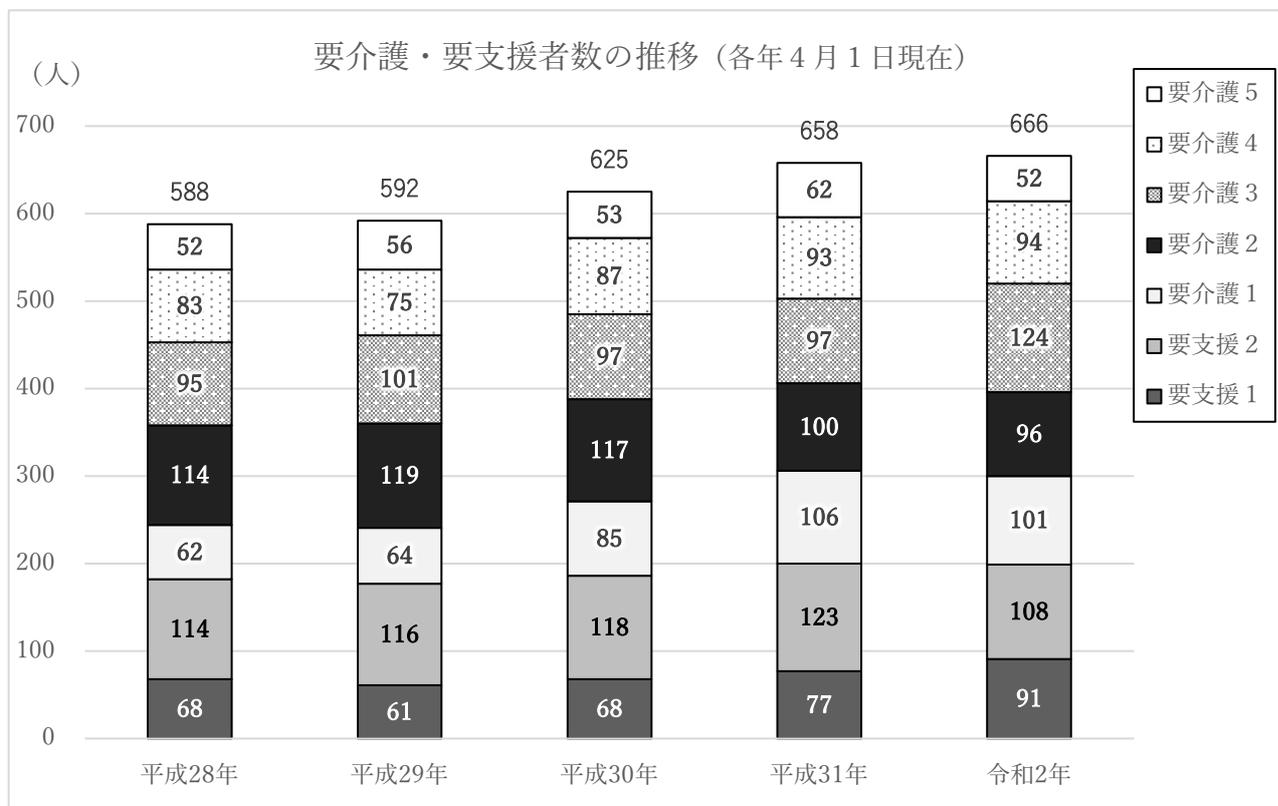
高齢者数は平成28年の3,047人から令和2年には3,138人と91人増加しています。それに伴って高齢化率も平成28年の32.92%から令和2年には36.71%と、5年間で3.79ポイント上昇しています。



(資料：埴町健康福祉課)

(4) 要介護・要支援者数の推移

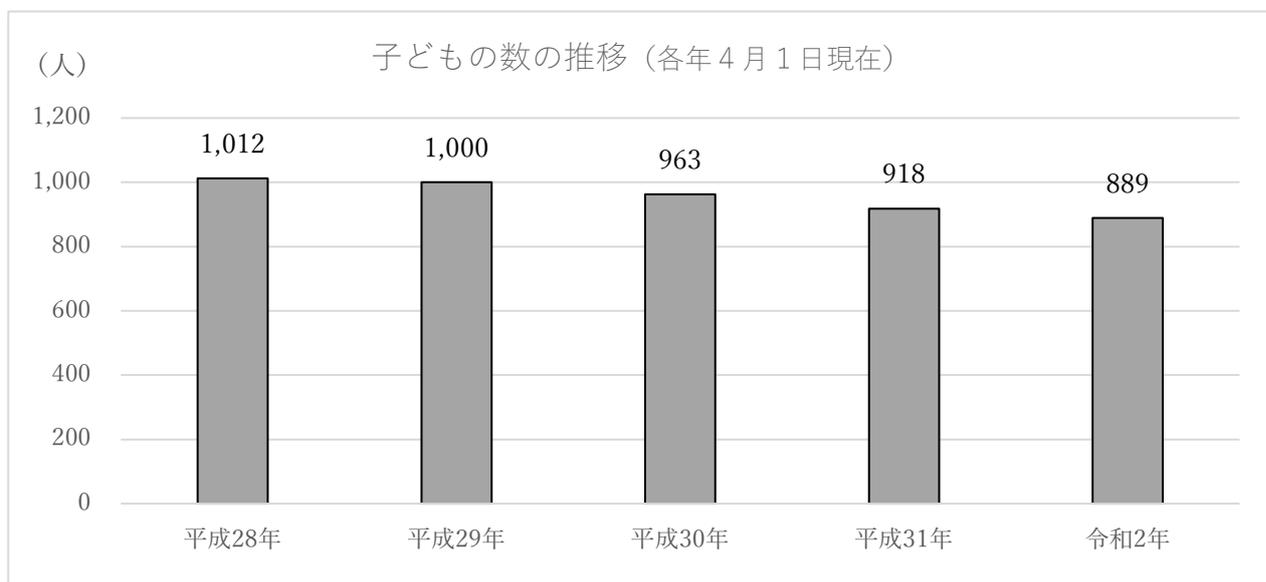
要支援・要介護認定者数は後期高齢者が増加する中微増しており、令和2年は666人となっています。



（資料：埴町健康福祉課）

(5) 子どもの数の推移

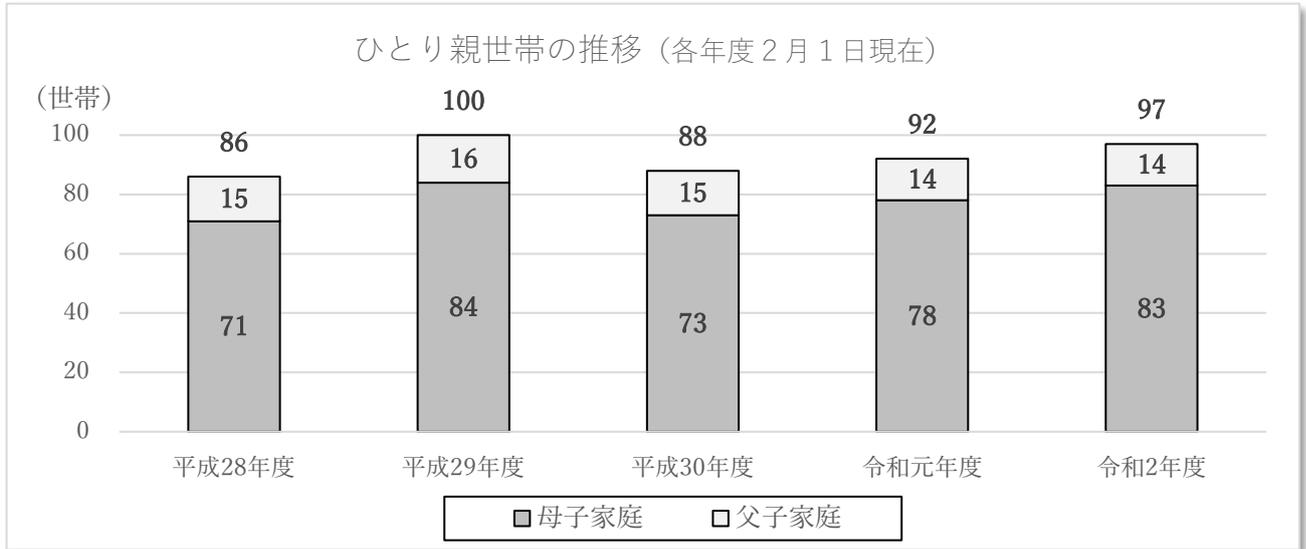
15歳未満の年少人口の推移をみると、埴町における子どもの数は年々減少し、平成28年から令和2年までの5年間で123人減少しています。



（資料：住民基本台帳）

(6) ひとり親世帯の推移

埴町の母子家庭・父子家庭数は増加と減少を繰り返しており、令和2年度では母子世帯が83世帯、父子家庭が14世帯の、合計97世帯となっています。



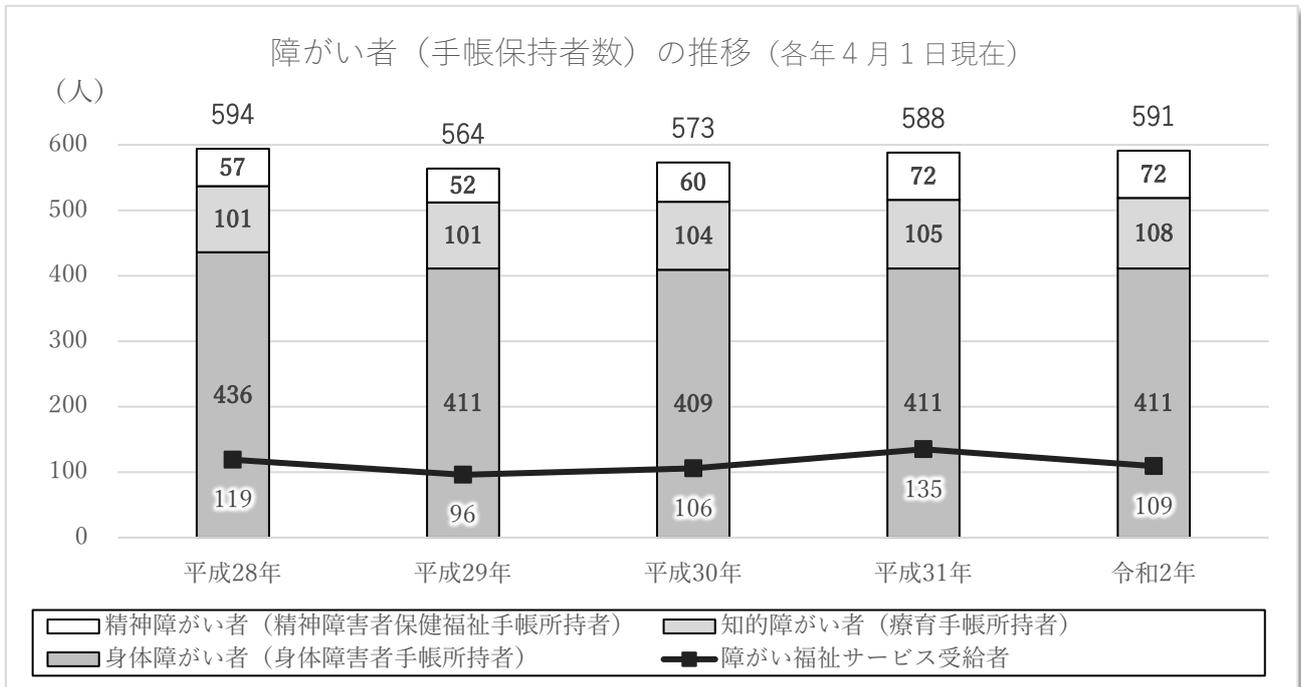
(資料：埴町健康福祉課)

(7) 障がい者(手帳所持者)数の推移

埴町の障害者手帳所持者は、令和2年までの5年間ほぼ横ばいで推移しています。

身体障害者手帳所持者数は、平成28年の436人から令和2年には411人と25人減少しておりますが、療育手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳所持者はどちらも増加傾向にあります。

障がい福祉サービスを受給している方は、増加と減少を繰り返しており、令和2年には109人となっています。

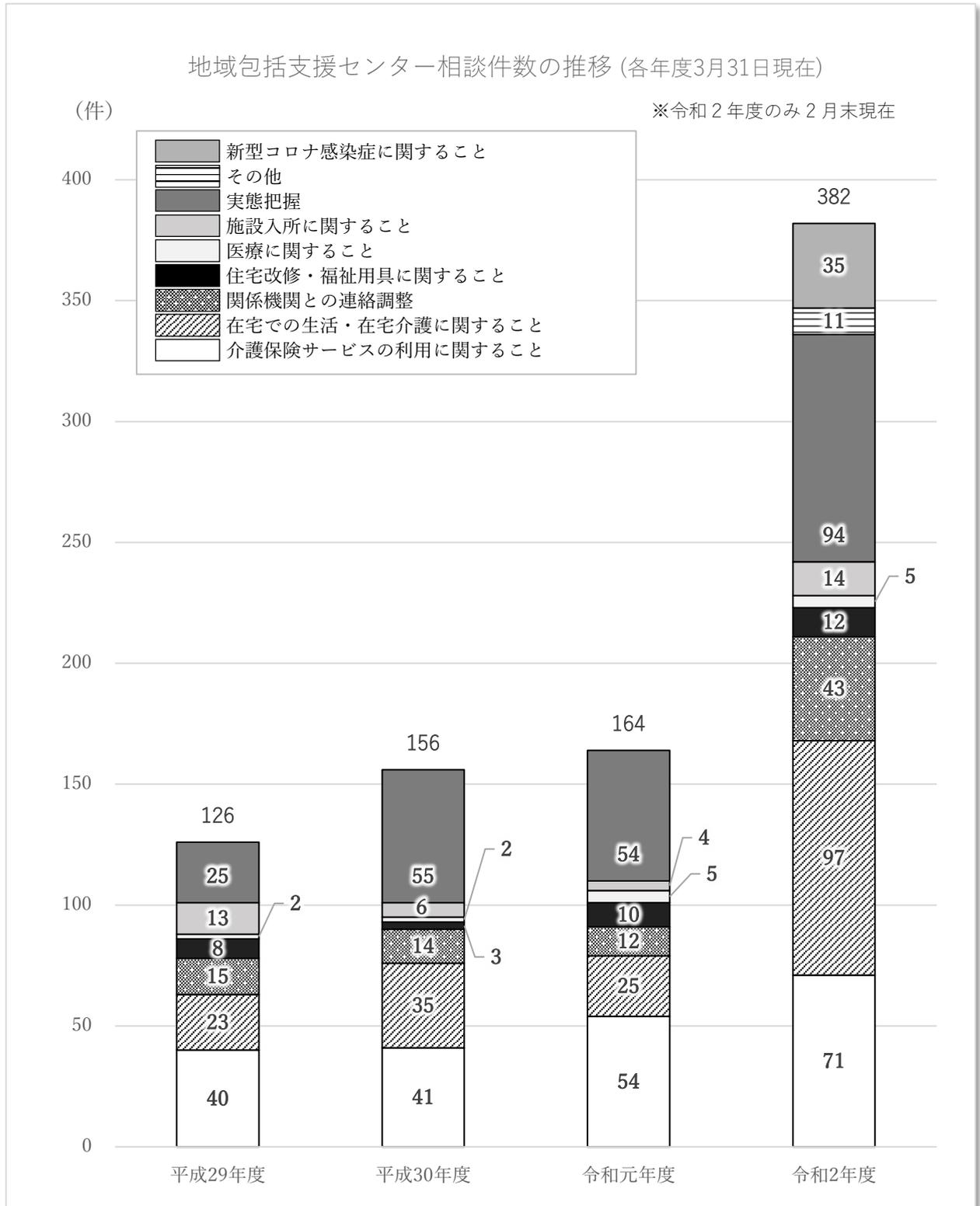


(資料：埴町健康福祉課)

(8) 包括支援センター相談件数の推移

埴町地域包括支援センターでは、専門支援機関として高齢者が健やかに暮らすためあらゆる相談に対応しています。必要な場合は包括支援センターの業務に移行して包括的な支援につなげ、また、サービス利用等の後も継続的なフォローをおこなっています。

平成29年度は126件でしたが、それ以降相談件数は年々増加し、令和2年度には平成29年度より256件多い382件となりました。



(資料：埴町地域包括支援センター)

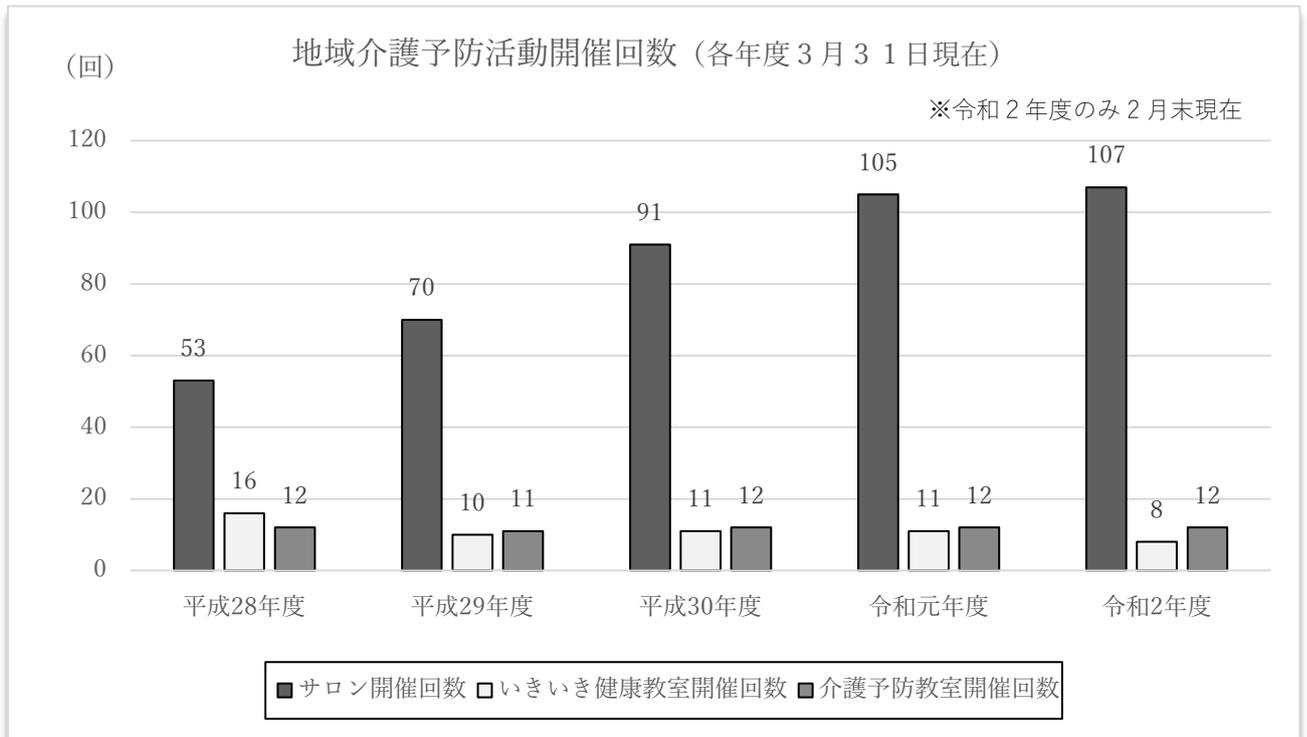
(9) 地域介護予防活動の推移

地域住民が主体となって介護予防活動の支援やそれをサポートするボランティアの活動により地域で「サロン」等を展開しています。

「サロン」は介護予防・健康づくり・仲間づくりなどの交流の場です。

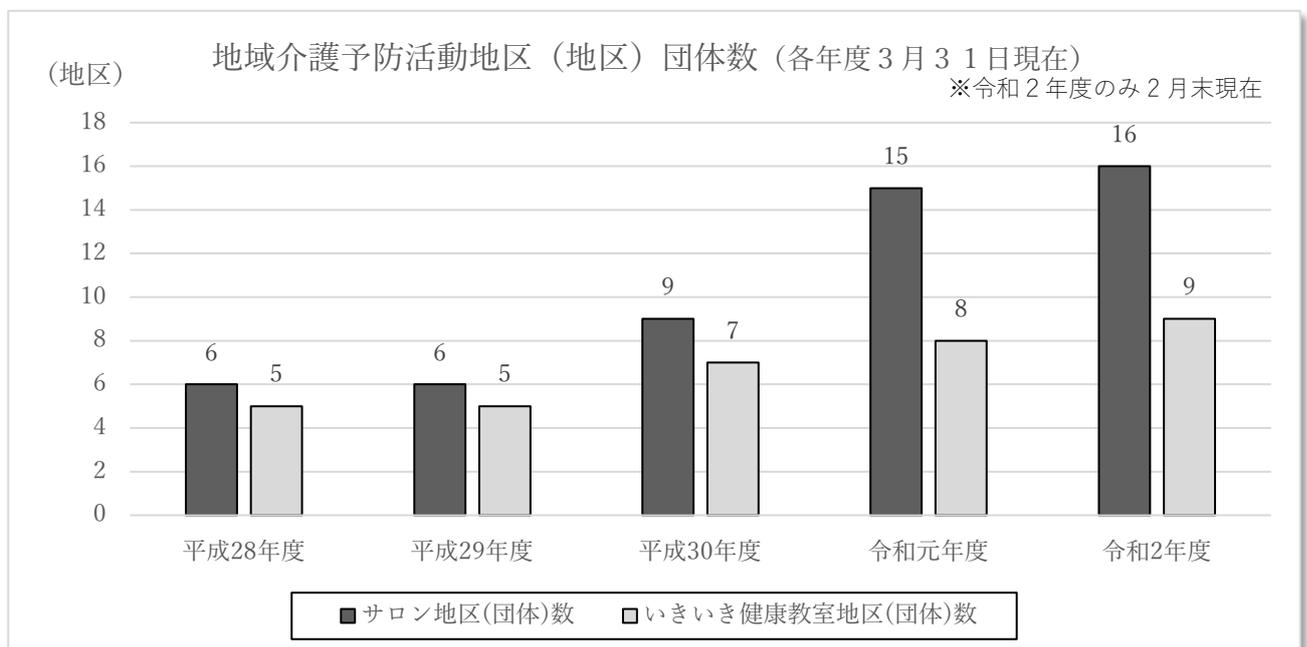
サロンの他に「いきいき健康教室」「介護予防教室」を7ヵ所で開催しています。

サロンの開催数は毎年増加していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防対策により自粛され開催回数が減少となりました。



(資料：埴町地域包括支援センター)

また、サロンといきいき健康教室の地区(団体)数も年々増加しており、令和2年度は平成28年度よりサロンが10地区増え、いきいき健康教室が4地区増えました。



(資料：埴町地域包括支援センター)

第3章 私たちの「まち」への思い

1 地域福祉をめぐる主な課題

(1) 町民アンケート調査結果による課題

町民の地域における生活課題や福祉課題及び地域福祉の推進に係る町民ニーズを的確に把握し、「埴町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、埴町内の全世帯2,785世帯を対象に、令和2年2月21日から3月31日の間アンケート調査を実施しました。アンケート調査の結果、浮かび上がった課題について次のように整理しました。

(1,187件回収/回収率42.6%)

① 地域での日常生活について

日常生活で不満と感じる点は、「買い物が不便」「交通の不便」という意見が多かった。

それ以外に「町の活気がない」「高齢者の居場所がない」との声も多く寄せられた。また、災害に関して「防犯や防災の支援、組織体制が分からない」ことや「台風19号の対応が遅かった」等の意見も多数あった。

これらの結果から、買い物困難者や高齢者・障がい者の移動支援の整備が必要である。また、町の活気や高齢者の居場所、防犯防災の支援については、地域を盛り上げるリーダーの育成とボランティア活動の普及も必要である。

② ご近所付き合いについて

ご近所付き合いがあるかでは、「困ったときに助け合える親しい人がいる」「お互いに訪問し合う人がいる」と答えた人が53.4%であった。

地域で気がかりな人がいるかについては、「ひとり暮らしの高齢者」が気になると答えた人が一番多かった。

ひとり暮らしの高齢者が気になる理由は、孤独死、認知症、火の不始末等の理由が考えられる。このような方たちを地域で見守っていく、助け合っている組織づくりが今後は重要である。

また、地域で気になる方に対して何かしているかという質問には「見守り」が多かったが、次いで「特に何もしていない」「関わるつもりはない」「支援したいが、どうしたらよいかわからない」との意見が多かった。

この結果から、面倒なことを放置し、どうしようもなくなってから相談に来るのではなく、早い段階で解決できるようにするために福祉教育を行い、地域の中でキーパーソンとなる人材を育てることが重要である。また、福祉教育は一度きりではなく、同じ人が何度か受けられるのが好ましい。

③ 住み慣れた地域で安心した生活をするために

困ったことがある場合、相談にのってもらおう相手は誰か、また、誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために有効な取り組みは何か調査したところ、相談に乗ってもらう人は「近くの親族」という意見が一番多かった。次いで「地域の友人」「隣近所の人」が多く、共助を高められる要素がある。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために必要な取り組みとしては、「災害時に要支援の人を地域で支える仕組み(自主防災組織とは違うもの)」が最も多かった。

助けや手伝いを必要とする人の様々な希望に応えられるサービスや相談できる窓口が求められており、埜町としても生活支援体制整備事業で検討を重ねている。また、身近な場所に相談できる窓口を増やすことについては、現在、社協で毎週月曜日に埜農村労働福祉会館で開催している心配ごと相談所を4地区で行うことで対応できると考える。今行っている事業をニーズに合わせて見直していくことが必要である。

④ 地域のイベントへの参加及びどんな地域にしたいか

地域の催しや行事に参加しているか、また、住んでいる地域をどのような地域にしていきたいか調査したところ、地域の催しや行事には「よく参加する」「たまに参加する」の意見が多く合わせて約80%を占めた。

どのような催しに参加しているかは「一斉清掃」「地域の祭り」「地区運動会またはスポーツ大会」「いきいき健康教室またはサロン活動」という順に意見が多かった。また、地域の催しや行事に参加できない理由は「参加したい行事がないから」「時間がないから」が主な回答だった。

住んでいる地域をどのような地域にしたいかは「若い世代に魅力のある地域」が38.6%で一位となり、次いで「安心して働ける場が多くある地域」「お金のかからない住みやすい地域」「福祉が充実した地域」となった。

結果から、若い世代にとってあまり魅力がない地域と思われているのが読み取れる。魅力ある活気溢れる地域にしていくために、地域のイベントへの参加率の高さを活かしたボランティア活動を広げていく必要がある。

⑤ 地域活動(ボランティア活動等)への参加について

地域活動(ボランティア活動等)への参加をしているか、参加している人はどのような活動をしているか、今後どのような活動に参加したいかの調査について、地域活動(ボランティア活動等)には全体で毎年37.2%が参加してるとの回答だった。活動の内容としては、「環境美化に関する活動」「防災や防犯、交通安全に関する活動」「高齢者に関する活動(見守りや施設訪問等)」が多かった。

地域活動に参加したいと思うかについては「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」が53.5%となり、若い世代でも参加の意欲が高く、20代で66.7%、30代で54%、40代で49.2%となった。

参加したい活動については、「環境美化に関する活動」が最も多く、次いで「高齢者に関する活動」「防災や防犯、交通安全等に関する活動」「スポーツ活動に関する活動」「学校・

子育てに関する活動」となった。若い世代の回答では「学校・子育てに関する活動」が最も多かった。

参加できない、したくない理由としては「体力的に難しい」「時間がない」「自分の趣味や自由な時間を優先したい」が多かった。これらの結果から、従来の「ボランティアは大変」というイメージを変えていくことが重要である。

「自分の趣味や自由な時間を優先したい」との意見をヒントに、趣味を教えてもらうボランティアなど、ボランティアの幅を広げて情報提供していく。また、1日がかりのボランティアではなく、少しの時間で手軽にできるボランティア「ちょいボラ」なども検討していく。若い世代も「参加したい」という回答が多いので、子育てに関するボランティアを検討し、若い世代が地域で活動できる機会を増やしていくなどの取組みが必要となる。

⑥ 福祉サービス全般について

福祉サービスに関する情報の入手先や地区の民生委員・児童委員、埜町社会福祉協議会の認知度について調査したところ、福祉サービスの情報をどの程度入手できているかでは、53.8%が「入手できていない」「わからない」との回答だった。入手している人は「役場窓口」や「広報誌」が最も多く、次いで「地域の回覧板」「IP電話」「社協窓口や社協広報誌」「近所・知り合い」の順になった。

地区の民生委員を知っているかでは「知らない」が36.5%を占めた。

埜町社会福祉協議会については「知らない」が44.9%となり、埜町社会福祉協議会の認知度の低さが課題である。

そんな中、埜町社会福祉協議会の事業について、「共同募金事業」と「日本赤十字事業」は「知っている」との回答が多かった。

埜町社会福祉協議会が実施している福祉サービスについては、介護事業の認知度が高く「ヘルパー事業」「デイサービス事業」については70%以上の人が「知っている」と回答した。

地域で生活する上で不足している福祉サービスについては、「高齢者に関するサービス」が最も多く、次いで「学校・子育てに関するサービス」「障がい者に関するサービス」となった。

地域福祉を進めるために、町・社会福祉協議会が取り組むべき施策の問いには「医療サービス体制の充実」の回答が最も多く、次いで「高齢者の在宅生活支援」「健康づくり事業の充実」「地域の支え合いの仕組みづくり」「子育て支援の充実」「福祉サービスに関する情報の充実」となった。

これらの結果から、「埜町社会福祉協議会」について、より多くの町民に、何をしているところかを知ってもらうことが必要。そのために広報誌の発行回数を増やす等広報の在り方を検討。また、「地域包括支援センター」についても、高齢者の相談窓口としては認知度が低いので今以上に周知が必要。不足しているサービスで「学校・子育てに関するサービス」との回答の割合が非常に高いことから子育てに関するサービスも課題であり、居場所づくり等検討が必要。その他、サロンについても女性向きのものが多いので、男性も参加したくなるような内容の検討が必要となる。

⑦ 災害時の対応について

自分の家族の中で災害などの緊急時に避難所への誘導など手助けが必要な方はいるか、地域の高齢者や障がいのある人のうち、災害発生時、避難所への移動に援助が必要な方がいるか把握しているかの調査については、自分の家族の中に災害等緊急時に手助けが必要な人は「いる」が25.3%(300人)との回答。

その中、家族以外に手助けを頼める人はいるかについては「いいえ」が11.2%の133人となった。

地域の中の高齢者や障がい者のうち、災害時避難所への移動に援助が必要な方はどのくらいいるか「把握している」と回答した人は31.1%であった。

また、災害時、自分の安全が確保できた際に高齢者や障がい者の手助けができるかについては「はい」との回答が53.1%となった。

災害発生に備え、日頃から話し合いをしているかの質問には「地域や避難所での災害対策に関する意見交換」と回答した人が最も多かった。

災害時に住民が支え合う地域づくりに何が必要かの質問には「自主防災組織の整備」との回答が最も多く、次いで「日頃からの見守り活動」「災害時手助けが必要な人の台帳整備」「日頃からの啓発活動」「地域での勉強会や話し合い」となった。

地域的に、災害により大きな被害を受けた経験があまりないため災害に対する意識が低い様子も窺える。防災訓練や防災教育を行い、いざという時に備えていくことが重要である。

また、家族以外に手助けを頼める人がいない人たちが11.2%(133人)いることから、今後どうするかが課題であり、手助けが必要な人の把握や緊急時の避難経路の把握をするために、日頃から「福祉台帳の整備」や「防災散歩」等を取り入れていく必要がある。

その他、高齢者や障がい者の手助けができると回答した人が半数以上おり、災害の研修や養成講座を開催し、ボランティア予備軍、ボランティア担い手として育成していく必要がある。

また、「地域での勉強会や話し合い」についてはサロンも活用し、「日頃からの見守り活動」については、見守り活動や避難訓練など「日頃から行う」ことで災害時に行かせるような事業を展開していくことも重要となる。

(2) 子育て世代へのアンケート調査結果による課題

「子育て世代」のニーズを的確に把握し、「埴町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、はなわこども園及び笹原幼稚園園児の保護者、埴小学校及び笹原小学校児童の保護者605人を対象に、令和2年7月22日から8月31日の間アンケート調査を実施しました。アンケート調査の結果、浮かび上がった課題について次のように整理しました。

(293人回収/回収率48.4%)

① 保育園、幼稚園、小学校が休みの日について

休園、休校の際にお子さんを見てもらえる親族・知人はいるかについて、「日常的に祖父母等の親族に見てもらえる」39.3%と「緊急時もしくは用事の際には祖父母の親族に見てもらえる」が49.4%で合わせて88.7%と多くの方が土地柄、親族が近くにおり、頼れている結果となったが、「いずれもない」と回答した人が29人はおり、緊急時や用事があっても親族や友人を頼れない人が少なからずいることが分かった。

そのような方が一人で悩まない、いざという時相談できるような場につなげられることが重要である。

② ご近所付き合いについて

ご近所とどの程度お付き合いしているかについて、「会えば挨拶や声がけをする」が52.6%と半数以上を占めた。次いで「立ち話をする」が23.9%、「家を行き来する」が9.6%と、若い世代も地域で孤立することなく、ご近所と友好的な付き合いをしているようであった。

③ お子さんが病気やけがをした時や保護者の用事の時の対応について

お子さんが病気やけがをした時の一番多い対応について調査したところ、「母が仕事を休む」という回答が66.8%で圧倒的に多かった。次いで「親族・知人に子どもを見てもらう」が16.1%、「父が仕事を休む」は3.4%であった。

また、保護者の用事(冠婚葬祭、病気など)が長時間に及ぶ場合の対応についても最も多いのが「母が仕事を休む」で41.1%、次いで「親族・知人に子どもを見てもらう」が35.3%となり、その他「仕方なく子どもを同行させる」や「仕方なく子どもだけで留守番させる」の意見もあり、最も少ない意見として「父が仕事を休む」3.1%であった。

いざという時親族に頼れる環境があることが読み取れるが、町内における母親の育児と仕事の両立、父親の育児参加についても今後注視していく必要がある。

④ 子育ての環境を良くするために一番あったらいいものについて

子育ての環境を良くするために、町内に一番あったらいいと思うものを質問したところ「子どもと一緒に出かけやすく楽しめる場所」が47.4%と約半数を占め最も多い回答となった。

次いで「地域の施設で地域住民が共助する学童保育類似の運営(ファミリーサポートセンター等)」が18.1%、「一時預かり保育(保育園や幼稚園に通ってない子どもでも利用できる)」が14.3%となった。

町内にある公園等、既存の子どもの遊べる場所が知られていないこともあり、町外に遊びに行っているという意見もあったため、気軽に、子どもと一緒に出かけやすく楽しめる場所として、町内の遊び場の情報を提供していくことを検討する。

また、ファミリーサポートセンターや一時預かりの要望について、町と情報交換を図っていく。

⑤ ボランティア活動について

ボランティアに興味があるかの調査について「ある」と回答した人が35.7%おり、若い世代にもボランティアに関心がある人が一定数いることがわかった。

内容については、「子育て支援に関するボランティア」が70.2%と最も多く、次いで「高齢者に関するボランティア」「災害時支援・防災に関するボランティア」がどちらも28.8%であった。

若い世代が気軽に参加できるような、興味を持っている内容のボランティアの企画や情報を提供することで活動につなげていくことが重要。

(3) 民生児童委員との方部委員会結果による課題

民生委員・児童委員の活動を通じて感じる地域の課題等について把握し、「埴町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、令和2年8月19日、埴町民生児童委員協議会の方部委員会で4つの方部別に意見をお聞きしました。その結果、浮かび上がった課題について次のように整理しました。

(出席民生委員：埴方部9名、高城方部6名、常豊方部6名、笹原方部12名 計33名)

① 地域での課題について

所属する地域での住民同士のつながりについては全方部で「つながりは強い」と感じている。特に高齢者のつながりは強い。しかし、昔に比べるとだんだんと住民同士のつながりは薄れてきているように思う。つながりが薄れてきている原因として、地域での交流の場がなくなったことが考えられる。

このことから、地域交流の場の提供等地域のつながりを弱らせないことが重要である。

② 地域で孤立した人や引きこもりの人について

男性のひとり暮らし高齢者が引きこもりがちである。

若い世代の引きこもりも把握しているが、地域と関わりがなくても本人はその生活に満足して楽しんでいると感じ、関わり方がわからない。引きこもりや孤立している人を把握していても対応が難しく苦慮している。

また、引きこもりや孤立した人が出ないように地域での声掛けや近所の人気が気にして立ち寄る等している。

ひとり暮らしの高齢男性が引きこもりがちになりやすいことから、現在、各地域で開催しているサロンについて内容の充実を図り、男性の参加を促進していくことが必要である。

③ 福祉の活動について地域の人の関心の高さは

福祉の活動について地域の人の関心は低いと感じている。しかし、近所同士の見守りや高齢者宅の見守りは全方部、自然と出来ていると感じている。

無理せず、自然な見守りが今後も地域で出来るよう、地域のつながりを確保していくことが重要である。

④ 福祉活動を行いやすくするために必要なものについて

子どもの時から福祉に関する教育、地域のできるボランティアに関する取り組み、地域交流の場、行政区との連携等の意見があがり、今後の課題である。

(4) サロン参加者への聞き取り調査結果による課題

町民アンケートの結果、「交通が不便」「高齢者の居場所がほしい」などの声が多くありました。アンケートでは把握できない具体的な部分のニーズを調査し「埴町地域福祉活動計画」策定の基礎資料とするため、高齢者が多く集う「いきいき健康教室・サロン」の参加者を対象に、令和2年7月27日から9月17日の間サロンを訪問し聞き取り調査を行いました。その結果、浮かび上がった課題について次のように整理しました。

(9サロン 79名回答)

① 高齢者の移動手段の問題について

現在、生活する上で移動手段に「困っている」と回答した人は79名中16名で、その中で最も困ることは「病院」15名、「買い物」1名だった。

その方たちが現在移動に不便さを感じる中でどのような手段で移動しているか質問したところ、最も多いのが「タクシー」で7名、次いで「家族の車」3名、「バス」「友人、近所の方の車」「徒歩」が1名ずつとなり、「その他(行きは家族の車、帰りはタクシー)」が3名となった。

現在は移動手段に困っていないが、今後、生活する上で移動手段に「困る」と思うと答えた方は79名中60名と大幅に増えた。

今後困ると考える人たちで最も困ると思うことは「病院」が38名と圧倒的に多く、その他「買い物」9名、「金融機関」3名、「その他(全ての移動に困る)」11名という結果になった。

どんなサービスがあればよいかについては「福祉バス等を活用した取り組み(買い物ツアー、デマンドバス)」が43名と大半を占め、次いで「地域(ボランティア)の方が乗せてくれる仕組み」13名、「移動販売(食料、生活用品等)」12名となった。

その他自由意見として、「昔あった御用聞き」や「病院が送迎車を出す」等の意見が出た。

高齢者の移動手段については、安心して地域で暮らしていくためにも取り組むべき重要課題であり、移動支援の整備、買い物困難者支援策について検討していく。

② 高齢者の居場所について

高齢者の居場所についてどのような居場所が欲しいか質問したところ最も多かったのが、「いつでも誰でも行くことができ、自由に過ごすことができる場所」と回答した人で33名となった。

次いで「自由に過ごせて低価格で会食ができる場所」20名、「低価格で会食ができる場所」13名となった。

高齢者が自由に集まれる居場所づくりが課題であり、今後、様々な社会資源を活用した居場所づくりの推進が重要である。

第2部

地域福祉活動計画で 目指すこと

第2部 地域福祉活動計画で目指すこと

第1章 計画の基本理念

計画を通して実現を目指すこと、この計画により「自分たちのまちをどのようなまちにしていきたいか」という将来にわたるビジョンを掲げたものが基本理念です。

【基本理念】

共に支え合い 笑顔あふれる 地域の輪

今、地域社会は個人主義的傾向が強まり、これまで地域の生活を支えてきた人と人とお互いに思いやり、支え合う「地域のきずな」が弱まり、ご近所のつながりが薄れ、地域を担う若い人が都市部へ移動し、支え合い機能が弱体化しています。

少子高齢化や核家族化、単身世帯の増加により家庭内の「きずな」も弱まってきていることや、ひとり暮らしや夫婦のみの高齢者世帯の増加により、これまで安心のシステムとして機能してきた家庭内の助け合い機能も弱体化しています。

以上のことから、地域における生活課題が増大・多様化する中において現在の制度化された公的な福祉サービスのみで、すべての課題に対応していくことは限界があります。

このため、福祉サービスの充実を図るとともに、地域住民の皆さまとともに「新たな支え合い」を構築する必要があります。

この計画の目指すところは、「笑顔のあふれる地域」をつくっていくことです。

みんなで、できることから始めませんか？

第2章 計画の基本目標

基本理念の実現に向け、計画の方向性と目指す姿、必要となる施策や取り組みの方向性をスローガンとして明記したものです。

基本目標1 共に支え合う人づくり

住んでいる地域をはじめ、あらゆる場や様々な分野で自らの知識や経験も活かしながら、ボランティア活動などに主体的、積極的に取り組む「人づくり」をすすめます。

基本目標2 安心して暮らせる仕組みづくり

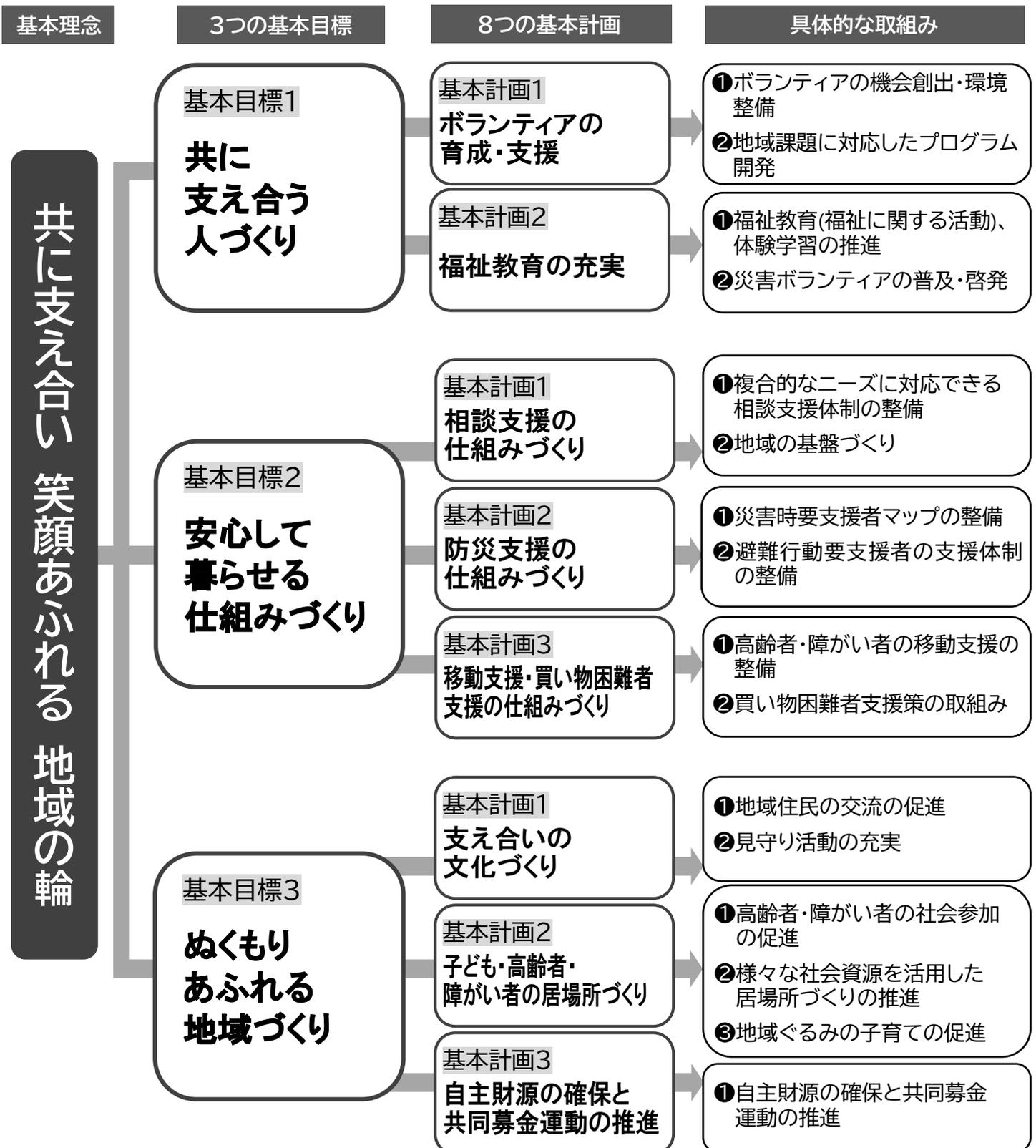
必要な人に支援が届く体制を整備するため、専門機関や専門職だけでなく、地域住民の方の力も借りて協働で支え合う「ネットワークづくり」をすすめます。

基本目標2 ぬくもりあふれる地域づくり

「地域づくり」はとても重要なテーマです。地域のつながりを増やして、地域への関心を高めてもらい地域の課題解決へつなげていきます。

第3章 計画の体系

基本理念実現のための基本目標、基本目標を実現するためにみんなで行う具体的な取組みの関係を体系図にまとめました。



第3部

目標達成のための取組み (実施事業)

第3部 目標達成のための取組み(実施事業)

基本目標に向かって、課題に対応する具体的な取組みを整理します。
 その中で、既存事業の再構築を含む活用や、各主体が取り組むことを明確にします。

第1章

【基本目標1】 共に支え合う人づくり

住んでいる地域をはじめ、あらゆる場や様々な分野で自らの知識や経験も活かしながら、ボランティア活動などに主体的、積極的に取り組む「人づくり」をすすめます。

基本計画
1

ボランティアの育成・支援

取組み
①

ボランティアの機会創出・環境整備

活動1 ちょいボラの実施

身近なことでできる”ちょっとした”ボランティア。ボランティア活動の経験がない方を対象とした、最初の一步となる、”ちょいボラ”活動の提供。短時間で自分のペースで参加できるボランティア活動の機会をつくり、「ボランティア」を身近に感じてもらい、活動へとつなげる。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 社協で開催するボランティア活動に積極的に参加します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域でできることの情報提供に協力します。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> ちょっとした、手軽にできるボランティア活動の企画、開催をします。			
令和3年度 企画・検討	令和4年度 実施	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し

取組み① ボランティアの機会創出・環境整備

取組み① ボランティアの機会創出・環境整備

活動2 地域での福祉活動・ボランティア活動の機会の提供				
<p>ボランティア活動の活性化を図るため、情報収集や活動希望者・ボランティア依頼者のニーズを掘り起こし、ボランティア活動に関する情報提供の充実強化、活動場所の拡充を図る。</p>				
住民の取組み	<input type="checkbox"/> ボランティア活動に関する情報の提供に協力します。 <input type="checkbox"/> 社協で開催するボランティア活動に積極的に参加します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> ニーズなどの情報提供やボランティアができる場の提供に努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> ボランティア活動に必要な情報やニーズの発掘に努めます。 <input type="checkbox"/> ニーズに応じてボランティア活動の場、機会の拡充を図ります。			
令和3年度	令和4年度	令和5年度 企画・検討	令和6年度 実施	令和7年度
				➔

活動3 福祉活動の担い手やボランティア同士の交流、情報の交換				
<p>福祉活動の担い手やボランティア活動者同士の交流、情報交換の場をつくり、ボランティア同士のネットワークづくりに努める。</p>				
住民の取組み	<input type="checkbox"/> ボランティア活動をする仲間との交流や情報交換を積極的に行います。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> ボランティア活動をする仲間を増やすことに努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> ボランティア活動のイメージアップに努めます。 <input type="checkbox"/> ボランティアを行う人の交流、情報交換の場をつくりネットワーク構築に努めます。			
令和3年度 継続	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し
				➔

活動4 外出・移動支援のボランティア育成

移動支援はリスクなどハードルが高く、安全で利用しやすい外出・移動支援のあり方を拡げていくために、地域住民に外出・移動支援について理解を深めるために講座を開催する。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 社協が開催する講座に積極的に参加します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域住民の方に講座への参加を促進することに努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 外出・移動支援についての講座を開催します。 <input type="checkbox"/> 地域住民の方の積極的な参加を促進します。			
令和3年度	令和4年度 企画・検討	令和5年度 実施	令和6年度 	令和7年度 検証・見直し

活動5 有償ボランティアの育成

高齢者等の支援を「我が事」として取組み、身近な助け合いを大切に、互いに役割を持ち、相互に自分らしく活躍できる担い手・ボランティアを育成する。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> ボランティア活動に参加する気持ちを大切にします。 <input type="checkbox"/> 人のために、自分ができるとは何かを考えていきます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域住民の方に講座等への参加を促進することに努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 有償ボランティアの担い手を養成する講座を開催します。 <input type="checkbox"/> 地域住民の方の積極的な参加を促進します。			
令和3年度 実施	令和4年度	令和5年度	令和6年度 	令和7年度 検証・見直し

**取組み
②**

地域課題に対応したプログラムの開発

活動1 ボランティア内容の充実

地域の新しいニーズをキャッチして先駆的に取り組み、「できる可能性」に目を向け、制度に基づくサービスでは対応できない生活上のニーズへの応答を目指す。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 地域での課題に関して情報の提供に努めます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域での課題や地域でできることの情報提供に協力します。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 地域ごとに新しいニーズ等の情報収集に努め、ニーズに対応したサービスの開発に努めます。			
令和3年度	令和4年度	令和5年度 企画・検討	令和6年度 実施	令和7年度 

活動2 有償ボランティア活動の創出

ちょっとした困りごとをサポートする多様な助け合い活動の創出とネットワークづくりを進め、生活支援サービス等の開発・拡充を図る。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 助け合いの気持ちを大切にします。 <input type="checkbox"/> 地域での課題に関して情報の提供に努めます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域で手助けが必要な人の把握に努めます。 <input type="checkbox"/> 地域での課題や地域でできることの情報提供に協力します。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 手助けが必要な人を地域で見守っていける体制の整備に努めます。			
令和3年度 実施	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し 

取組み② 地域課題に対応したプログラムの開発

取組み
①

福祉教育(福祉に関する活動)・体験学習の推進

活動1 サマーショートボランティアの実施 ※既存事業

福祉教育の一環で、高校生の夏休み期間を活用し、介護、福祉の現場でボランティア活動を経験してもらう。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 家庭でも「福祉」や「ボランティア」について話す機会をつくれます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> サマーショートボランティア受け入れに協力します。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 福祉教育の一環として継続して事業を行っていきます。			
令和3年度 継続	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し

活動2 お手伝いボランティアの実施

中高生が福祉教育の一環として、高齢者宅へ訪問し掃除など簡単にできるお手伝いを体験する。また、高齢者のお話相手などを体験し、介護事業にも興味を持ってもらうことから始めていく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 家庭でも「福祉」や「ボランティア」について話す機会をつくれます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> お手伝いボランティア受け入れに協力します。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 福祉教育の一環として事業を行い、介護についても興味をもってもらえる機会をつくれます。			
令和3年度	令和4年度	令和5年度 企画・検討	令和6年度 実施	令和7年度 検証・見直し

取組み①福祉教育(福祉に関する活動)・体験学習の推進

活動3 多世代を対象とした研修会の開催

疑似体験等従来の福祉教育にとどまらず、地域貢献学習を積極的に推進するため、地域の誰もが学習の登場人物となり得ることを理解してもらい、子どもから大人までと一緒に研修を行うシステムを構築していく。地域の方々も研修を通して新たな課題等につく効果も期待する。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 研修会に積極的に参加します。
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域住民の方に研修会への参加を促進することに努めます。
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 住民の福祉意識の向上と福祉への理解を深めてもらう機会をつくれます。 <input type="checkbox"/> 同じ人が何度も受講できる研修会を企画します。 <input type="checkbox"/> 幅広い世代に福祉について興味をもってもらい、楽しく福祉を理解してもらう機会を創出します。 <input type="checkbox"/> 受講者から、地域のリーダーとなれるような人材の発掘に努めます。
令和3年度 企画・実施	令和4年度 見直し
令和6年度 企画・実施	令和7年度

**取組み
②**

災害ボランティアの普及・啓発

活動1 災害に関するボランティア予備軍・担い手育成

町民の災害に対する意識を高めることを第一の目的とし、災害時のボランティアの役割等を学んでもらい、ボランティアの担い手を育成していく。
災害ボランティアセンターの運営についても研修していく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 災害ボランティア活動についての知識を深めます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域の人たちの積極的な研修参加を促進します。 <input type="checkbox"/> 日ごろから社協との連携に努めていきます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 町民の災害に対する意識を高めることを目的に研修会を開催します。 <input type="checkbox"/> 災害ボランティアの役割について、町民の理解を得られるよう周知に努めていきます。 <input type="checkbox"/> 日ごろから地域の人たちとの連携に努めていきます。			
令和3年度 企画・実施	令和4年度 →	令和5年度 検証・見直し	令和6年度 企画・実施	令和7年度 →

取組み② 災害ボランティアの普及・啓発

第2章

【基本目標2】
安心して暮らせる仕組みづくり

必要な人に支援が届く体制を整備するため、専門機関や専門職だけでなく、地域住民の方の力も借りて協働で支え合う「ネットワークづくり」をすすめます。

基本計画
1

相談支援のしくみづくり

取組み① 複合的なニーズに対応できる相談支援体制の整備

取組み① 複合的なニーズに対応できる相談支援体制の整備

活動1 アウトリーチ機能の整備				
<p>アウトリーチ機能を充実させるため、職員が地域に出向き、人と人、人と地域をつなげ住民同士で助け合える継続的なシステムの構築を行っていく。</p>				
住民の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 不安や悩みを一人で抱え込まず、相談員などに相談します。 <input type="checkbox"/> 困ったことがあったら、各種相談窓口を把握し、有効に活用します。 <input type="checkbox"/> 困った人がいたら、民生委員・児童委員や地域包括支援センターなどに連絡します。 			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 地域団体(民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、サロン等)の会合において、相談機関の説明や周知する機会を設け、情報提供に努めます。 <input type="checkbox"/> 民生委員活動において、相談を受け止め、関係機関につなぐ役割としての活動を継続し、充実を図ります。 <input type="checkbox"/> 社協との連携に努めていきます。 			
社協の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> アウトリーチ機能を充実させるため、地域に出向き情報の収集に努めていきます。 <input type="checkbox"/> 自らSOSを出せない人たちに対して訪問し、支援の入り口を積極的に作っていきます。 <input type="checkbox"/> 地域との連携に努めていきます。 			
令和3年度	令和4年度 企画・検討	令和5年度 実施	令和6年度 →	令和7年度 検証・見直し

活動2 総合相談窓口の創設

誰もが気軽に相談できる、相談機会を設け、課題解決に向け支援を行う。

他機関と連携しワンストップサービスに努め、多様化、複合化する相談に対し、総合的、包括的な支援ができる体制づくりを進める。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 不安や悩みを一人で抱え込まず、相談します。 <input type="checkbox"/> 困った人がいたら、総合相談窓口連絡します。				
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域団体(民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、サロン等)の会合において、総合相談窓口の説明や周知する機会を設け、情報提供に努めます。				
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 気軽に相談できる窓口を設置し、関係機関へつなげる支援を行います。				
令和3年度	令和4年度 企画・検討	令和5年度	令和6年度 実施	令和7年度 検証・見直し	

活動3 関係機関との連携(多職種連携会議の創設)

様々な相談に対して支援ができる体制づくりとして、関係機関と顔が見える関係をつくるため、多職種連携会議を創設し、連携強化を図っていく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 社協が発信する情報の収集に努めていきます。(広報誌、チラシ、ホームページ、SNSなど)				
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 社協との連携強化に努めていきます。 <input type="checkbox"/> 地域での話し合いの場を通して、多職種間の連携に努めていきます。				
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 多職種連携会議を創設します。 <input type="checkbox"/> 多職種連携会議の中で、相談支援体制のしくみを作っていきます。 <input type="checkbox"/> 関係機関との連携に努めていきます。				
令和3年度	令和4年度	令和5年度 企画・検討	令和6年度	令和7年度	

基本計画
2

防災支援のしくみづくり

取組み① 災害時要支援者マップの整備

取組み
①

災害時要支援者マップの整備

活動1 災害時要支援者マップの整備

災害時緊急時に手助けを必要とする人がいることを地域住民に把握してもらう目的で災害時要支援者マップを整備する。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 地域の人に関心を持つことを心がけます。
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域の中の要支援者の把握に努めます。 <input type="checkbox"/> 要支援者に関する情報提供に努めます。
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 災害時要支援者マップを作成します。 <input type="checkbox"/> 関係機関との連携に努めます。 <input type="checkbox"/> 地域との連携に努めていきます。
令和3年度 実施	令和4年度 令和5年度 令和6年度 令和7年度 検証・見直し

**取組み
②**

避難行動要支援者の支援体制の整備

活動1 防災散歩の実施

災害時緊急時に避難をスムーズに行えるよう、避難経路を日ごろから把握しておくため、地区ごと、地域ごとに防災散歩を実施していく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 防災散歩に積極的に参加します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域の人に防災散歩への参加を促進します。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 地区ごとにサロン等も活用し、定期的に防災散歩を実施します。			
令和3年度 企画・実施	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し

活動2 地区別避難訓練の実施

災害時緊急時に地域住民が適切な対応ができるよう、地区別に災害を想定した避難訓練を実施する。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 避難訓練に積極的に参加します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域の人に避難訓練への参加を促進します。 <input type="checkbox"/> 地域住民に避難所、避難経路の周知を行います。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 地区ごとに避難訓練を実施します。 <input type="checkbox"/> 住民に避難所、避難経路等の周知を行います。			
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 企画・検討	令和7年度 実施

取組み② 避難行動要支援者の支援体制の整備

取組み① 高齢者、障がい者の移動支援の整備

取組み
①

高齢者、障がい者の移動支援の整備

活動1 外出・移動支援の整備

自分の車で友人や知り合いを目的地まで送っていくような「ちょっとそこまで」の移動を、地域の住民が支える仕組みとして取り組めるよう、関係者や地域等と協議の場を設け、課題の集約や支援策の検討等を行い、外出・移動サービス創出に向けた取り組みを検討する。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 移動に関する情報提供に努めます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 移動支援に関する協議の場に積極的に参加していきます。 <input type="checkbox"/> 移動困難者に関する情報提供に努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 関係機関や地域と連携し、地域の中で移動支援のしくみを構築していきます。			
令和3年度	令和4年度 企画・検討	令和5年度 実施	令和6年度 →	令和7年度 検証・見直し

取組み② 買い物困難者支援策の取組み

活動1 配食、移動販売の検討

食事作り、食事の確保にお困りの方に対するサービスとして配食事業の検討。
 移動販売を実施している店舗へ働きかけ、買い物困難者へ必要な情報を届けてつなげる取組みの実施。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 買い物困難者に関する情報提供に努めます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 配食や移動販売の検討に関する協議の場に積極的に参加します。 <input type="checkbox"/> 配食、移動販売に関する情報の提供に努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 配食、移動販売事業について検討していきます。 <input type="checkbox"/> 移動販売を実施している店舗と連携し、必要な情報の提供を行っていきます。			
令和3年度 企画・検討	令和4年度 →	令和5年度 実施	令和6年度 →	令和7年度 検証・見直し

取組み② 買い物困難者支援策の取組み

第3章

【基本目標3】
めくもりあふれる地域づくり

「地域づくり」はとても重要なテーマです。
地域のつながりを増やして、地域への関心を高めてもらい地域の課題解決へ
つなげていきます。

基本計画
1

支え合いの文化づくり

取組み① 地域住民の交流の促進

取組み① 地域住民の交流の促進

活動1 サロンの充実(男性も参加できる内容の検討)				
地域の活動に参加する男性が少ないという課題を解決するため、サロンの内容を見直し、男性が参加したくなる内容を盛り込んでいく。				
住民の取組み	<input type="checkbox"/> サロンに積極的に参加します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域の会合等において、サロン参加を呼び掛けます。 <input type="checkbox"/> サロンの内容について、男性も参加しやすい内容の検討を行います。 <input type="checkbox"/> 関係機関との連携に努めます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> サロンの内容について、サロンの参加者と協議し検討をしていきます。 <input type="checkbox"/> 地域との連携に努めていきます。			
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
検討しながら実施	→			検証・見直し

活動2 世代間交流の検討

若い世代と高齢者の交流がないという課題に対応するため世代間交流事業を地区または地域ごとに企画検討し、実施していく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 日ごろより、あいさつや声がけに努め、地域におけるふれあいを実践します。 <input type="checkbox"/> 地域活動(清掃活動等)に積極的に参加し、地域との関わりを深めます。 <input type="checkbox"/> 様々な年代の方が集う事業に積極的に参加します。
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域において、様々な年代が交流できるような活動を検討します。
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 地域ごとに様々な年代が交流できる活動を、地域の人と企画検討していきます。
令和3年度 企画・実施	令和4年度 令和5年度 令和6年度 令和7年度

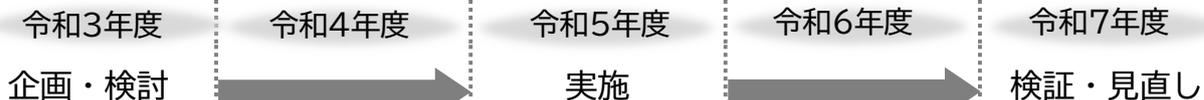
**取組み
② 見守り活動の充実**

活動1 地区ごとの連携会議の組織化

見守り活動を充実させるため、地区ごとに連携会議を設ける。地区民生委員や高齢者見守り隊、社協職員、地域包括支援センター職員等で構成し、見守り活動について定期的に集まり情報共有し問題や心配事について話し合う。

地域包括支援センター職員の専門的なアドバイスなども聞く機会も設ける。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 地域で孤立している人がいたら、どのように関わっていけるのかを皆で考えます。 <input type="checkbox"/> 地域で見守り、支え合うためのネットワークの一員となるよう努めます。 <input type="checkbox"/> 見守りに関する意識を持ち、地域の見守り活動へ積極的に参加します。
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域における見守り活動を推進します。 <input type="checkbox"/> 関係機関との連携に努めます。 <input type="checkbox"/> 連携会議に積極的に参加します。
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 地区ごとに見守りに関する連携会議を創設します。 <input type="checkbox"/> 地域、関係機関との連携に努めていきます。



取組み②見守り活動の充実

取組み
①

高齢者、障がい者の社会参加の促進

活動1 高齢者の就労支援

就労を希望する高齢者が無理なく働ける場につなげていく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 就労希望者は情報の収集に努めます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 地域の高齢者の社会参加に積極的に協力をします。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> ハローワークやシルバー人材センターと連携し、就労を希望する高齢者に情報の提供を行っていきます。			
令和3年度 企画・検討	令和4年度 実施	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し

活動2 障がい者の社会参加の促進

障がい者が社会参加できる機会を増やすため、関係機関と連携しながら、環境を整備していく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 障がい者に関する情報の提供を行っていきます。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 障がい者に関する情報の提供を行います。 <input type="checkbox"/> 町内の福祉施設と連携し、身体障がい者福祉会や心身障がい児(者)親の会などの団体で、できることの検討を行っていきます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 福祉団体や地域団体と協議しながら、障がい者の社会参加の機会をつくっていきます。			
令和3年度 企画・検討	令和4年度 実施	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し

取組み ② 様々な社会資源を活用した居場所づくりの推進

取組み② 様々な社会資源を活用した居場所づくりの推進

活動1 空き家や空き店舗を活用した居場所づくりの推進

社会資源を活用した居場所づくりの推進するため、空き家や空き店舗を活用した高齢者の居場所づくりを進めていく。居場所としては、「自由に過ごせる場所」や「低価格で会食できる場所」を検討していく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 空き家に関する情報の提供を行います。				
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 空き家や空き店舗に関する情報の提供を行います。 <input type="checkbox"/> 高齢者の居場所づくりについて、社協や関係機関と情報交換を行っていきます。				
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 社会資源を活かし、地域の人たちと連携しながら、高齢者の居場所をつくっていきます。				
令和3年度	令和4年度 企画・検討	令和5年度	令和6年度 実施	令和7年度 検証・見直し	

取組み
③

地域ぐるみでの子育ての促進

活動1 子どもの遊び場の提供

社会資源を活用した子どもの居場所づくりを推進するため、空き家や空き店舗を活用し、子どもが遊べる場所づくりを進めていく。

住民の取組み	<input type="checkbox"/> 空き家に関する情報の提供を行います。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 空き家や空き店舗に関する情報の提供を行います。 <input type="checkbox"/> 子どもの遊び場づくりについて、社協や関係機関と情報交換を行っていきます。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 社会資源を活かし、地域の人たちや関係機関と連携しながら、子どもの遊び場をつくっていきます。			
令和3年度 企画・実施	令和4年度 	令和5年度 見直し	令和6年度 実施	令和7年度 検証・見直し

自主財源の確保と共同募金運動の推進

取組み① 自主財源の確保と共同募金運動の推進

取組み① 自主財源の確保と共同募金運動の推進

活動1 社協会費と共同募金の維持・検討				
福祉活動を理解してもらい、寄付や募金活動に協力を促す。 社協会員会費の募集方法を検討し、自主財源の確保に努める。 共同募金委員会運営委員を開催し、配分方法について検討していく。				
住民の取組み	<input type="checkbox"/> 福祉活動の理解を努め、活動への寄付や募金活動に協力します。			
地域の取組み (ボランティアや住民組織、福祉団体等)	<input type="checkbox"/> 共同募金運動の推進に協力します。 <input type="checkbox"/> 共同募金運営委員会において、募金運動の活性化を図ります。			
社協の取組み	<input type="checkbox"/> 社協活動への理解を促進するとともに地域福祉活動に対する財源確保に努めます。 (会員増強運動や地域福祉事業への寄付金の活用など) <input type="checkbox"/> 共同募金委員会と連携し、募金運動の活性化を図るとともに地域福祉活動の財源確保に努めます。			
令和3年度 企画・検討	令和4年度 実施	令和5年度	令和6年度	令和7年度 検証・見直し

資料編

1 町民アンケート調査結果

町民アンケート調査の概要

1 調査の目的

埴町社会福祉協議会「以下「埴町社協」という。」では、本調査において、町民の地域における生活課題や福祉課題及び地域福祉の推進に係る町民ニーズを的確に把握し、「埴町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、アンケートを実施した。

2 調査の内容

上記の目的を達成するため、本調査では下記の項目について質問を実施した。

- (1) あなた自身について（問1～問8）
- (2) 地域での日常生活について（問9～問22）
- (3) 地域活動（ボランティア活動等）への参加について（問23～問28）
- (4) 福祉サービス全般について（問29～問36）
- (5) 災害時の対応について（問37～問42）

3 調査地域 埴町内全域

4 調査対象者 埴町内の全世帯：2, 785世帯（世帯において代表の方1名が回答）

5 調査方法

調査方法は次のとおりである。

- (1) 調査方法
2月21日（金）付けの回覧で全戸配布し、返信用封筒で回収した。
- (2) 調査期間
令和2年2月21日（金）から3月31日（火）

6 回収結果 有効回答数：1, 187人（回収率：42.6%）

7 その他

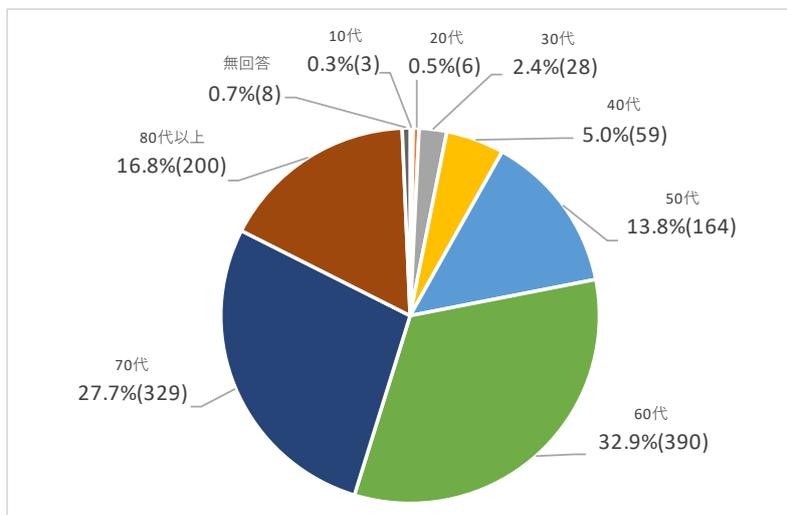
- 本文及びグラフの（ ）内に記載している数字は、各回答項目の回答数である。
- 回答率については、「各回答項目の回答数／有効回答数」で算出している。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- 集計では、回答の比率を小数点第二位で四捨五入して標記しているため、各項目の合計100%にならない場合がある。

1 あなた自身について

問1 年齢 (1つだけに○)

【N = 1187】

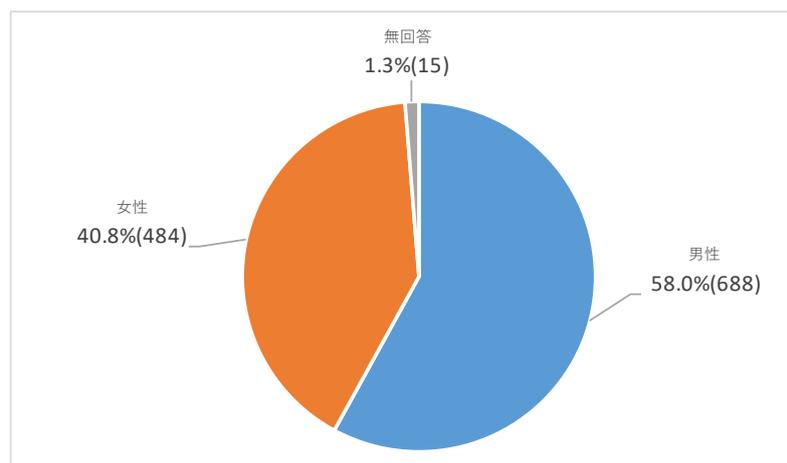
- 1 10代
- 2 20代
- 3 30代
- 4 40代
- 5 50代
- 6 60代
- 7 70代
- 8 80代以上
- 9 無回答



問2 性別 (1つだけに○)

【N = 1187】

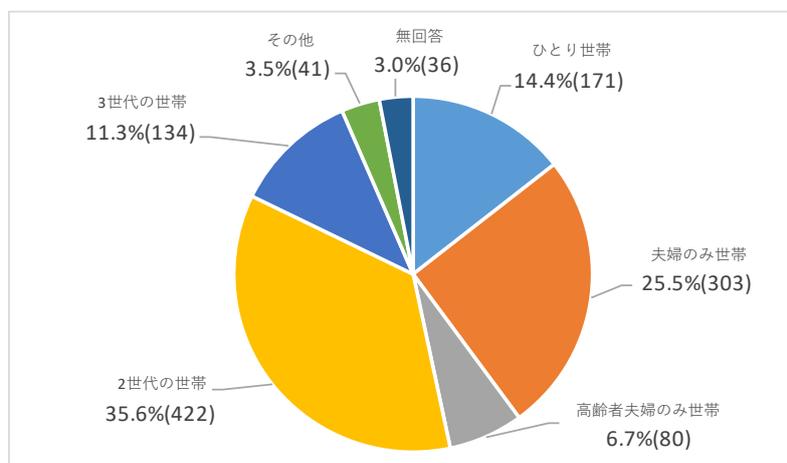
- 1 男性
- 2 女性
- 3 無回答



問3 家族構成 (1つだけに○)

【N = 1187】

- 1 ひとり世帯
- 2 夫婦のみ世帯
- 3 高齢者夫婦のみ世帯
(ご夫婦ともに65歳以上)
- 4 2世代の世帯
- 5 3世代の世帯
- 6 その他
- 7 無回答



(その他記載欄)

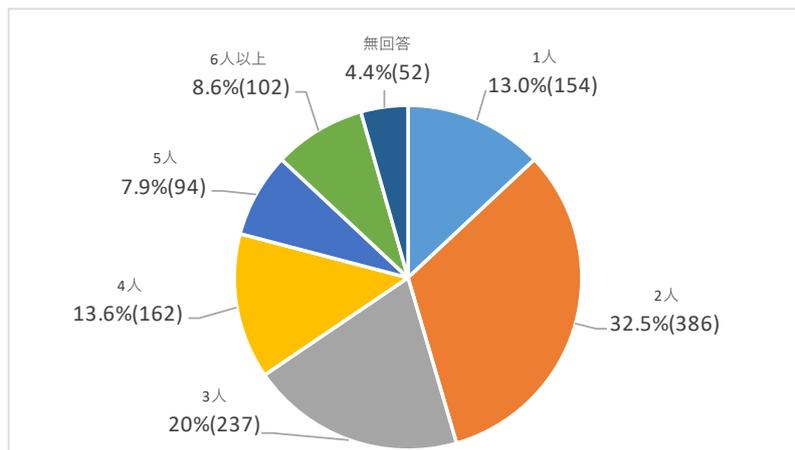
※()内の数字は同回答数

- | | | | |
|------------|---------|------|------------|
| ①夫婦・娘夫婦・妹 | ②息子と3人 | ③姉・弟 | ④同居人 |
| ⑤夫婦・娘・義妹 | ⑥妹と2人 | ⑦6人 | ⑧母はホームに入所 |
| ⑨4世代の世帯(3) | ⑩妹の子供 | ⑪3人 | ⑫高齢夫婦・祖母・弟 |
| ⑬子と2人 | ⑭兄・弟(2) | | |

問4 あなたも含めた同居人数 (1つだけに○)

【N = 1187】

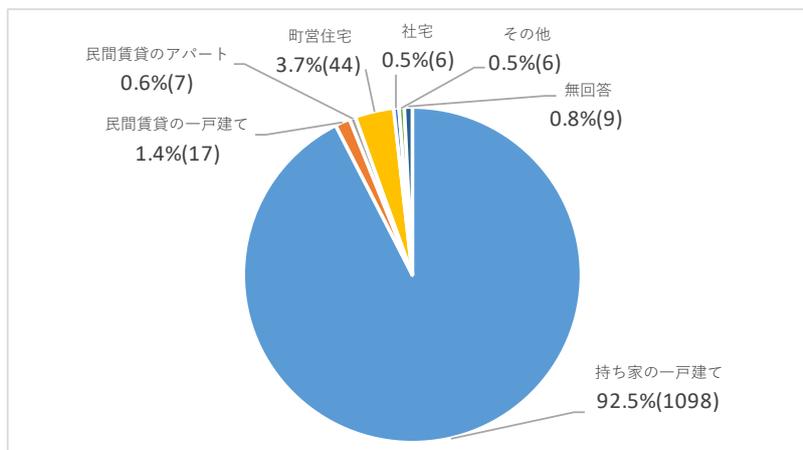
- 1 1人
- 2 2人
- 3 3人
- 4 4人
- 5 5人
- 6 6人以上
- 7 無回答



問5 住まい (1つだけに○)

【N = 1187】

- 1 持ち家の一戸建て
- 2 民間賃貸の一戸建て
- 3 民間賃貸のアパート
- 4 町営住宅
- 5 社宅
- 6 その他
- 7 無回答



(その他記載欄)

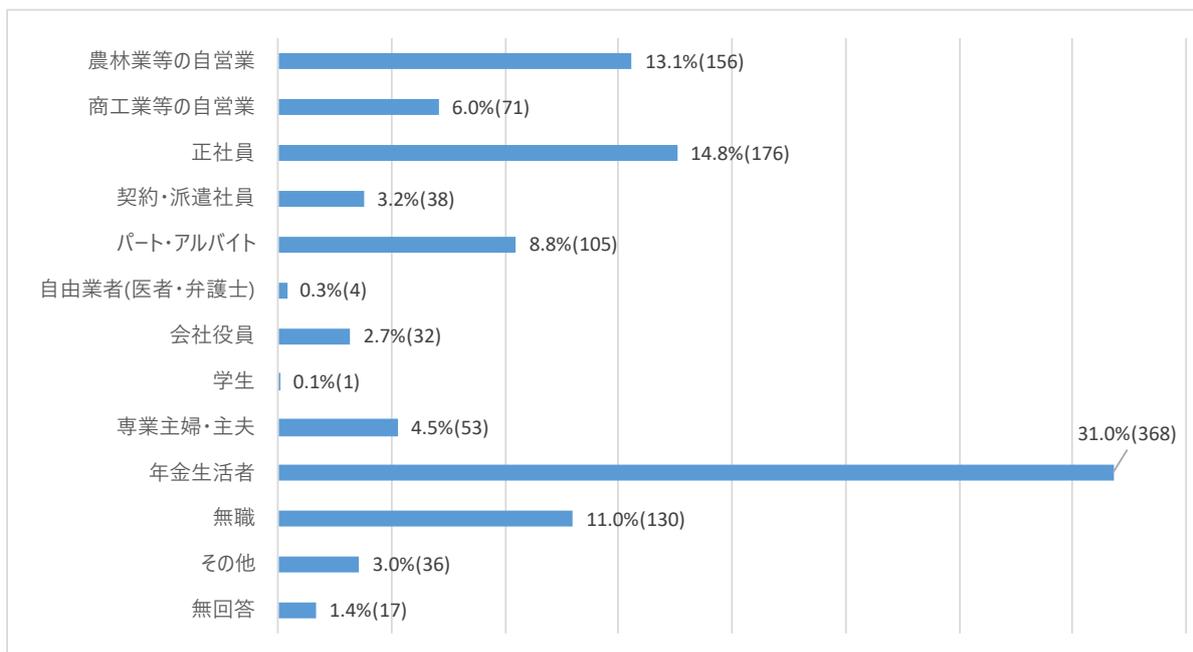
- ①娘の家 ②寺 ③親族所有

問6 お住いの地域 (1つだけに○)

- 1 埴地区 (世帯数1006)、(回答数428人)、(回答率42.5%)
- 2 高城地区 (世帯数 712)、(回答数255人)、(回答率35.8%)
- 3 常豊地区 (世帯数 374)、(回答数181人)、(回答率48.4%)
- 4 笹原地区 (世帯数 693)、(回答数304人)、(回答率43.9%)
- 5 無回答 (回答数19人)

問7 職業 (1つだけに○)

【N = 1187】



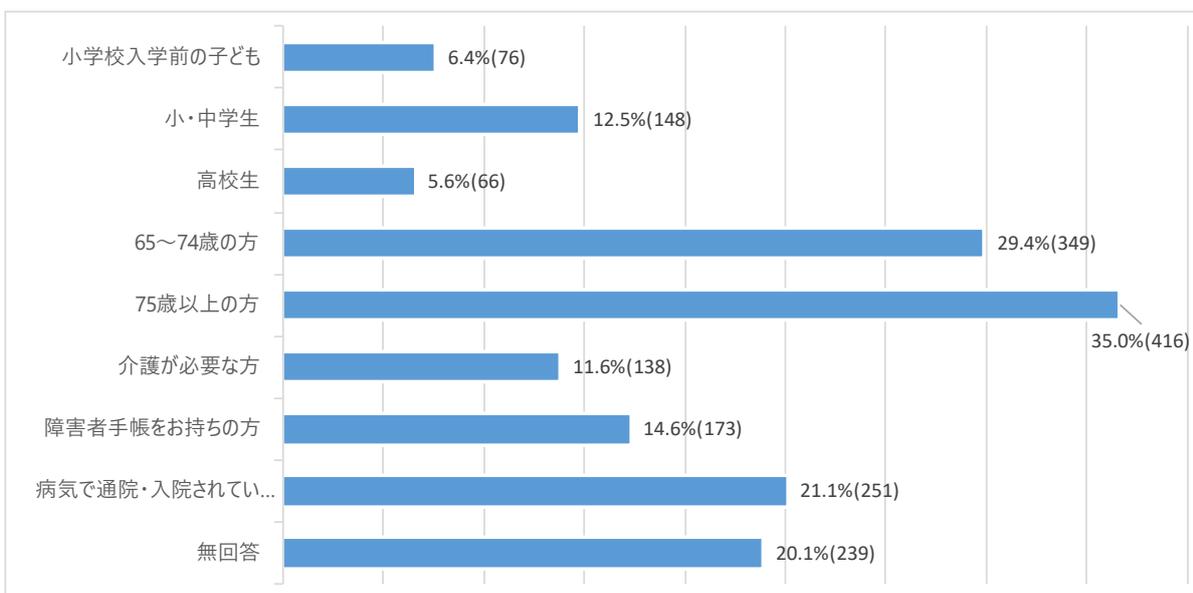
(その他記載欄)

※()内の数字は同回答数

- | | | | |
|---------|---------|-----------|--------------|
| ①住職 | ②再雇用 | ③看護師 | ④主婦・畑 |
| ⑤地方公務員 | ⑥委託職員 | ⑦下請け業 | ⑧年金生活・野菜作り少々 |
| ⑨公務員(2) | ⑩会社員 | ⑪建設大工 | ⑫農業・年金生活者(2) |
| ⑬団体役員 | ⑭自営業 | ⑮農業(2) | ⑯会社員の嘱託社員 |
| ⑰町臨時 | ⑱飲食業 | ⑲農業・アルバイト | ⑳年金も少々で困っている |
| ㉑臨時職員 | ㉒建設会社勤務 | ㉓サービス業 | ㉔生活保護・年金 |

問8 自身も含めた家族 (あてはまるものすべてに○)

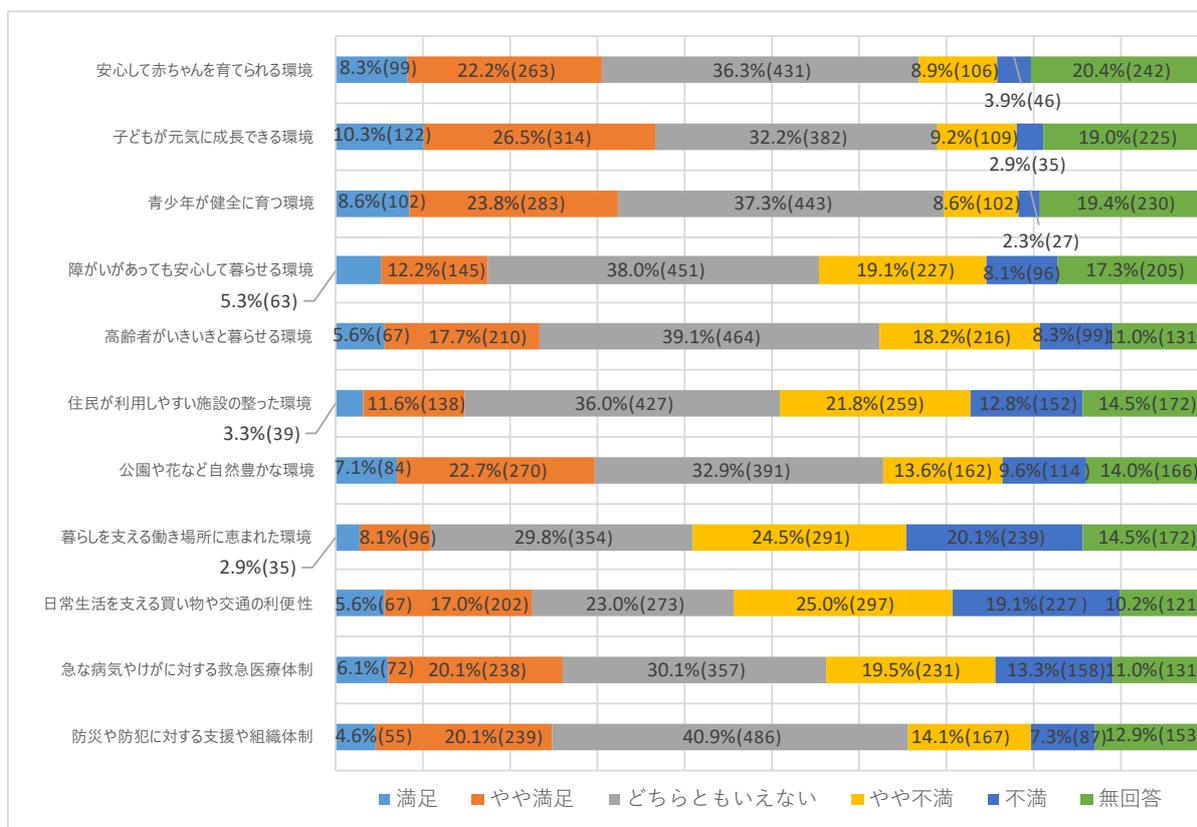
【N = 1187】



2 地域での日常生活について

問9 あなたの周りの暮らしや環境について満足度はいかがですか。(それぞれあてはまるものに○)

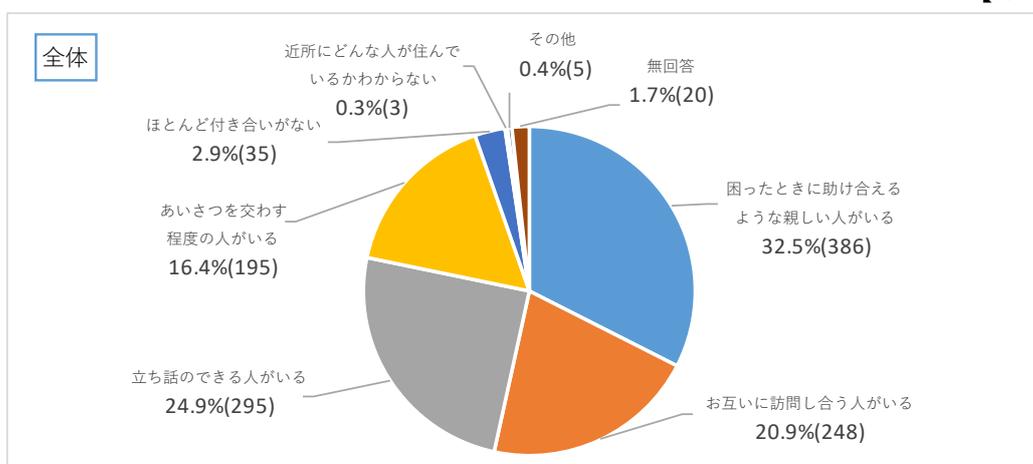
【N = 1187】



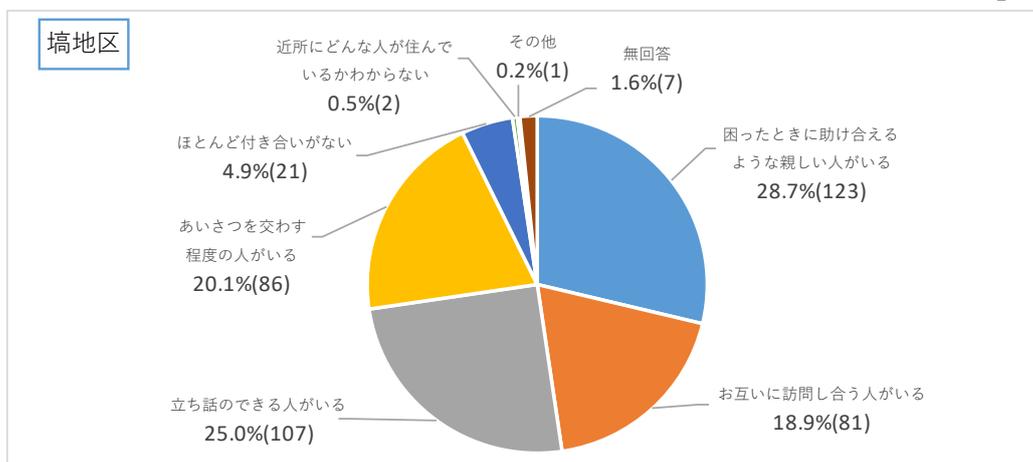
問11 あなたは、ご近所の方とどの程度のお付き合いがあるかお答えください。(1つだけに○)

- 1 困ったときに助け合えるような親しい人がいる
- 2 お互いに訪問し合う人がいる
- 3 立ち話のできる人がいる
- 4 あいさつを交わす程度の人がある
- 5 ほとんど付き合いがない
- 6 近所にどんな人が住んでいるかわからない
- 7 その他
- 8 無回答

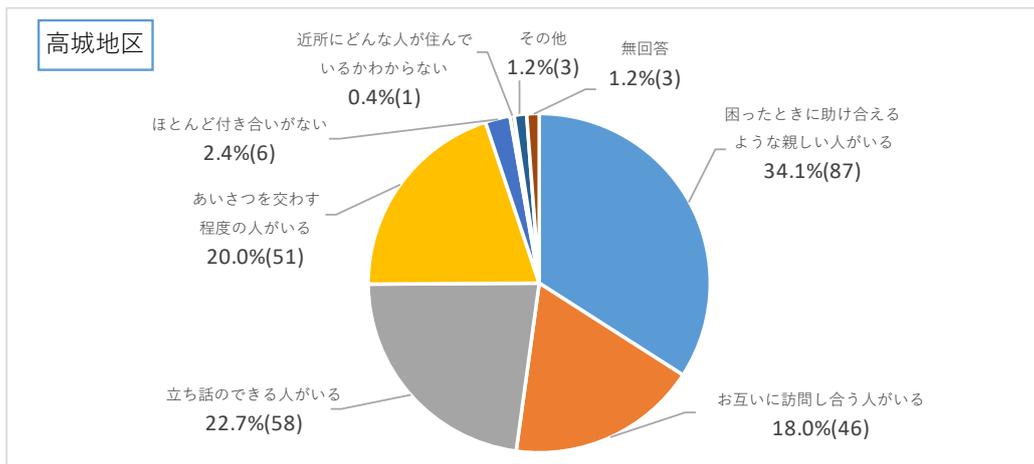
【N = 1187】



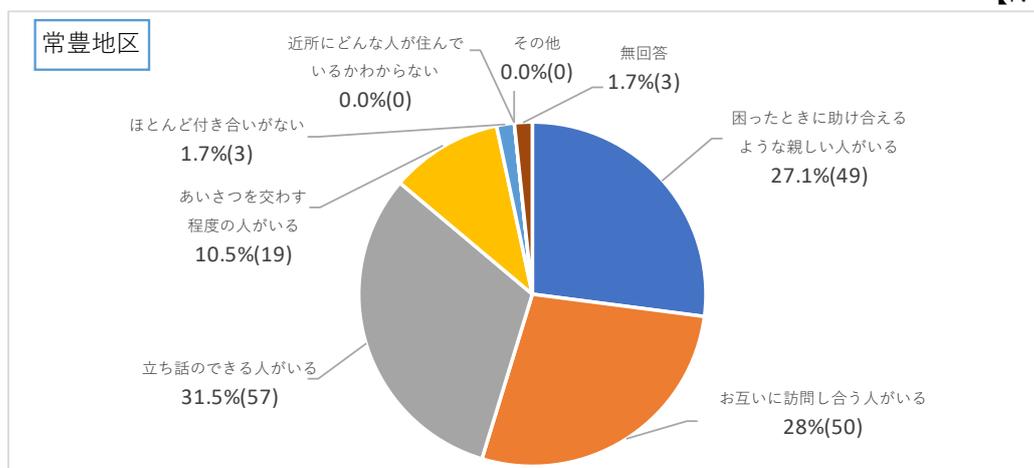
【N = 428】



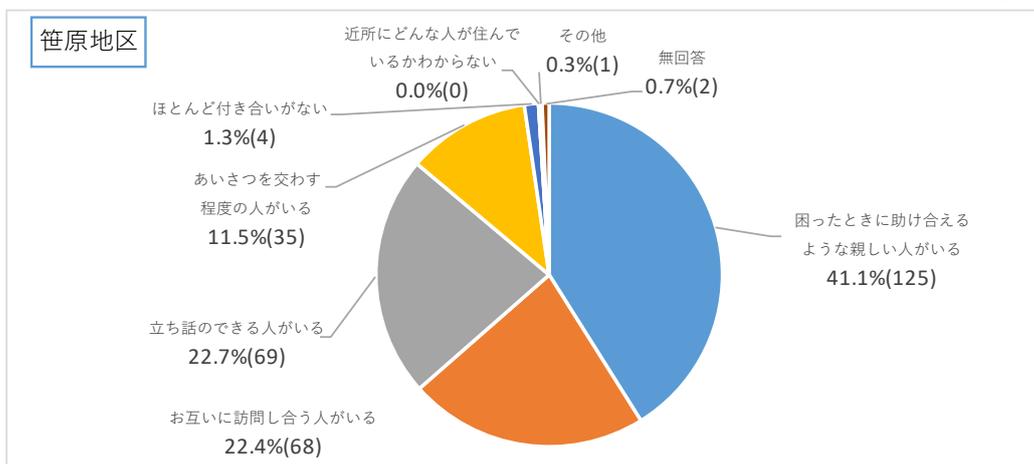
【N = 255】



【N = 181】

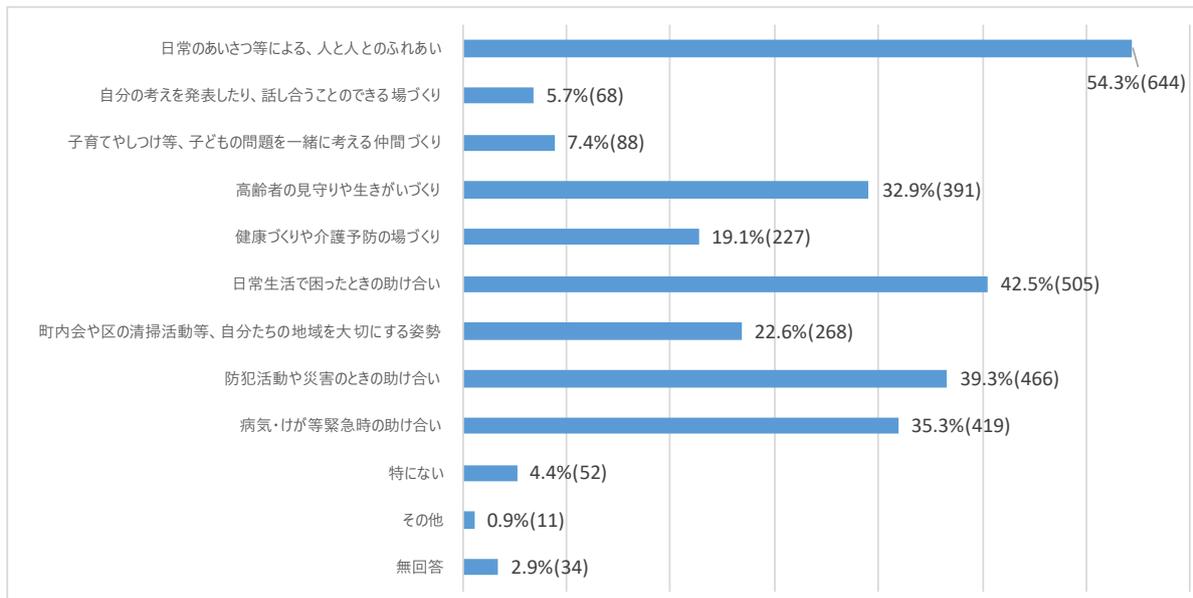


【N = 304】



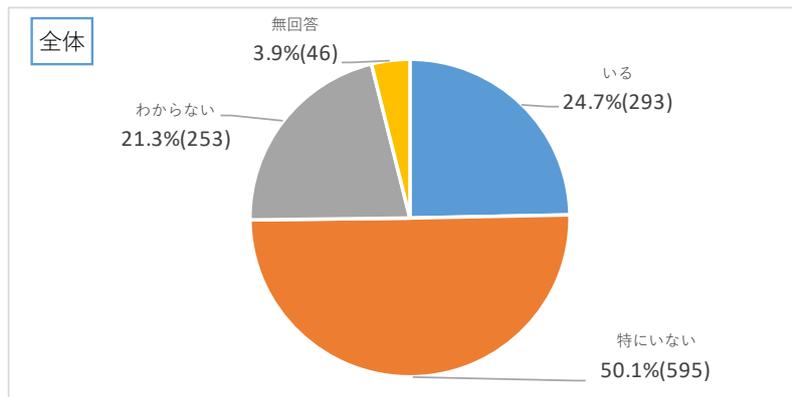
【資料編】 1 町民アンケート調査結果

問12 あなたは、ご近所との付き合いや関わりで、どのようなことがこれから大切になると
 思いますか、お答えください。(主なもの3つまでに○) 【N = 1187】

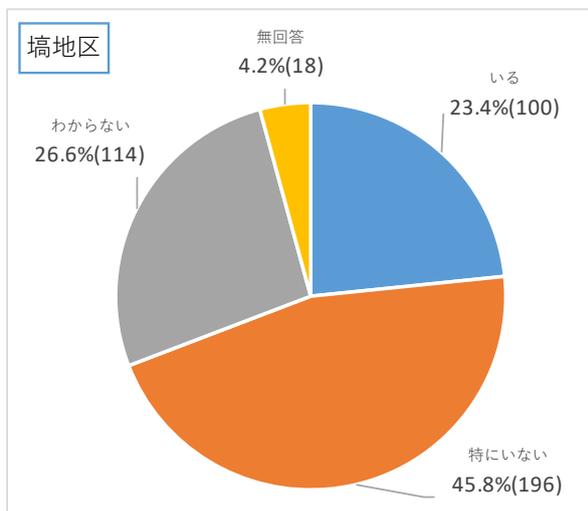


問13 あなたの地域に気がかりな方はいますか。(1つだけに○) 【N = 1187】

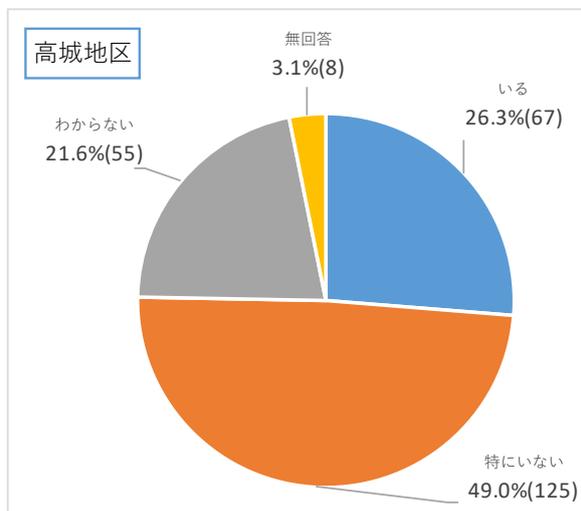
- 1 いる
- 2 特いない
- 3 わからない
- 4 無回答



【N = 428】



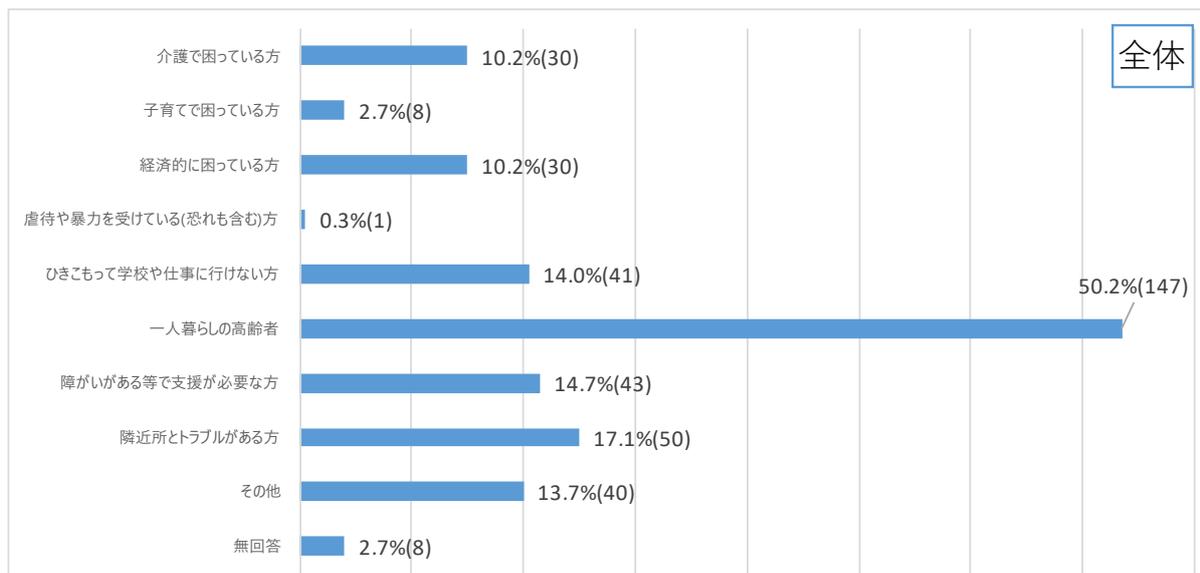
【N = 255】



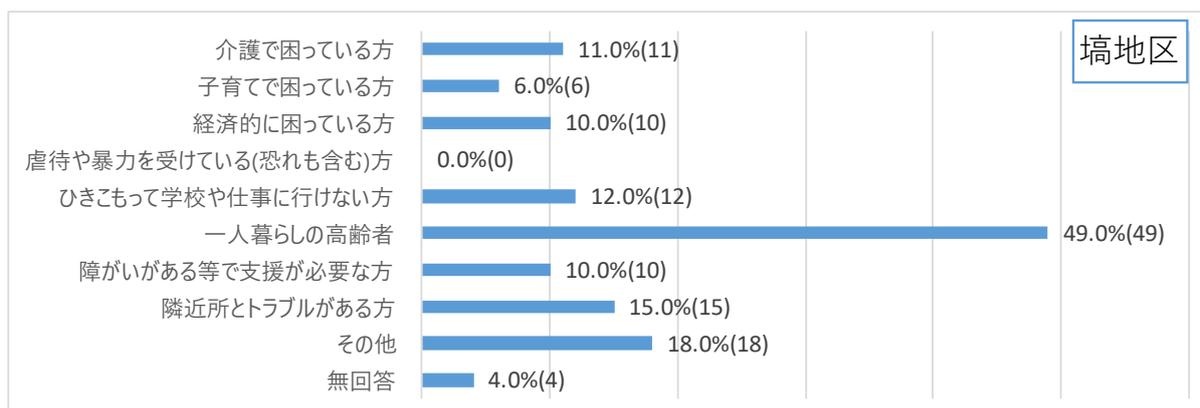
問14 問13で「1」と答えた方に伺います。気がかりなのは、どのような方ですか。

(あてはまるものすべてに○)

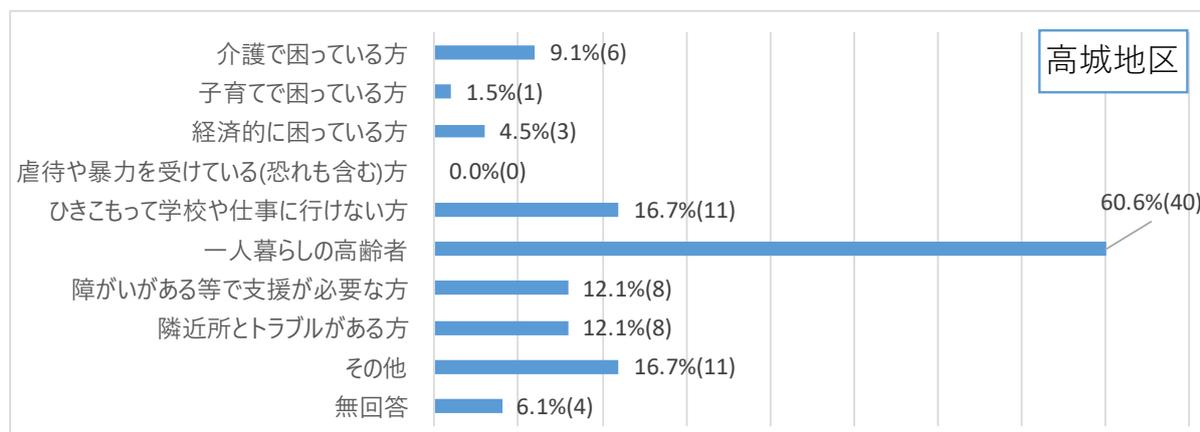
【N = 293】



【N = 100】

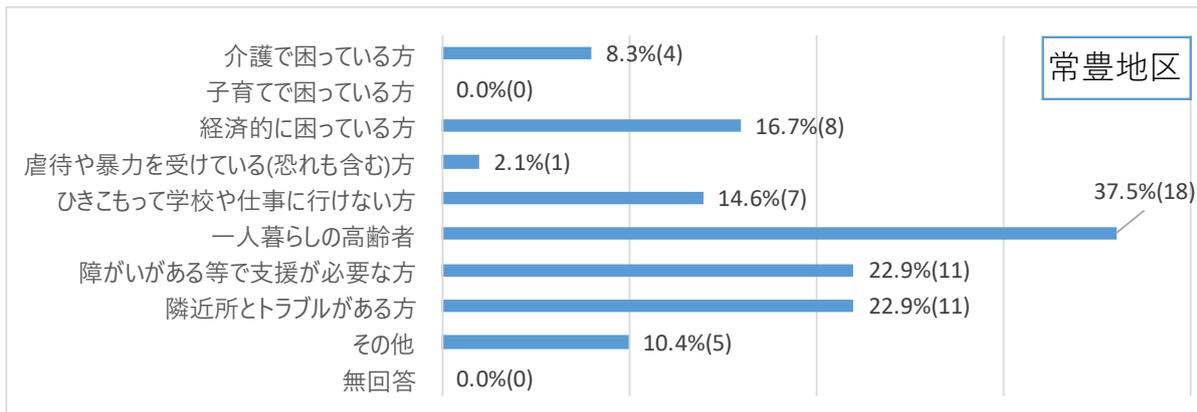


【N = 66】

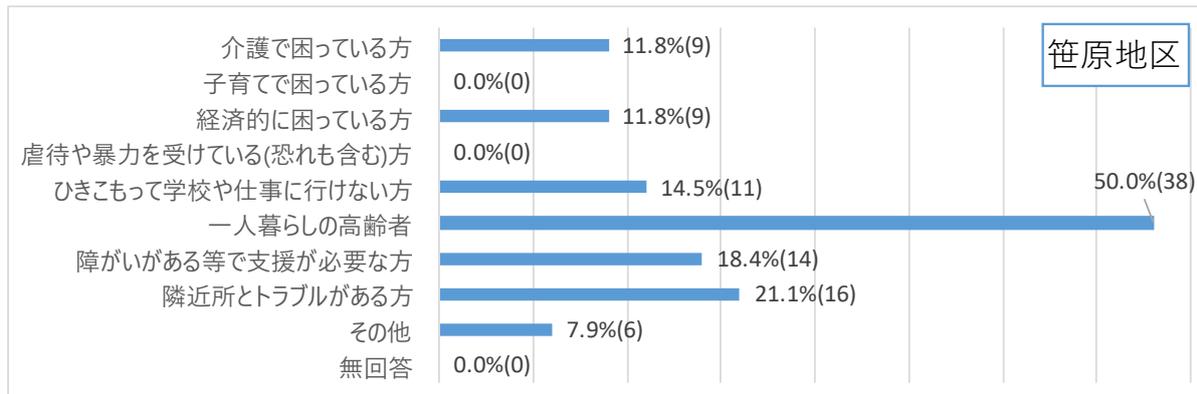


【資料編】 1 町民アンケート調査結果

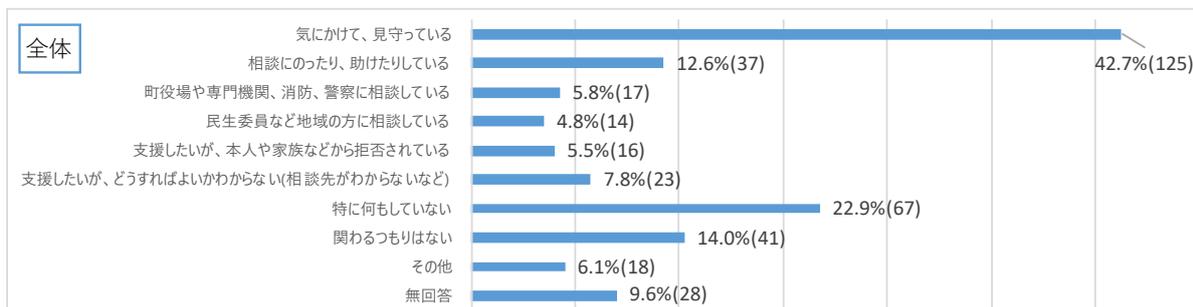
【N = 48】



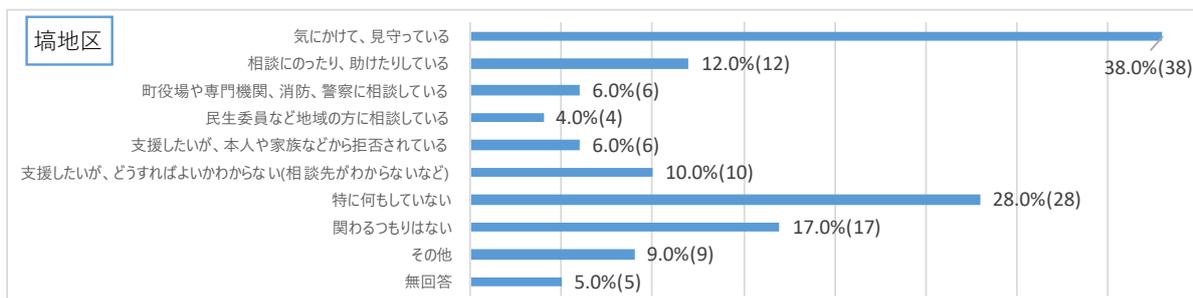
【N = 76】



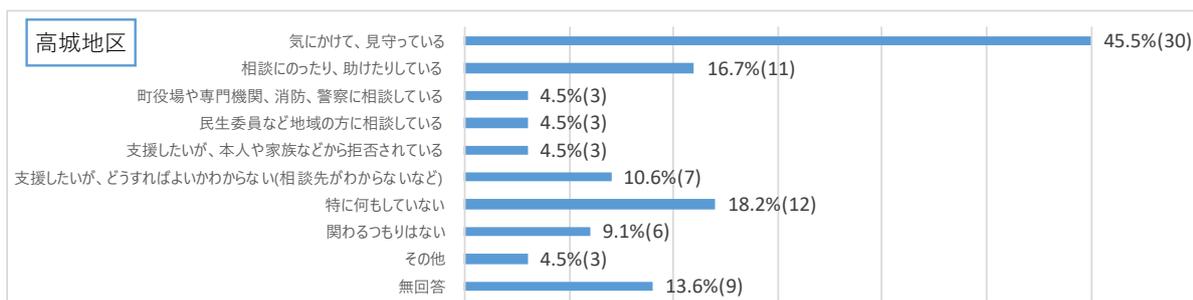
問15 問13で「1」と答えた方に伺います。その方に対してあなたは何かしていること、または何かしたことはありますか。(あてはまるものすべてに○) 【N = 293】



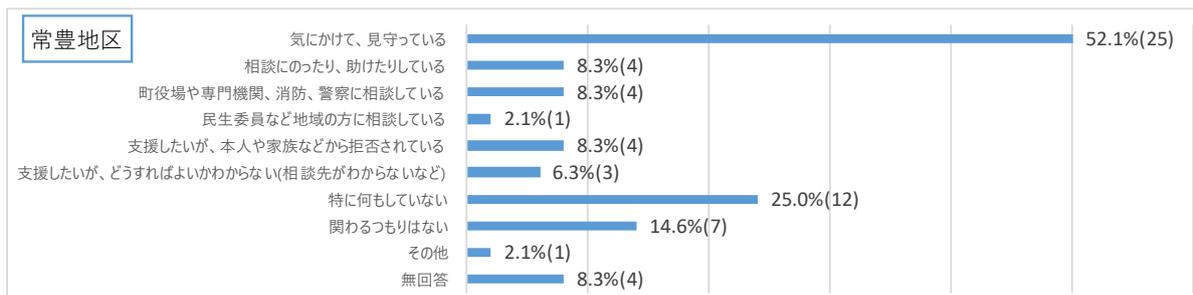
【N = 100】



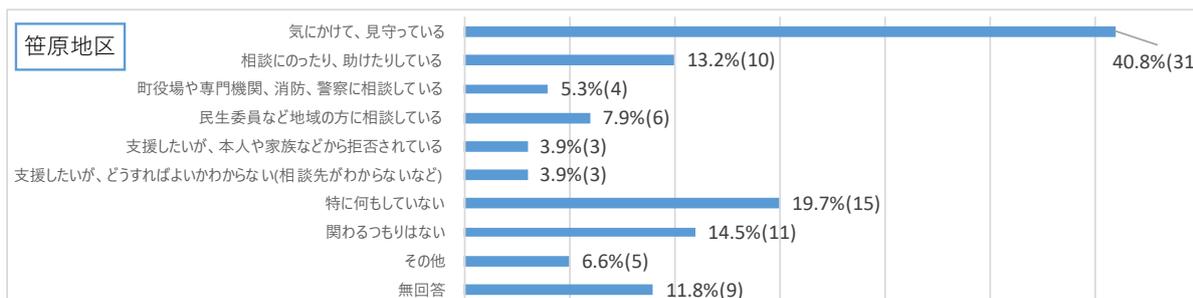
【N = 66】



【N = 48】



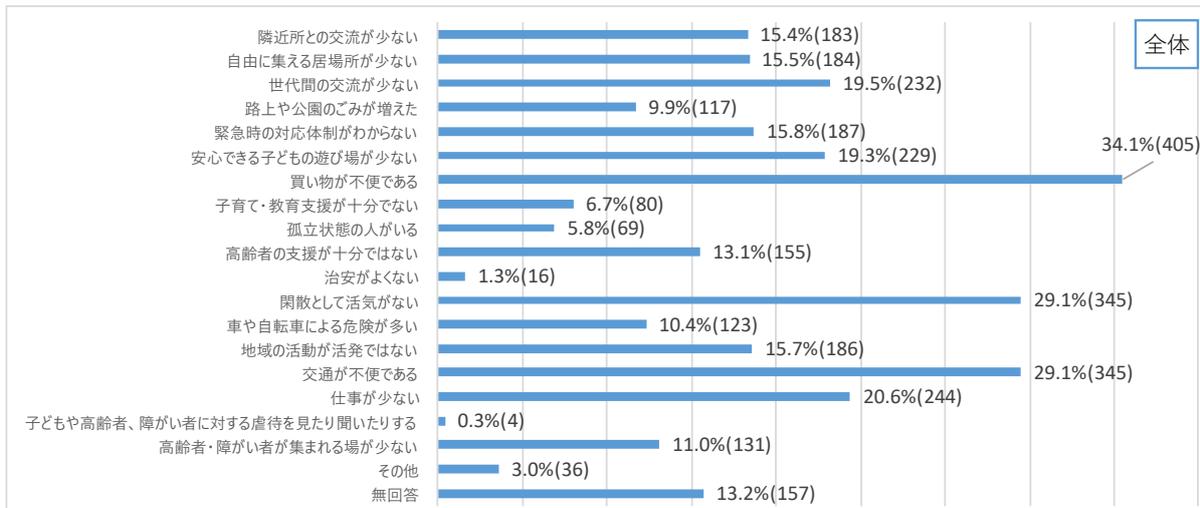
【N = 76】



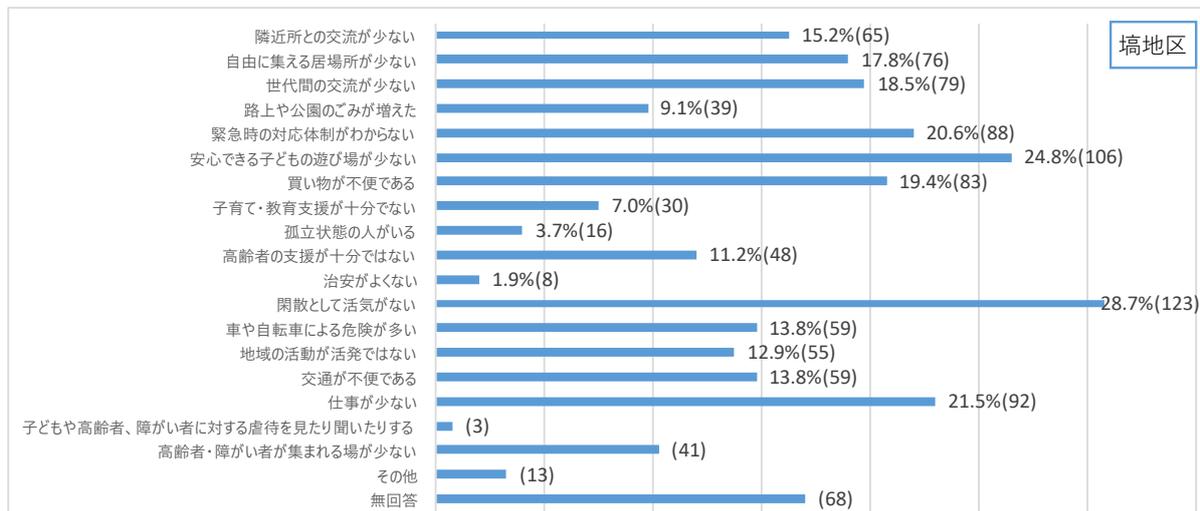
問16 現在、あなたの住んでいる地域にはどのような問題や課題があると感じていますか。

お答えください。(あてはまるものすべてに○)

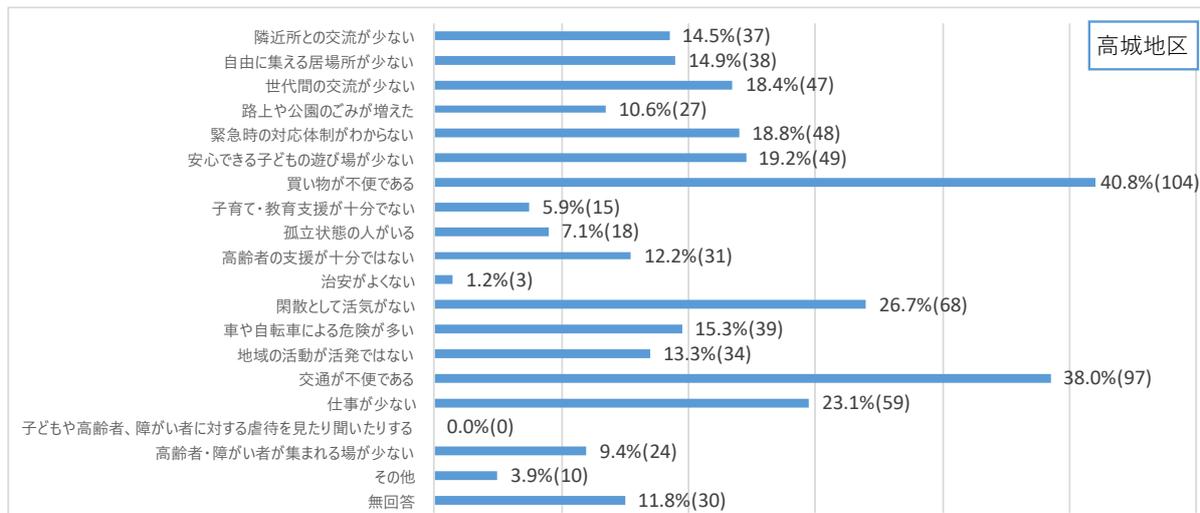
【N = 1187】



【N = 428】

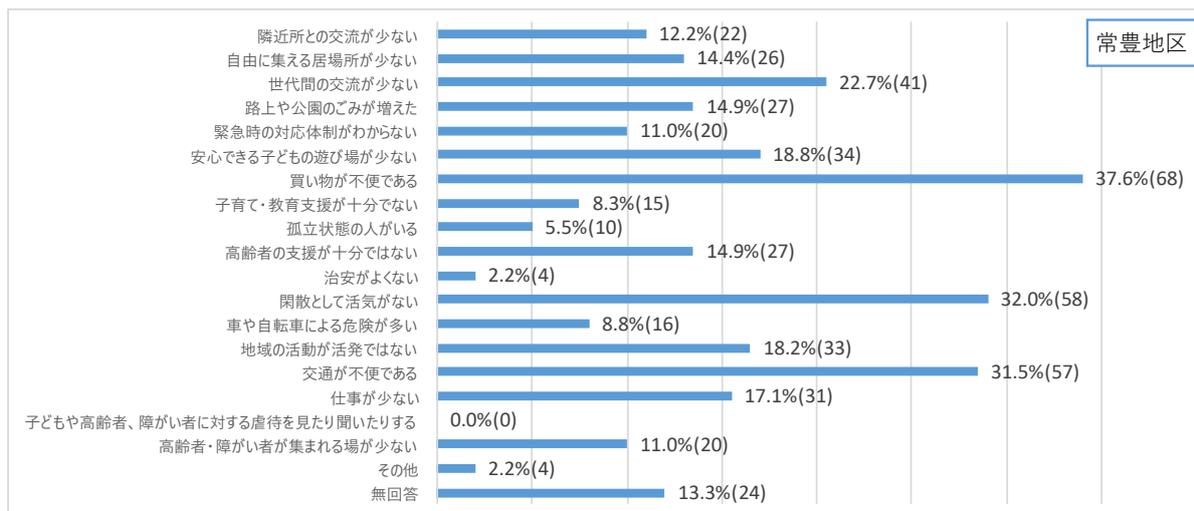


【N = 255】

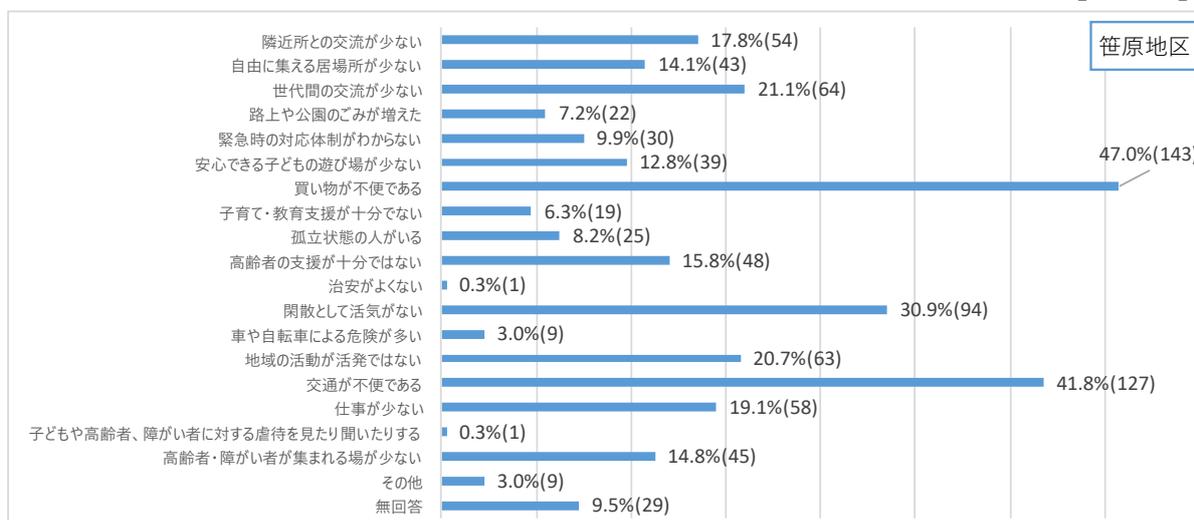


【資料編】 1 町民アンケート調査結果

【N = 181】

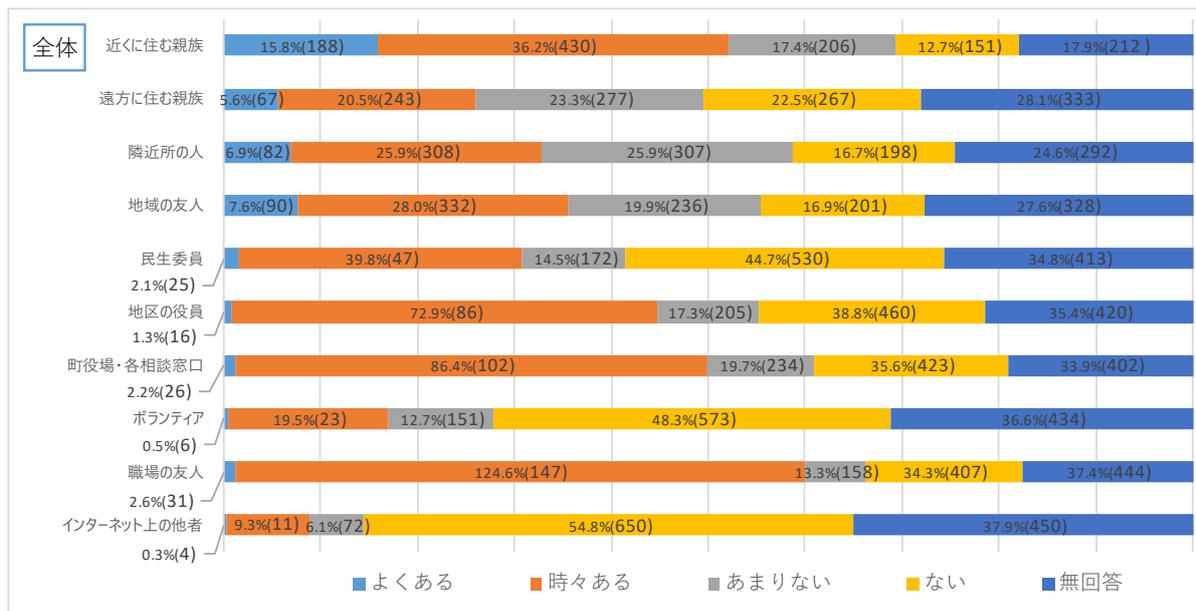


【N = 304】

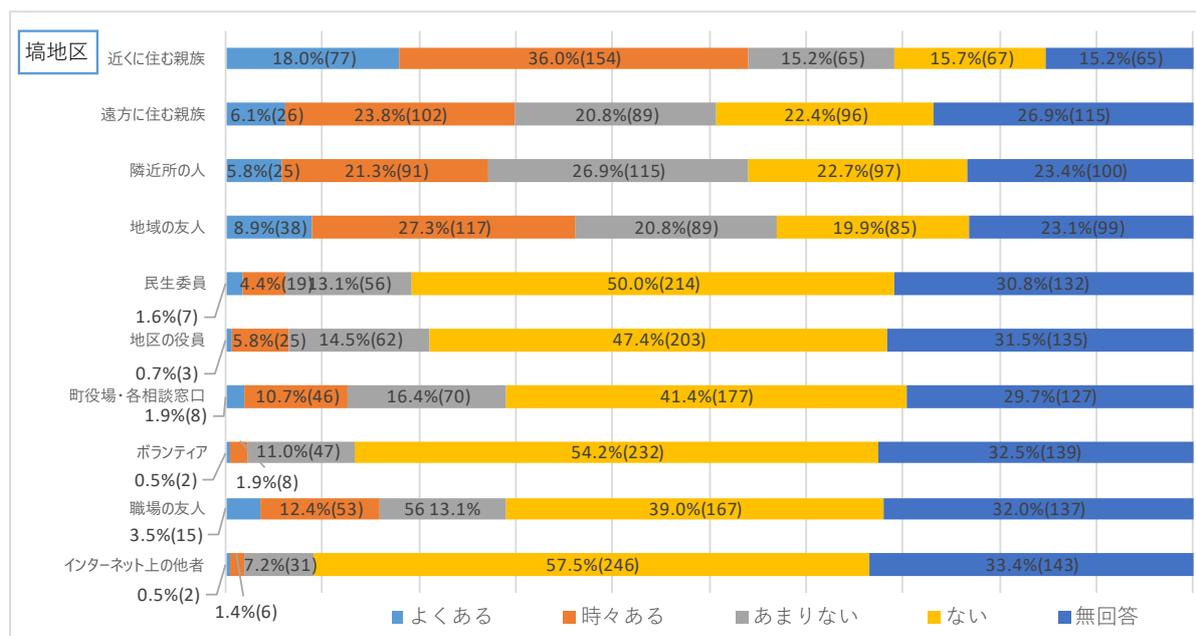


【資料編】 1 町民アンケート調査結果

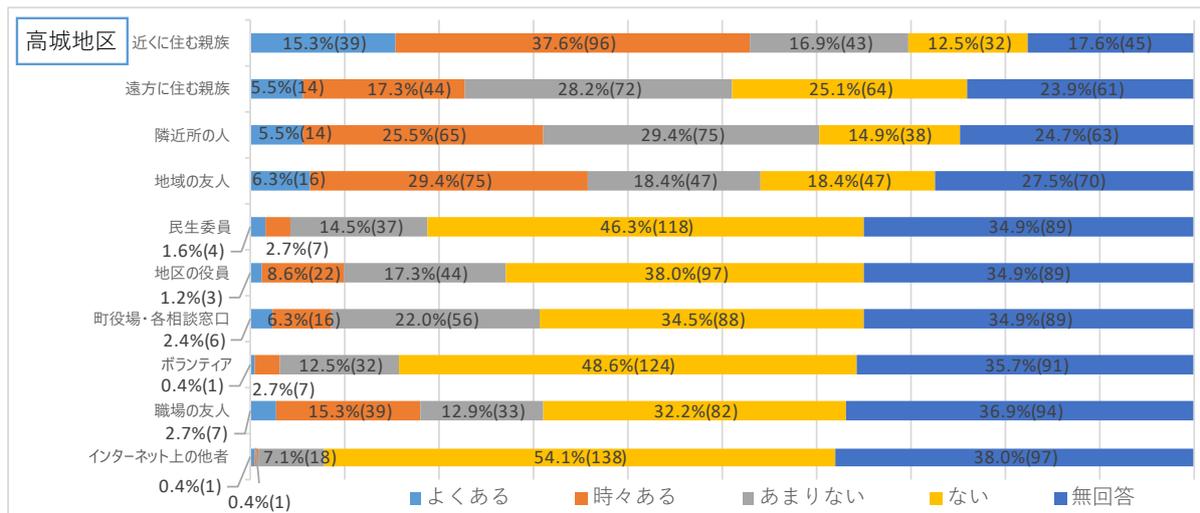
問17 あなたは困ったことがある場合、次の人に相談に乗ってもらったり、実際に助けてもらうことはありますか、お答えください。（それぞれあてはまるものに○） 【N = 1187】



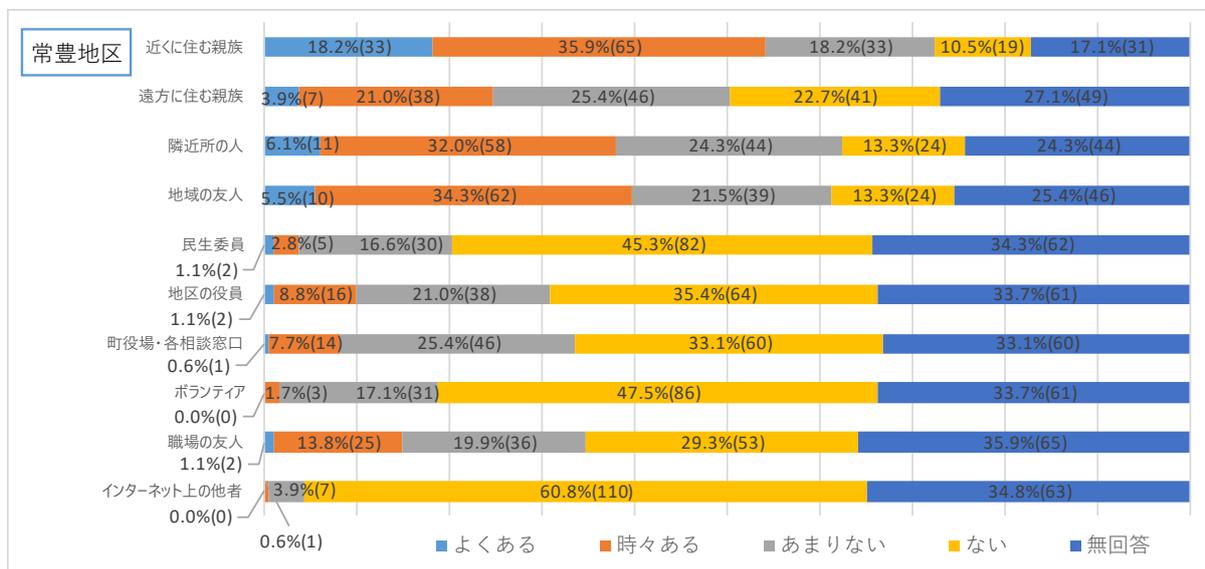
【N = 428】



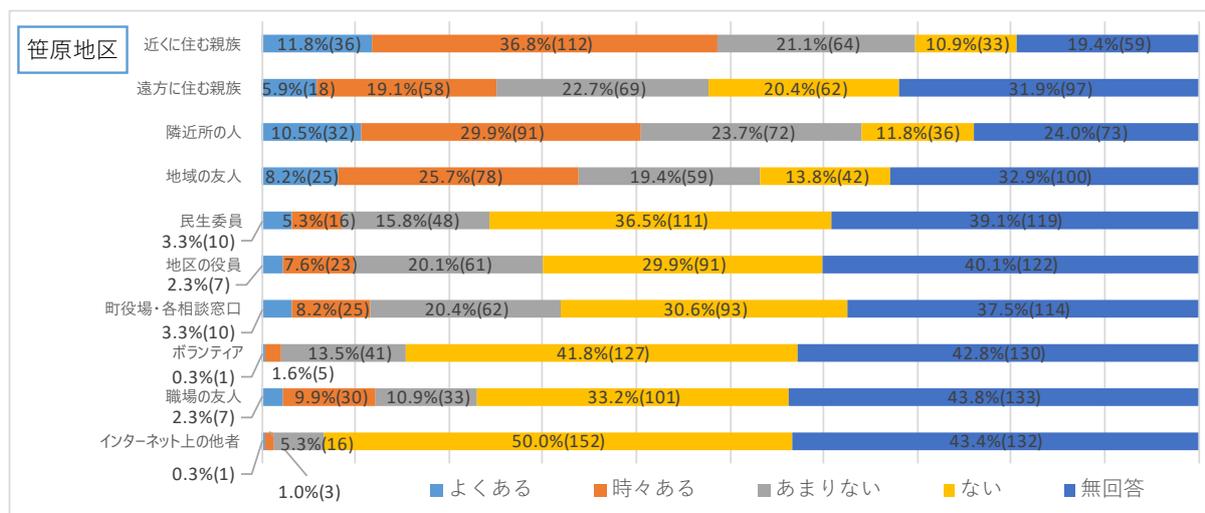
[N = 255]



[N = 181]



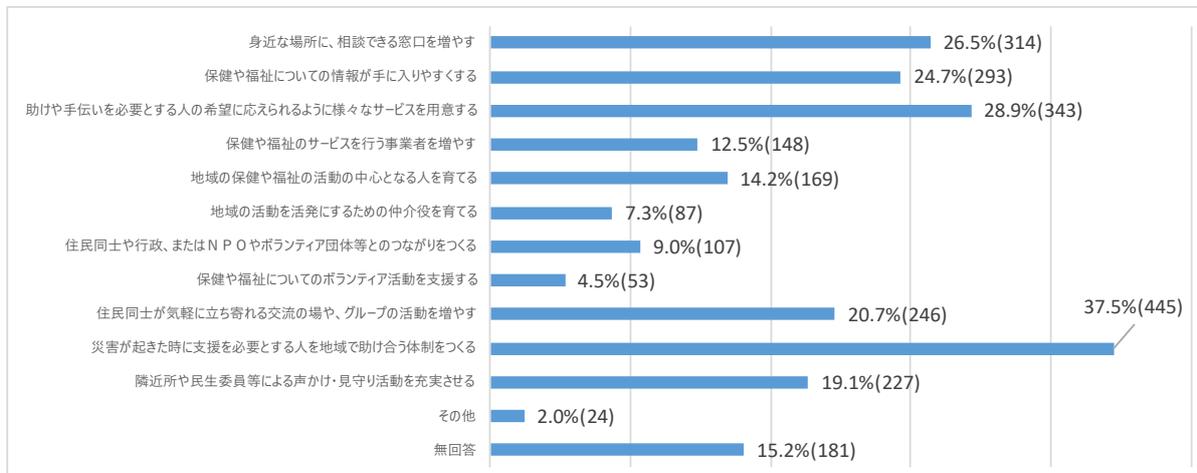
[N = 304]



【資料編】 1 町民アンケート調査結果

問18 誰もが住みなれた地域で安心して生活していくために、どのような取り組みが有効だと思いますか。あなたの考えに特に近いものをお答えください。（主なもの3つまでに○）

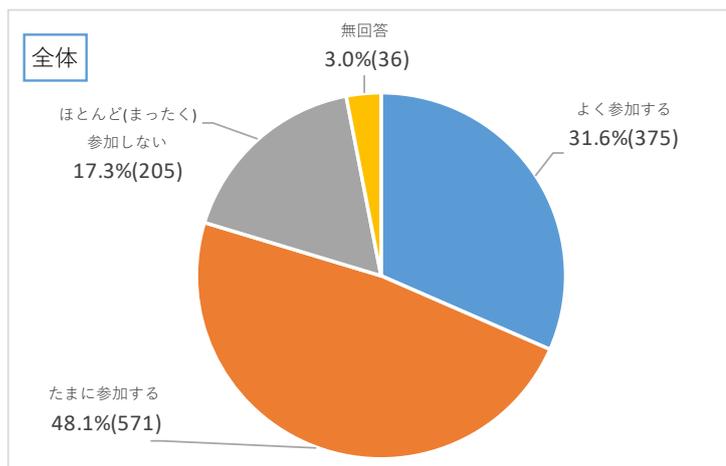
【N = 1187】



問19 あなたは地域の催しや行事に参加していますか。(1つだけに○)

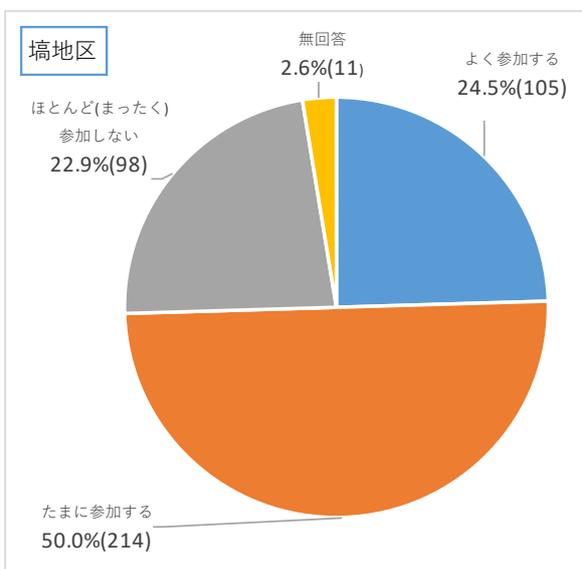
【N = 1187】

- 1 よく参加する
- 2 たまに参加する
- 3 ほとんど(まったく)参加しない
- 4 無回答

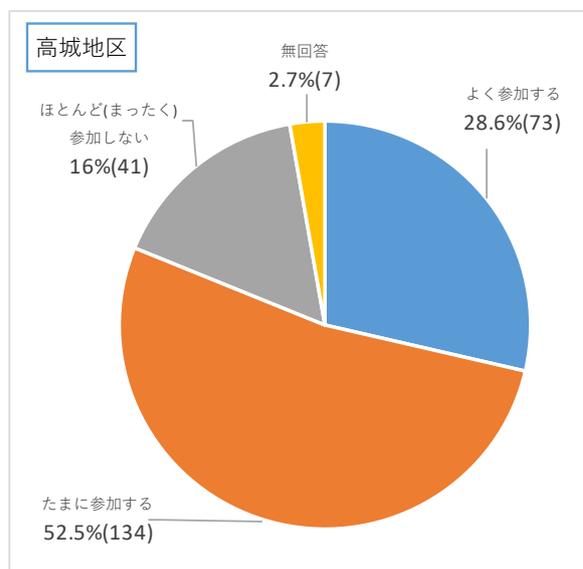


【N = 428】

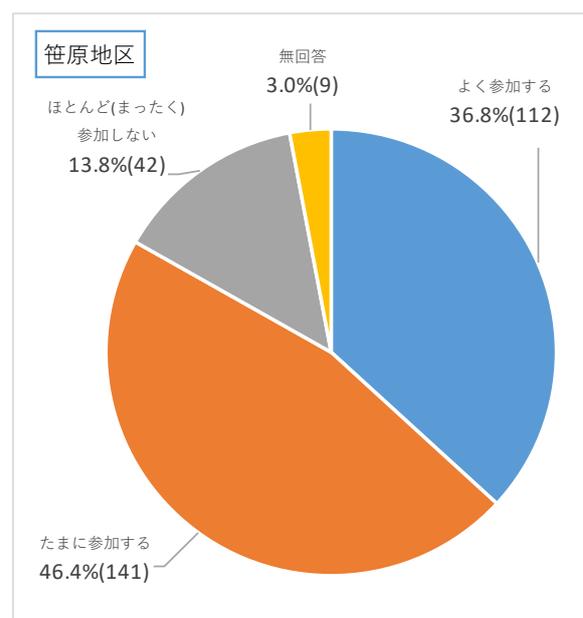
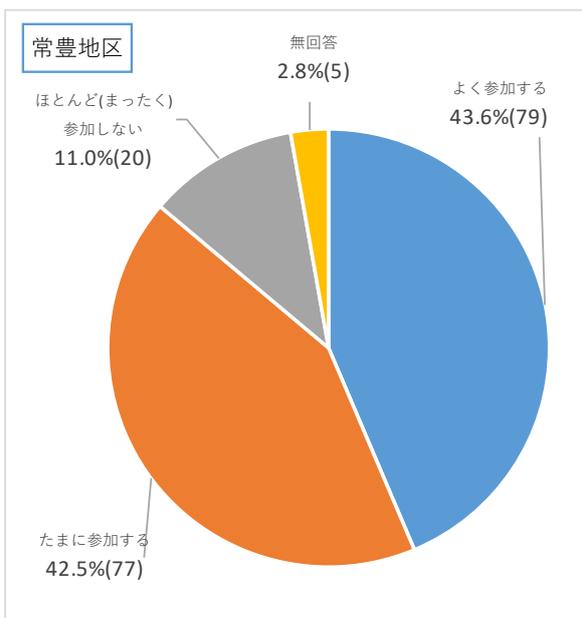
【N = 255】



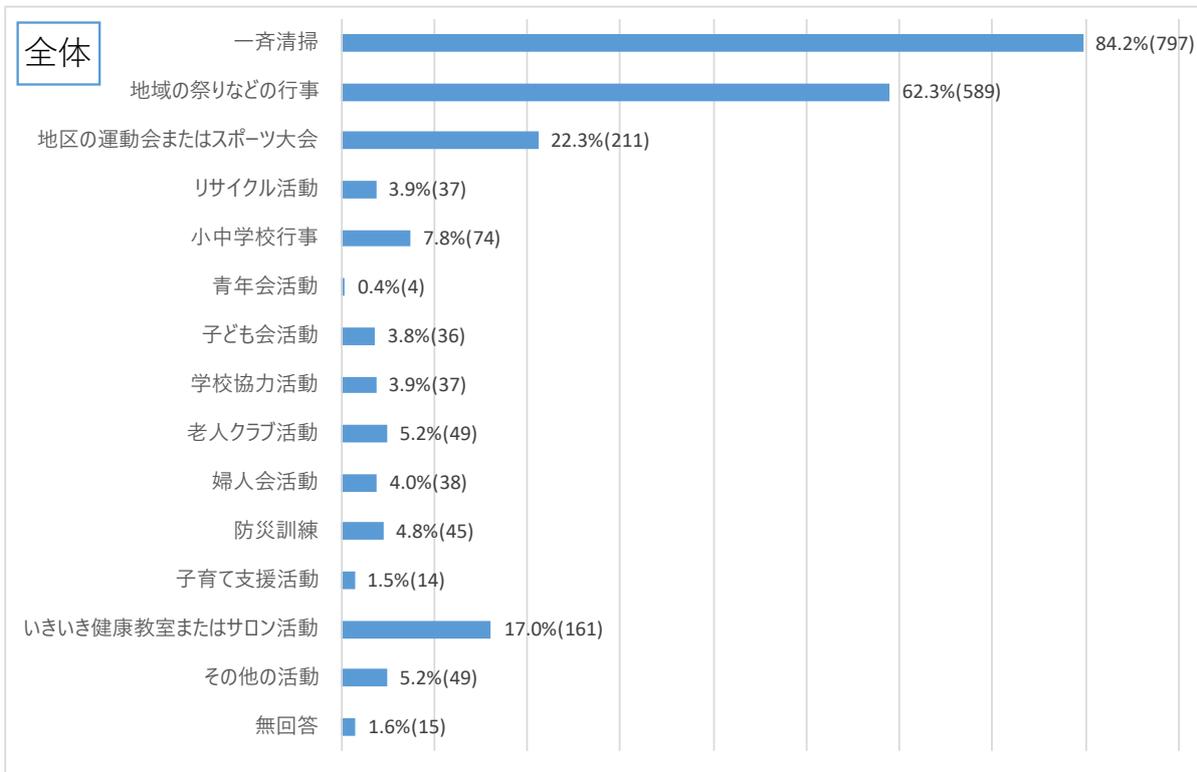
【N = 181】



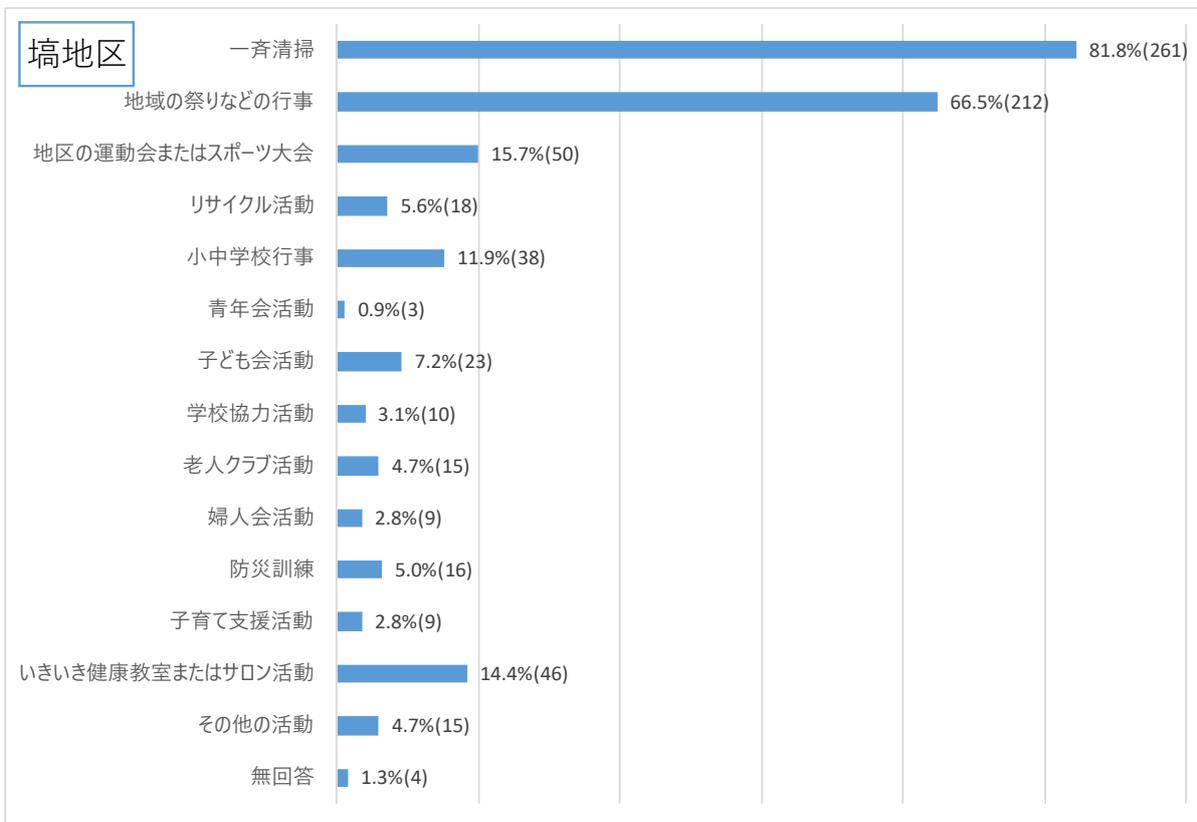
【N = 304】

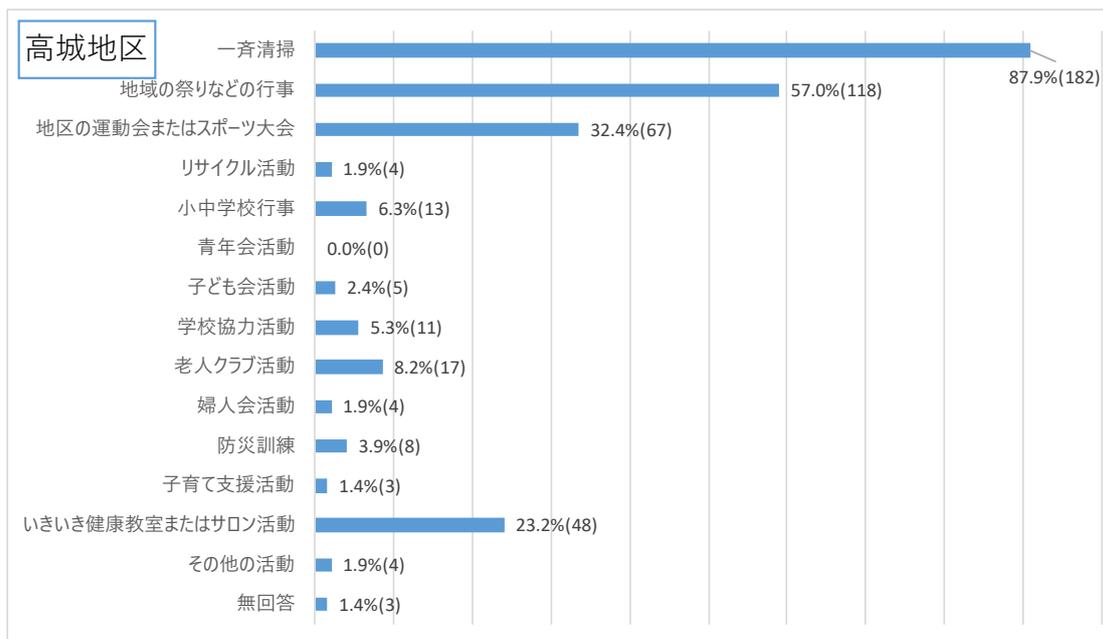


問20 問19で「1」または「2」と答えた方に伺います。あなたは、どのような地域の催しや行事に参加していますか。（主なもの3つまでに○） 【N = 946】

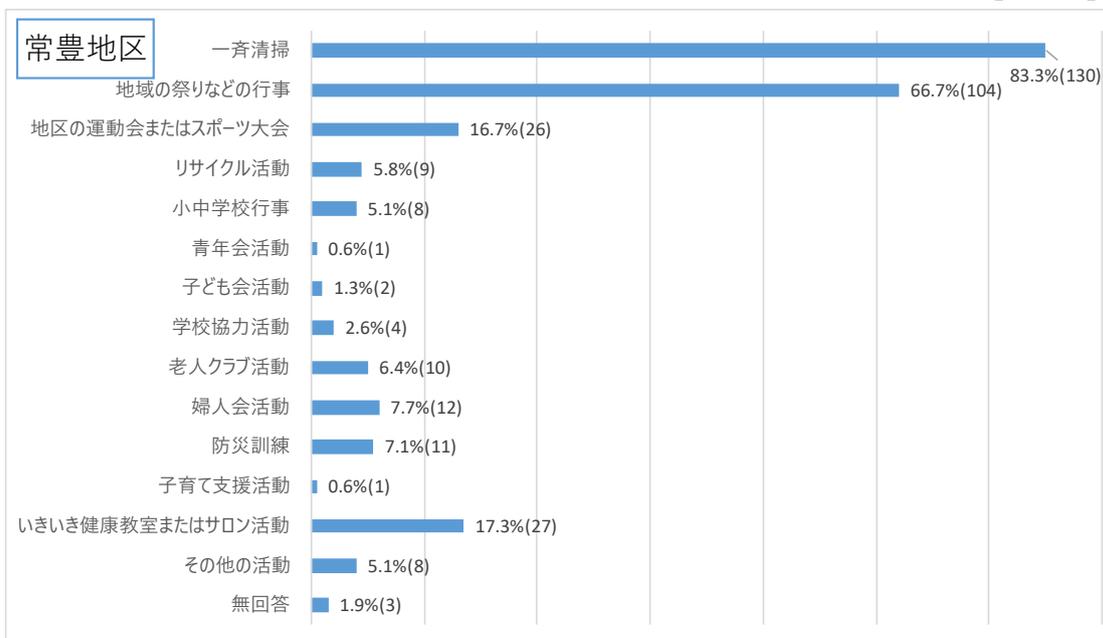


【N = 319】

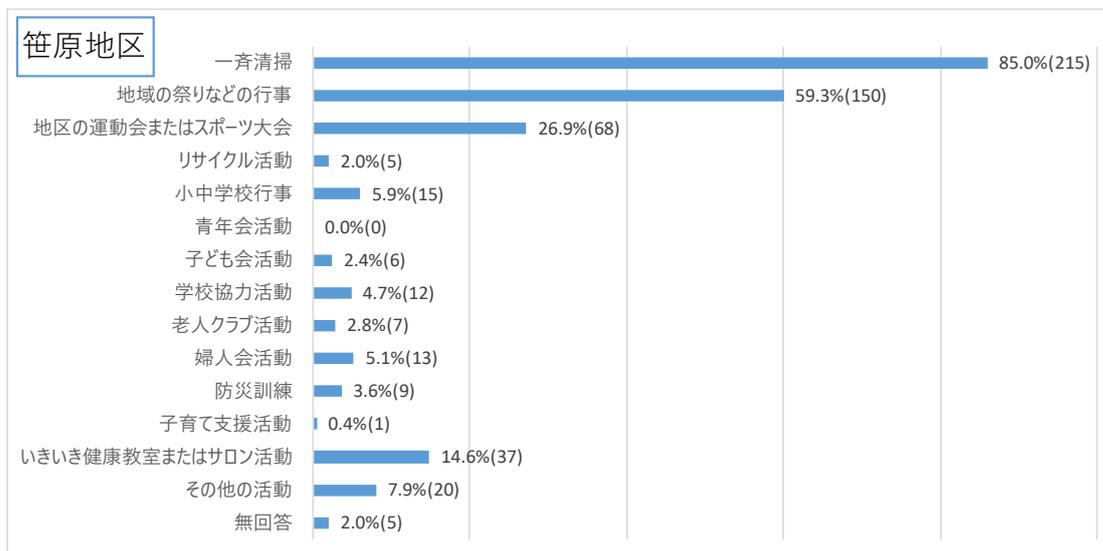




【N = 156】



【N = 253】

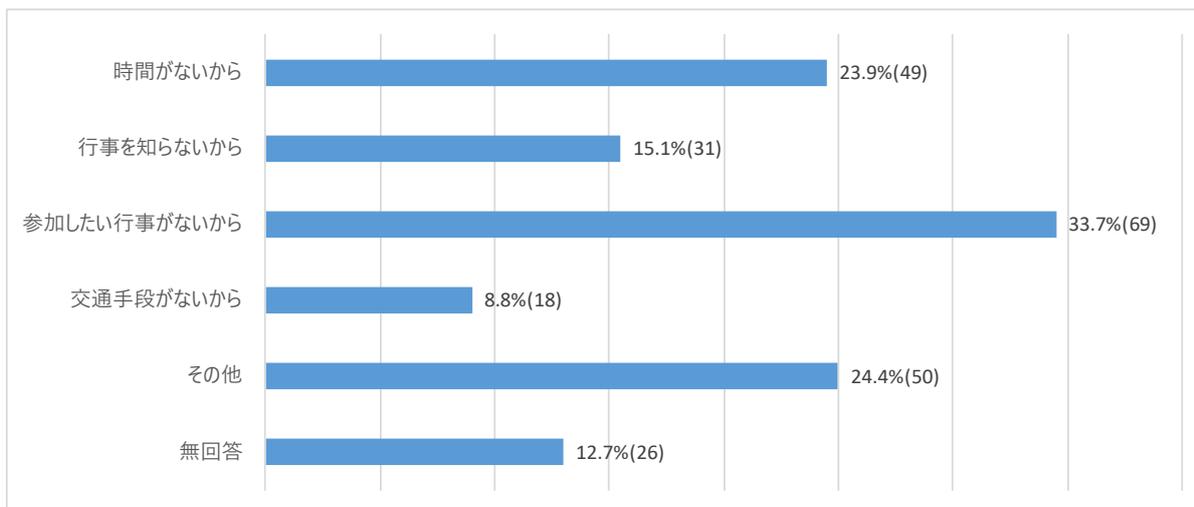


【資料編】 1 町民アンケート調査結果

問21 問19で「3」と答えた方に伺います。地域の催しや行事に参加されない理由は何ですか。

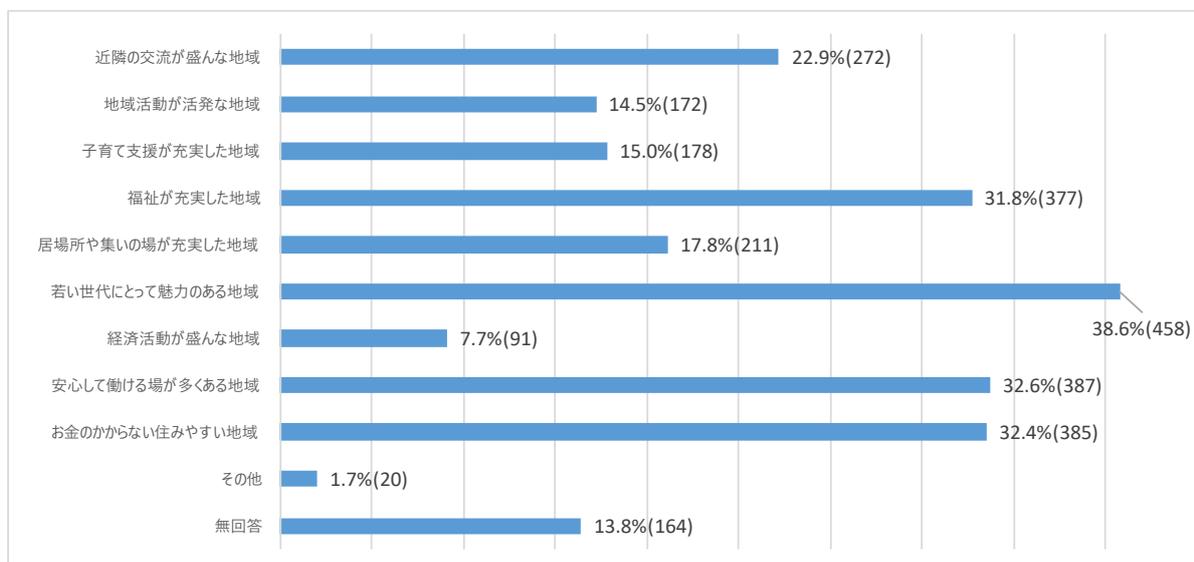
(あてはまるものすべてに○)

【N = 205】



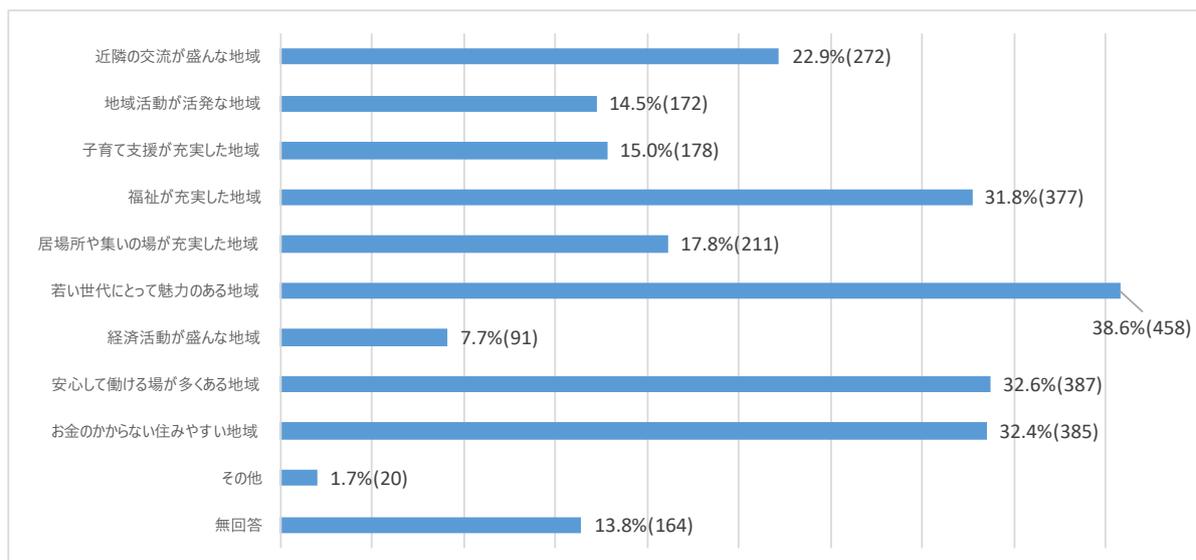
問22 今後、あなたの住んでいる地域をどのような地域にしていきたいですか。(主なもの3つまでに○)

【N = 1187】



問22 今後、あなたの住んでいる地域をどのような地域にしていきたいですか。(主なものを3つまでに○)

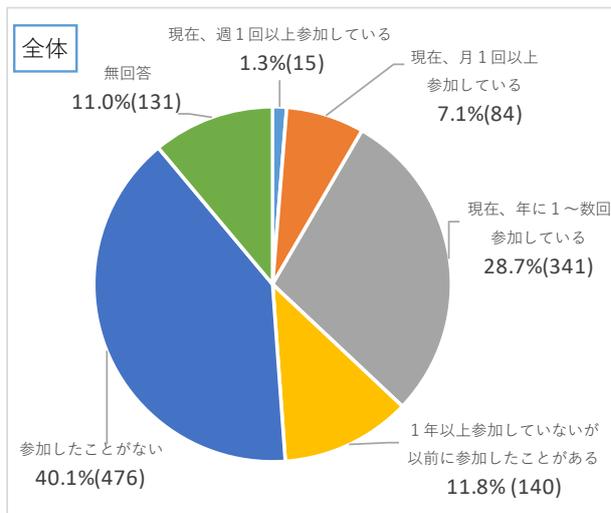
【N = 1187】



3 地域活動(ボランティア活動等)への参加について

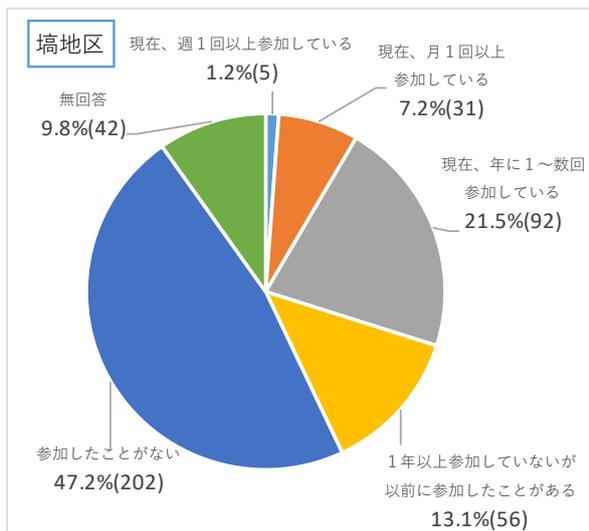
問23 あなたは地域活動(ボランティア活動等)に参加していますか。(1つだけにC) 【N = 1187】

- 1 現在、週1回以上参加している
- 2 現在、月1回以上参加している
- 3 現在、年に1～数回参加している
- 4 1年以上参加していないが以前に参加したことがある
- 5 参加したことがない
- 6 無回答

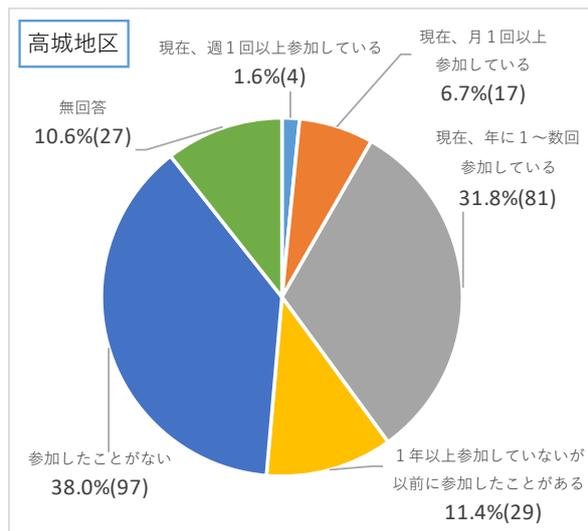


【N = 428】

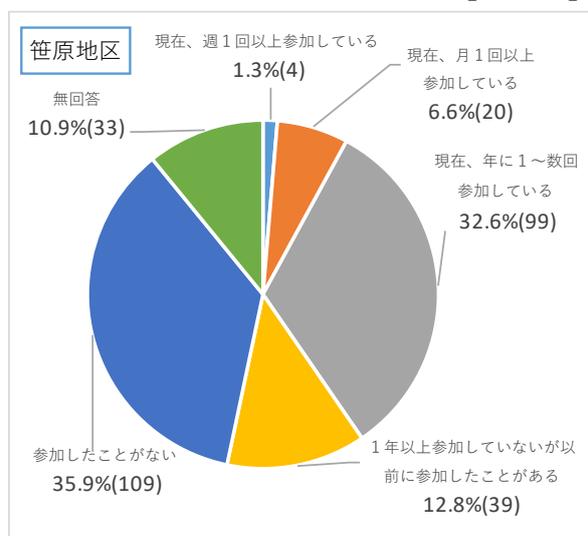
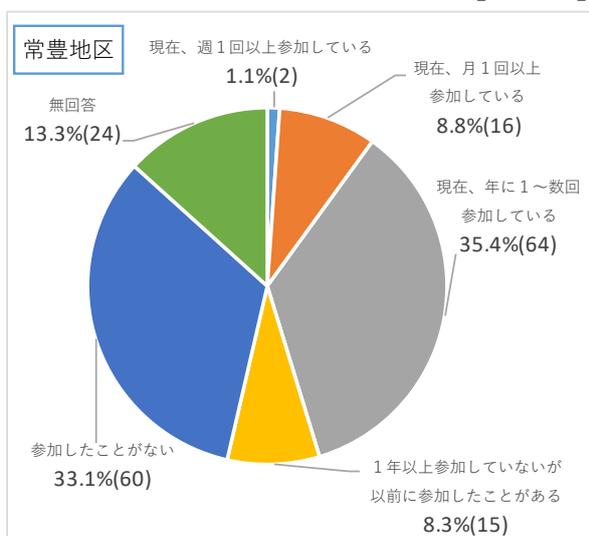
【N = 255】



【N = 181】



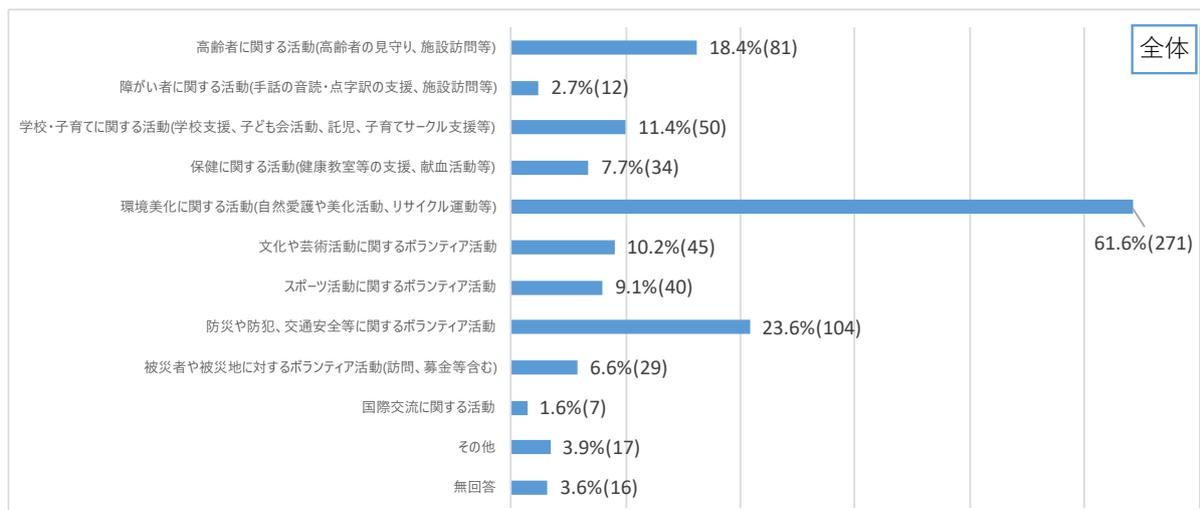
【N = 304】



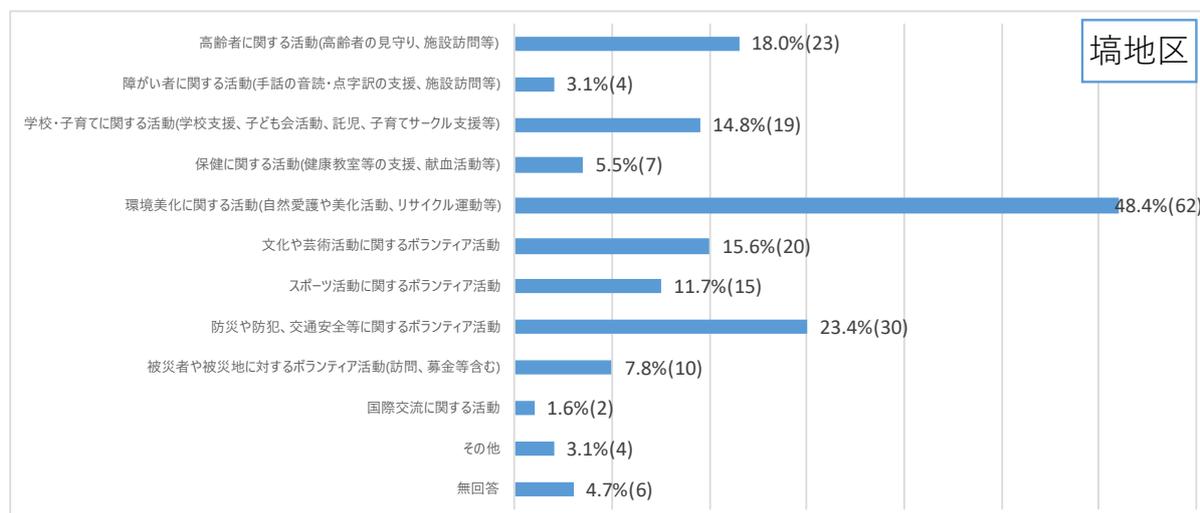
問24 問23で「1」「2」「3」と答えた方に伺います。どのような活動をされましたか。

(あてはまるものすべてに○)

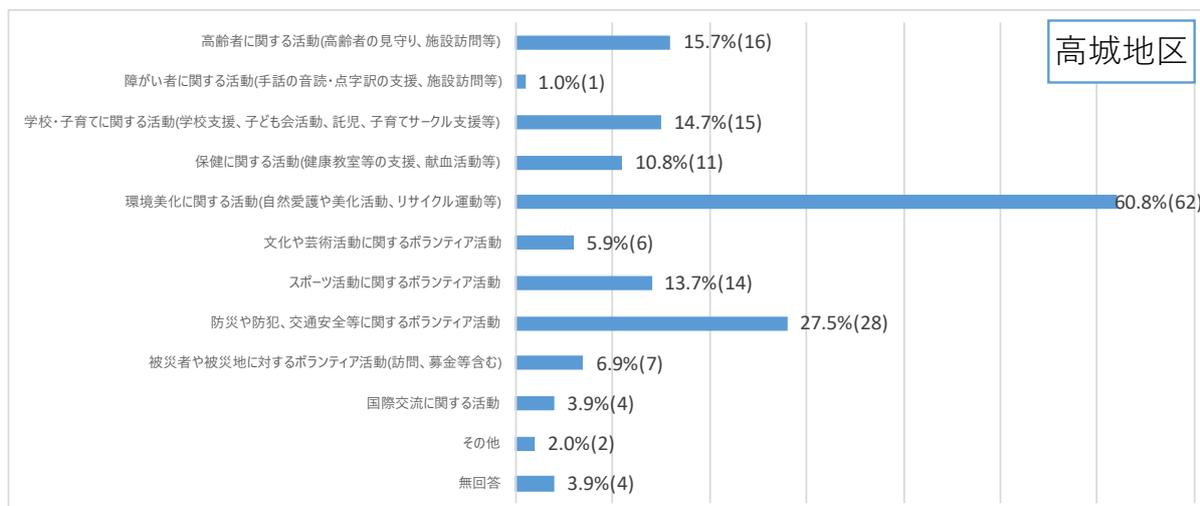
【N = 440】



【N = 128】

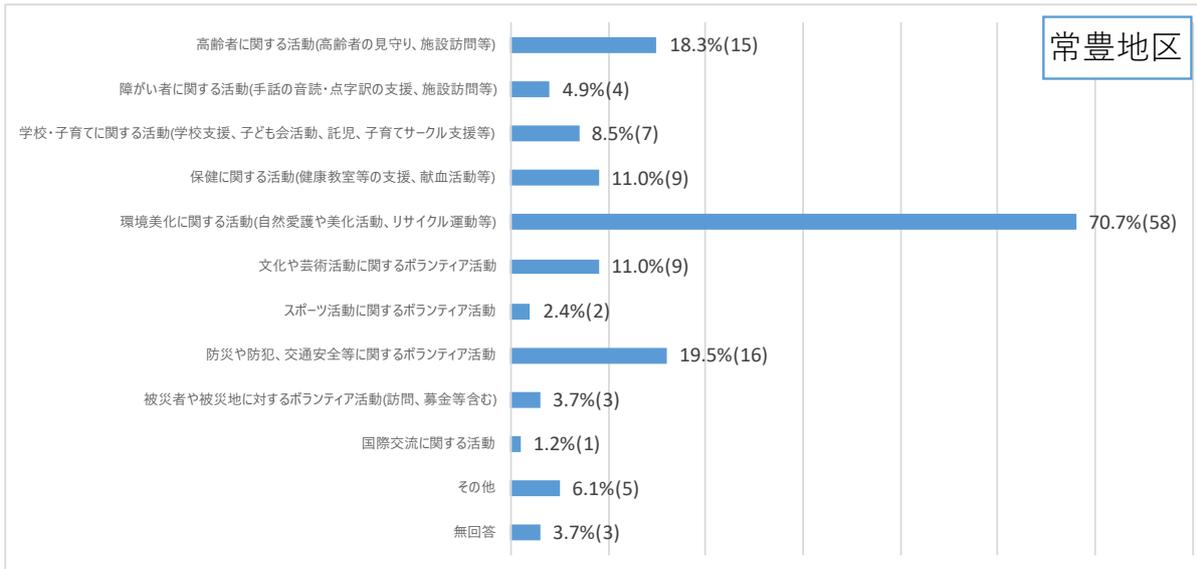


【N = 102】

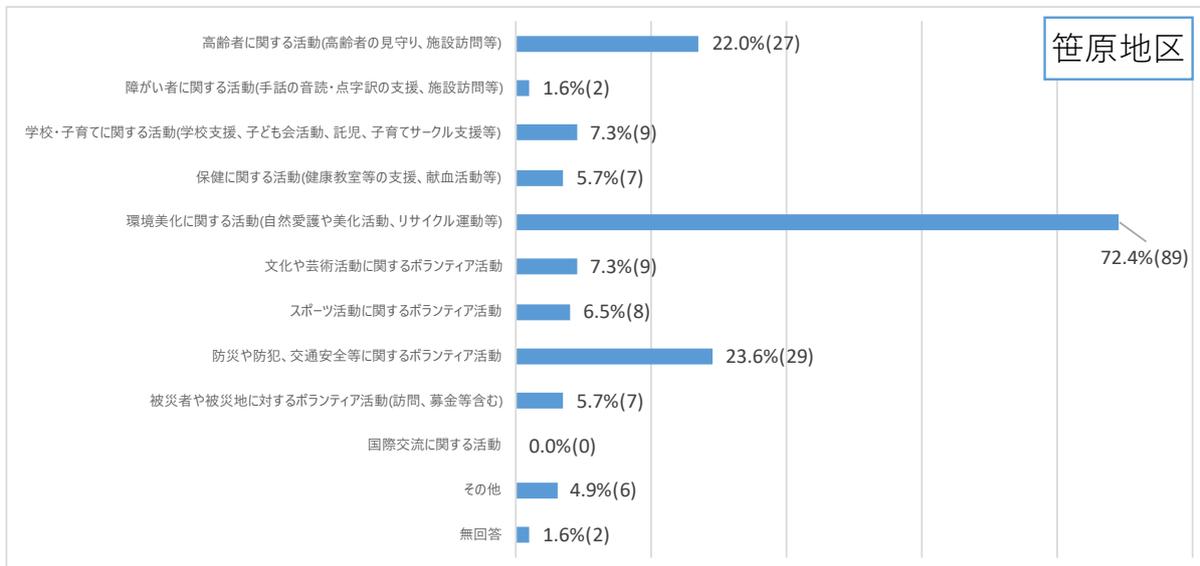


【資料編】 1 町民アンケート調査結果

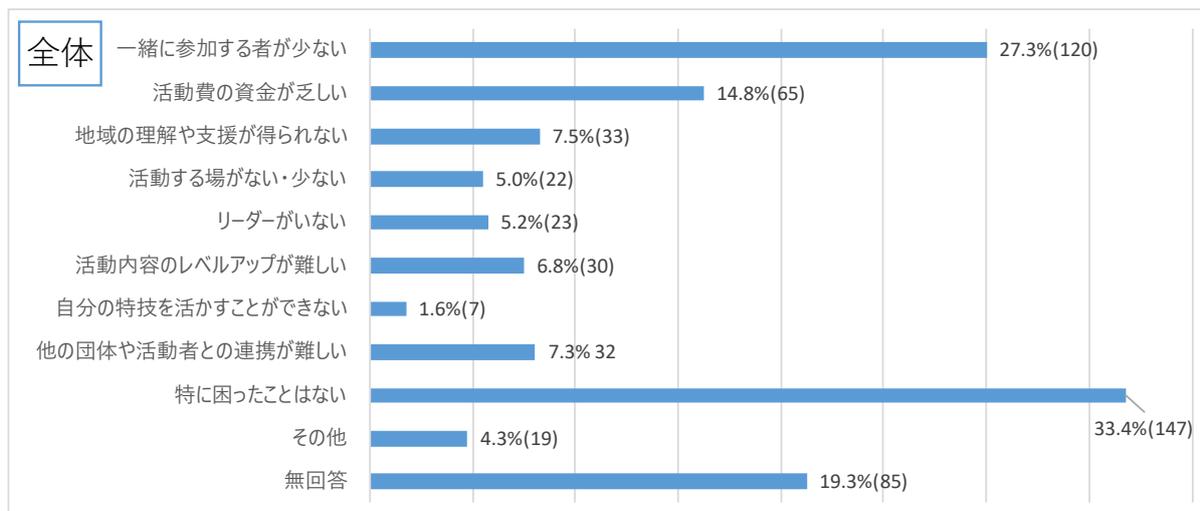
【N = 82】



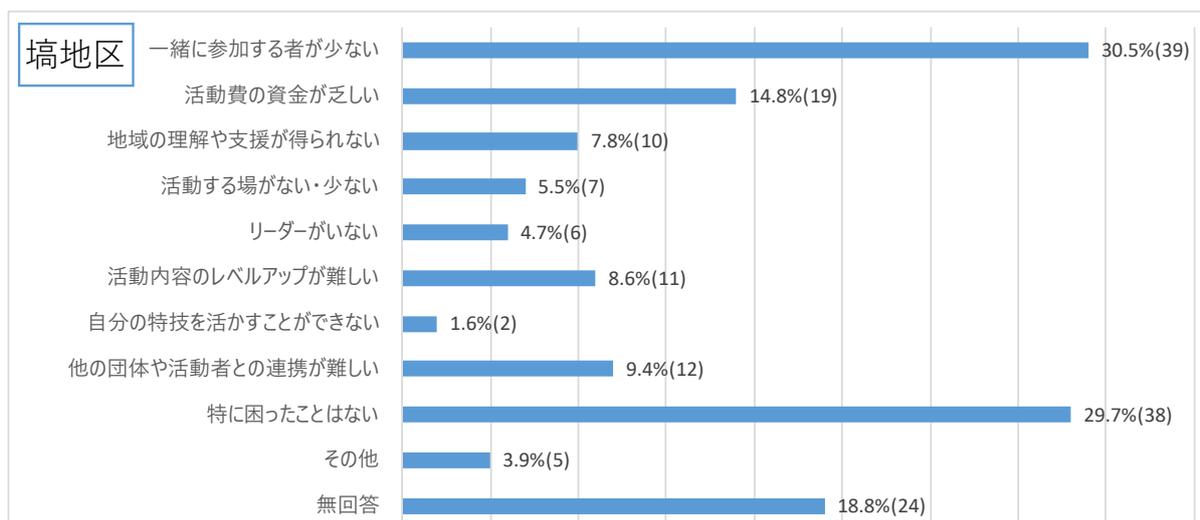
【N = 123】



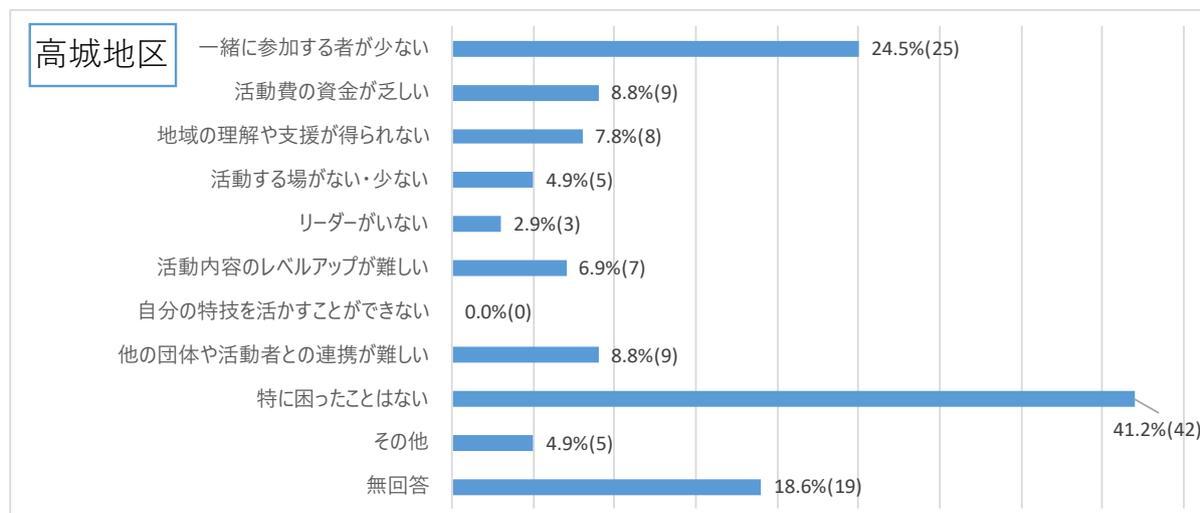
問25 問23で「1」「2」「3」と答えた方に伺います。地域活動に参加する中で、困ったことや苦勞したことはありますか。(あてはまるものすべてに○) 【N = 440】



【N = 128】

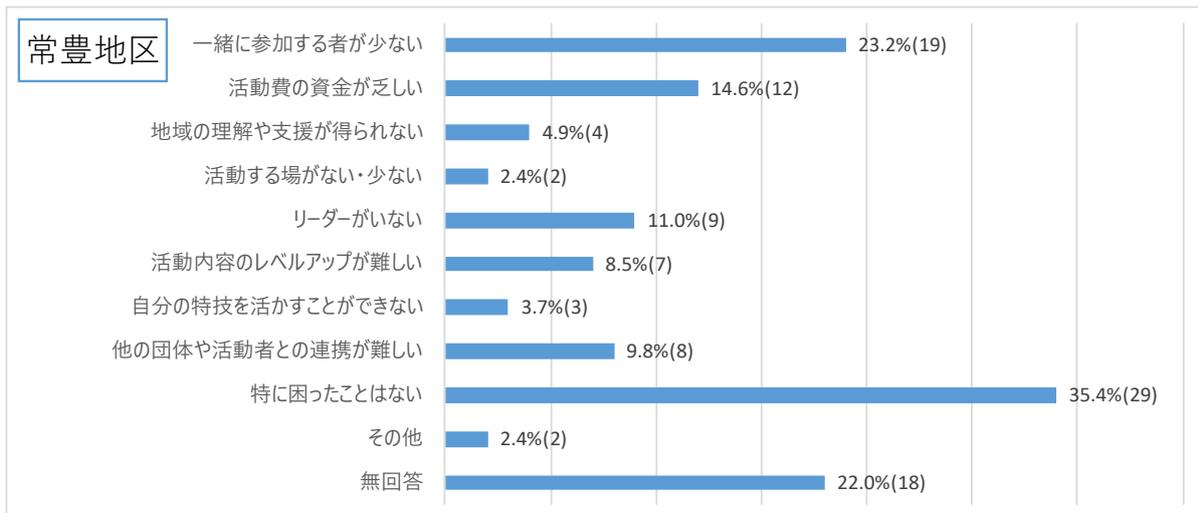


【N = 102】

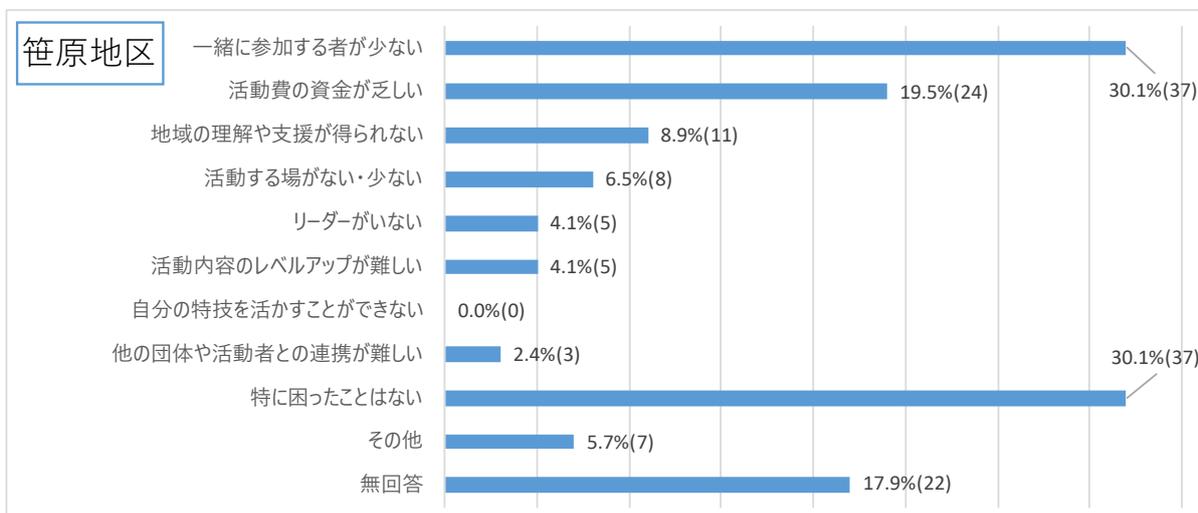


【資料編】 1 町民アンケート調査結果

【N = 82】



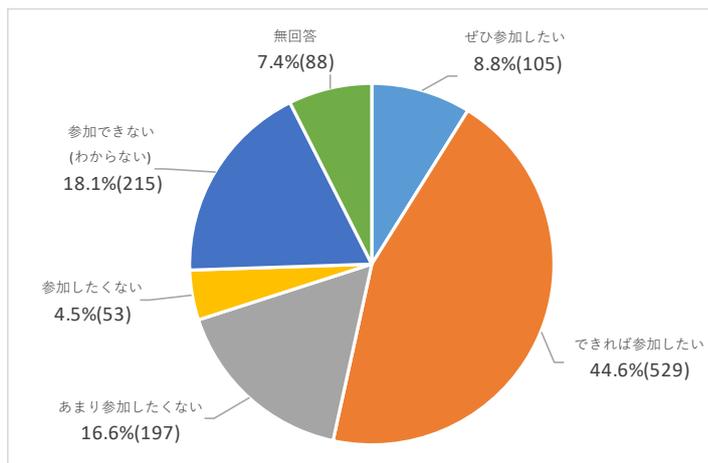
【N = 123】



問26 今後、あなたは地域活動に参加したいと思いますか。(1つだけに○)

【N = 1187】

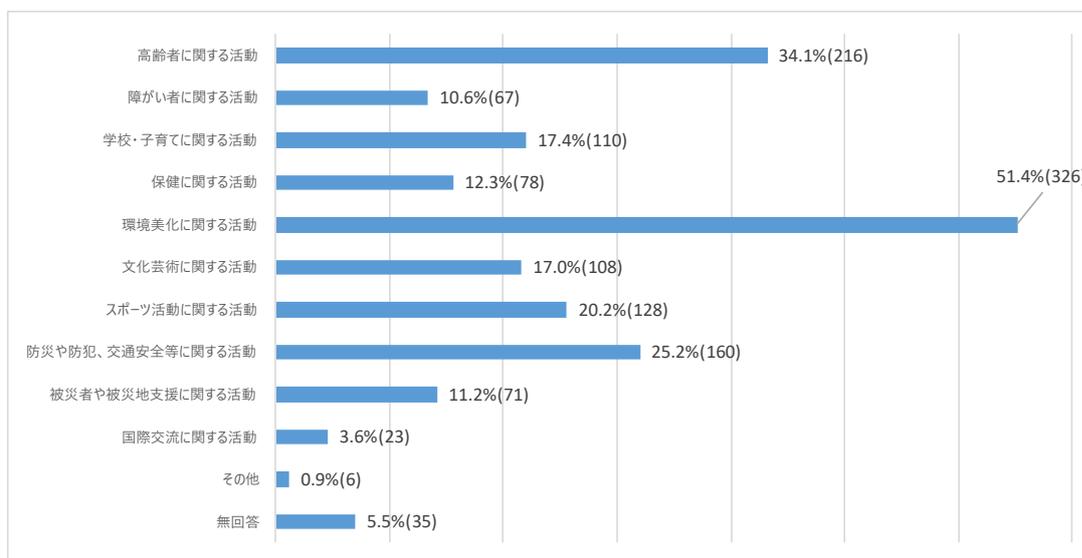
- 1 ぜひ参加したい
- 2 できれば参加したい
- 3 あまり参加したくない
- 4 参加したくない
- 5 参加できない(わからない)
- 6 無回答



問27 問26で「1」「2」と答えた方に伺います。どのような地域活動に参加したいですか。

(あてはまるものすべてに○)

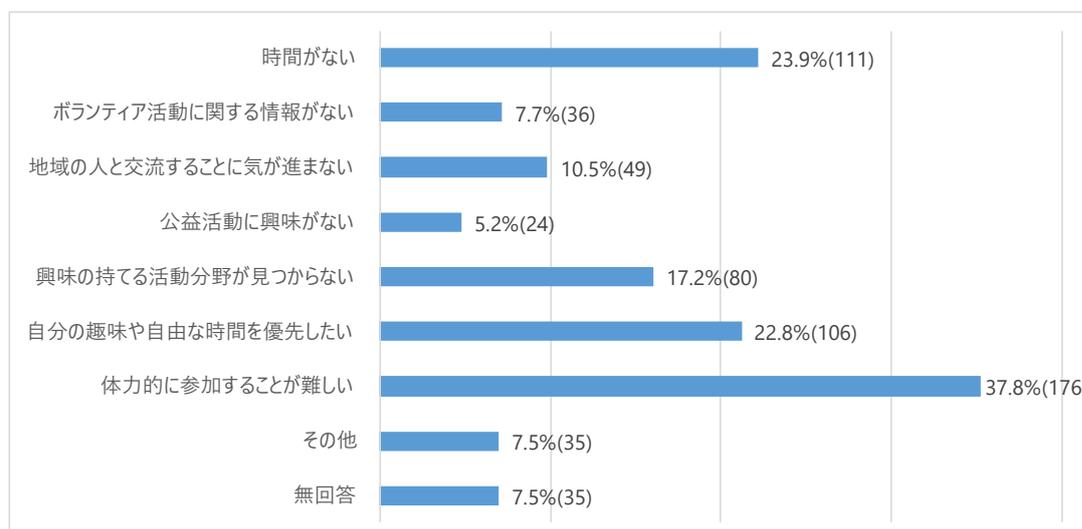
【N = 634】



問28 問26で「3」「4」「5」と答えた方に伺います。参加できない、参加したくない理由は

何ですか。(あてはまるものすべてに○)

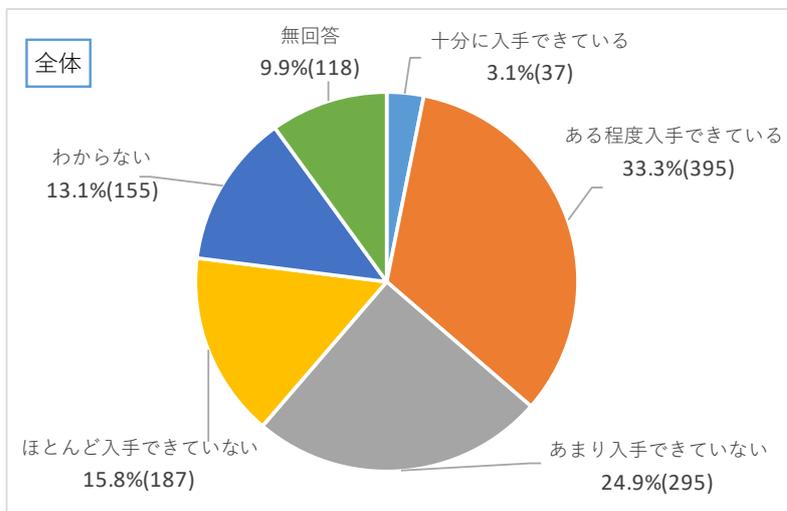
【N = 465】



4 福祉サービス全般について

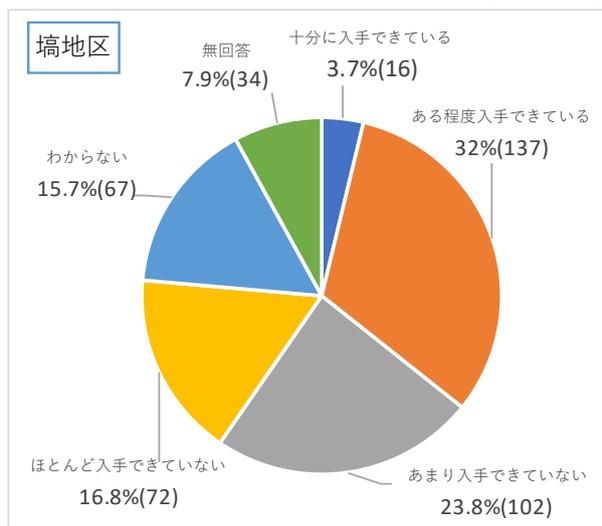
問29 あなたは、福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていると感じていますか。(1つだけに○)
【N = 1187】

- 1 十分に入手できている
- 2 ある程度入手できている
- 3 あまり入手できていない
- 4 ほとんど入手できていない
- 5 わからない
- 6 無回答

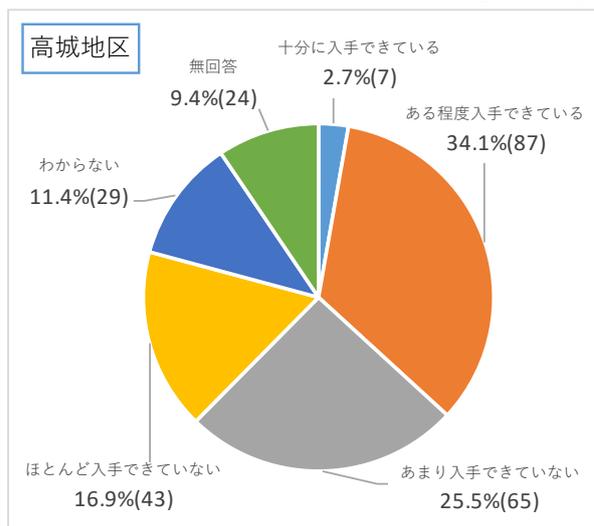


【N = 428】

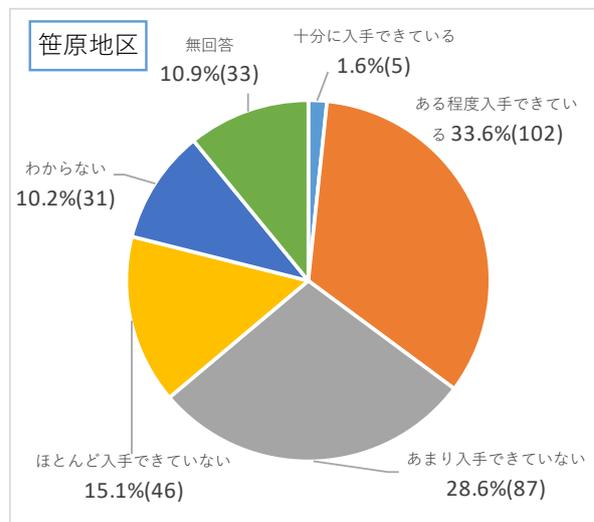
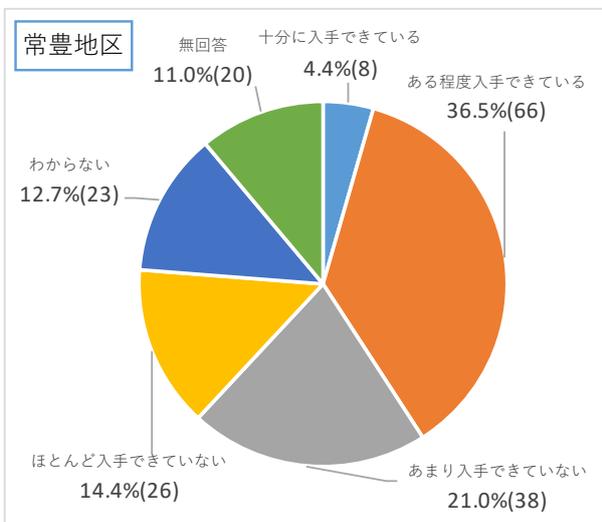
【N = 255】



【N = 181】

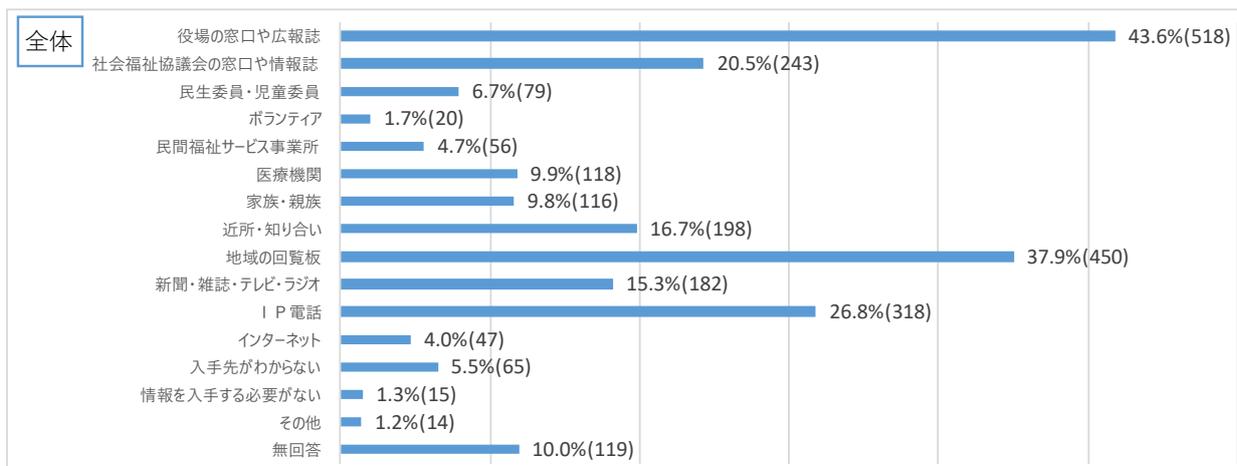


【N = 304】



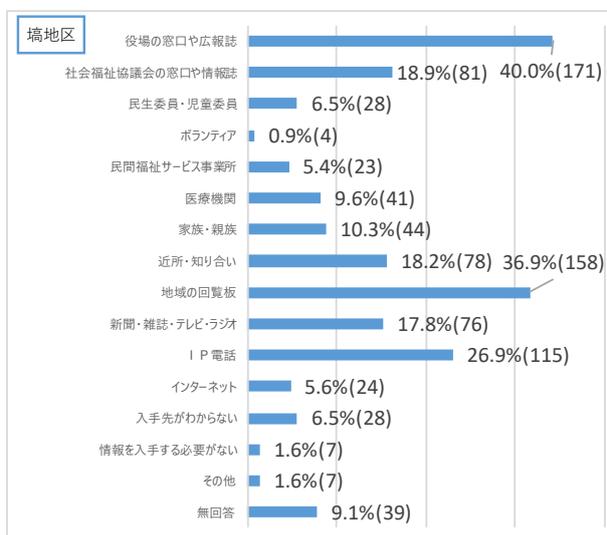
問30 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

【N=1187】

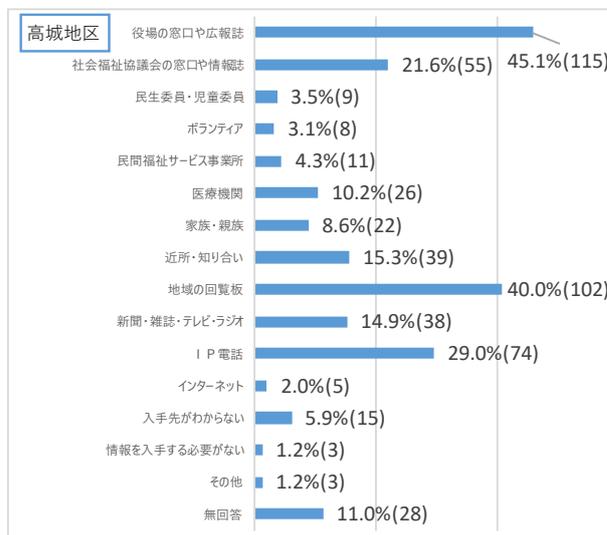


【N=428】

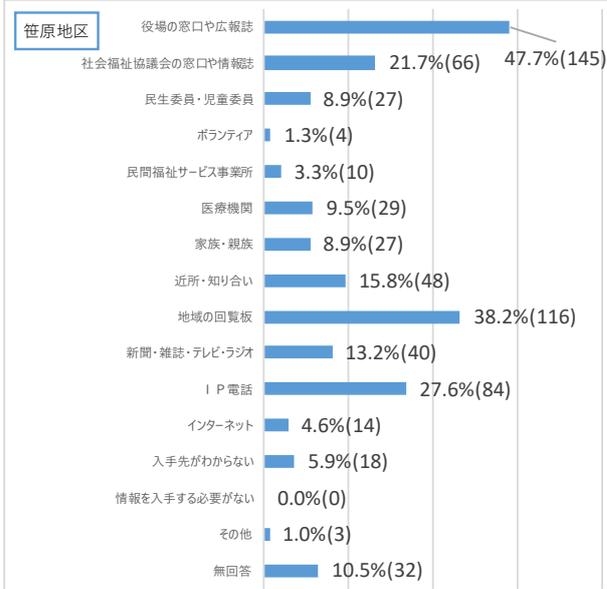
【N=255】



【N=181】



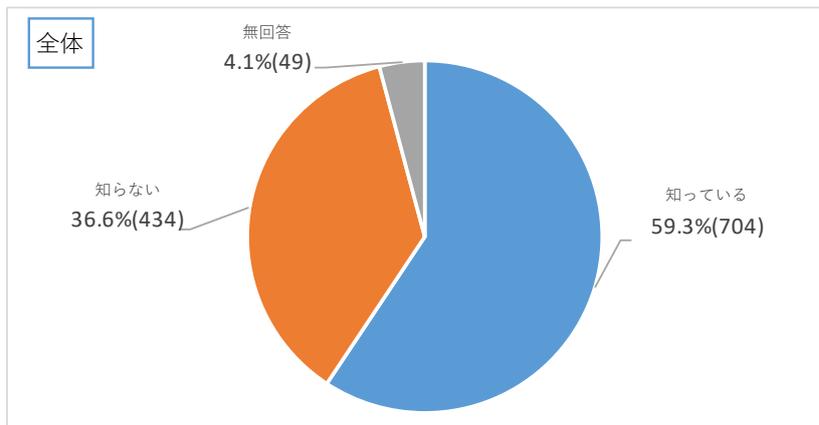
【N=304】



問31 あなたがお住いの地区の担当民生委員・児童委員を知っていますか。(1つだけに○)

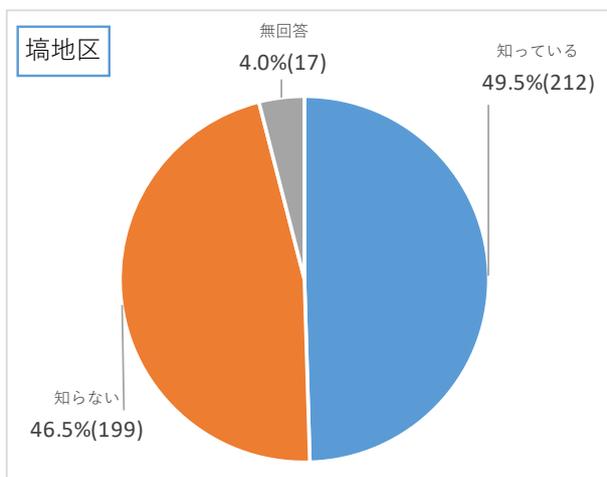
【N=1187】

- 1 知っている
- 2 知らない
- 3 無回答

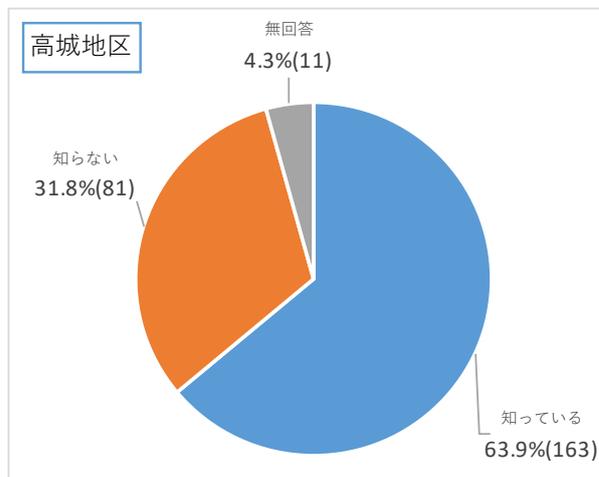


【N=428】

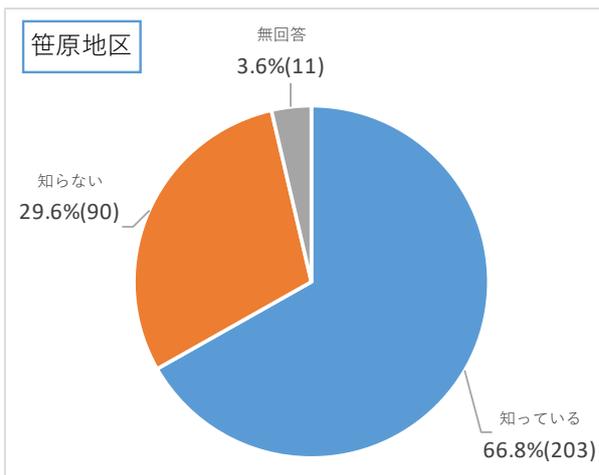
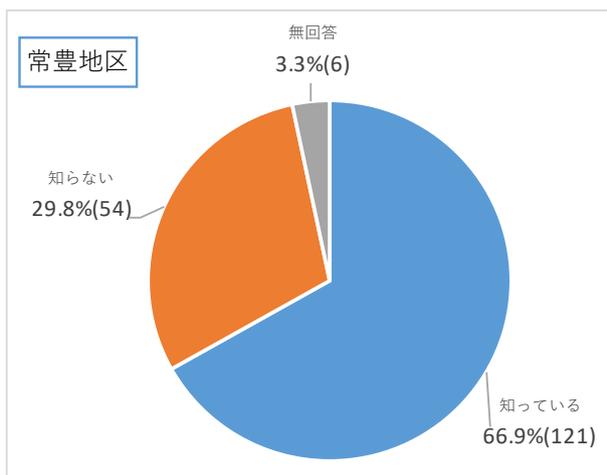
【N=255】



【N=181】



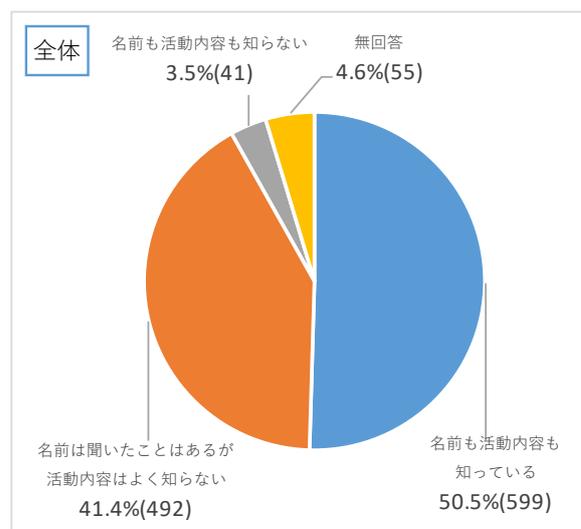
【N=304】



問32 あなたは、「埴町社会福祉協議会」を知っていますか。(1つだけに○)

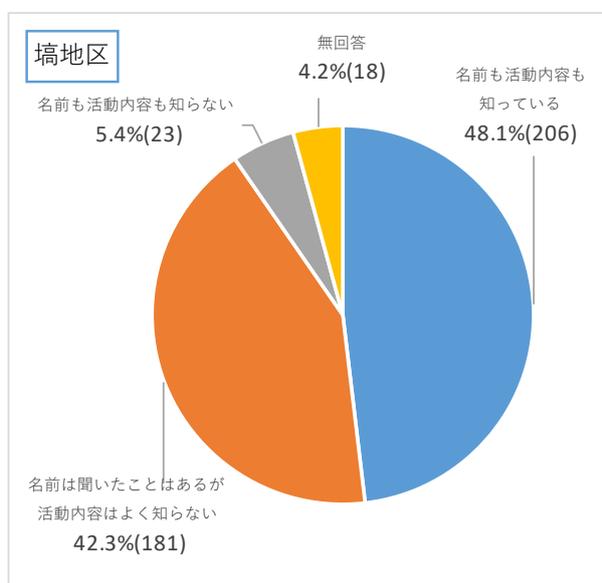
【N=1187】

- 1 名前も活動内容も知っている
- 2 名前は聞いたことはあるが活動内容はよく知らない
- 3 名前も活動内容も知らない
- 4 無回答

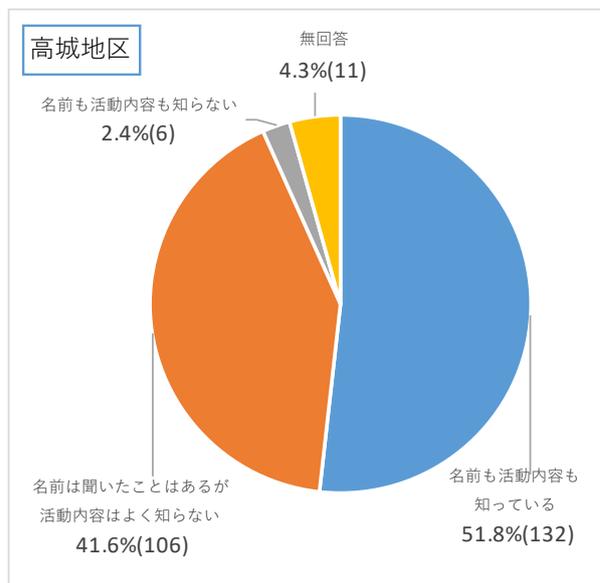


【N=428】

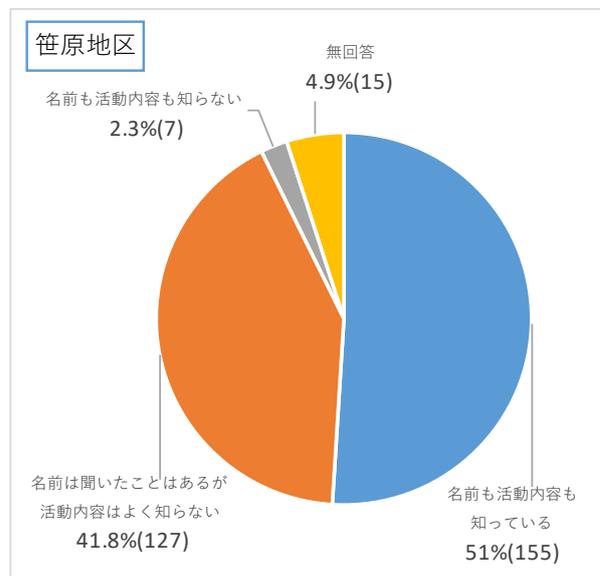
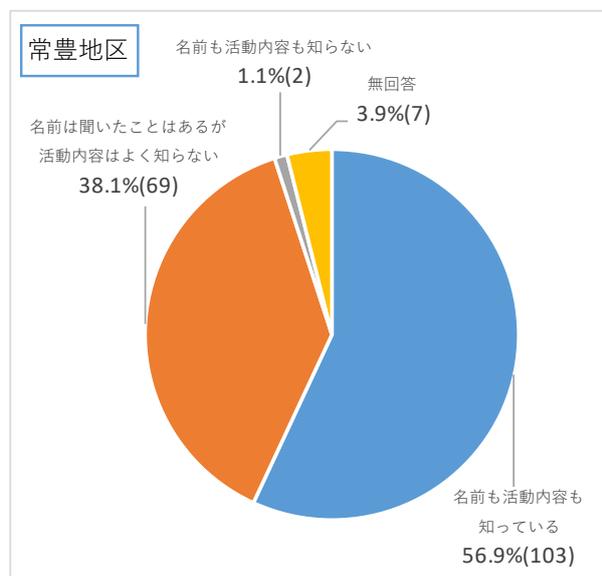
【N=255】



【N=181】



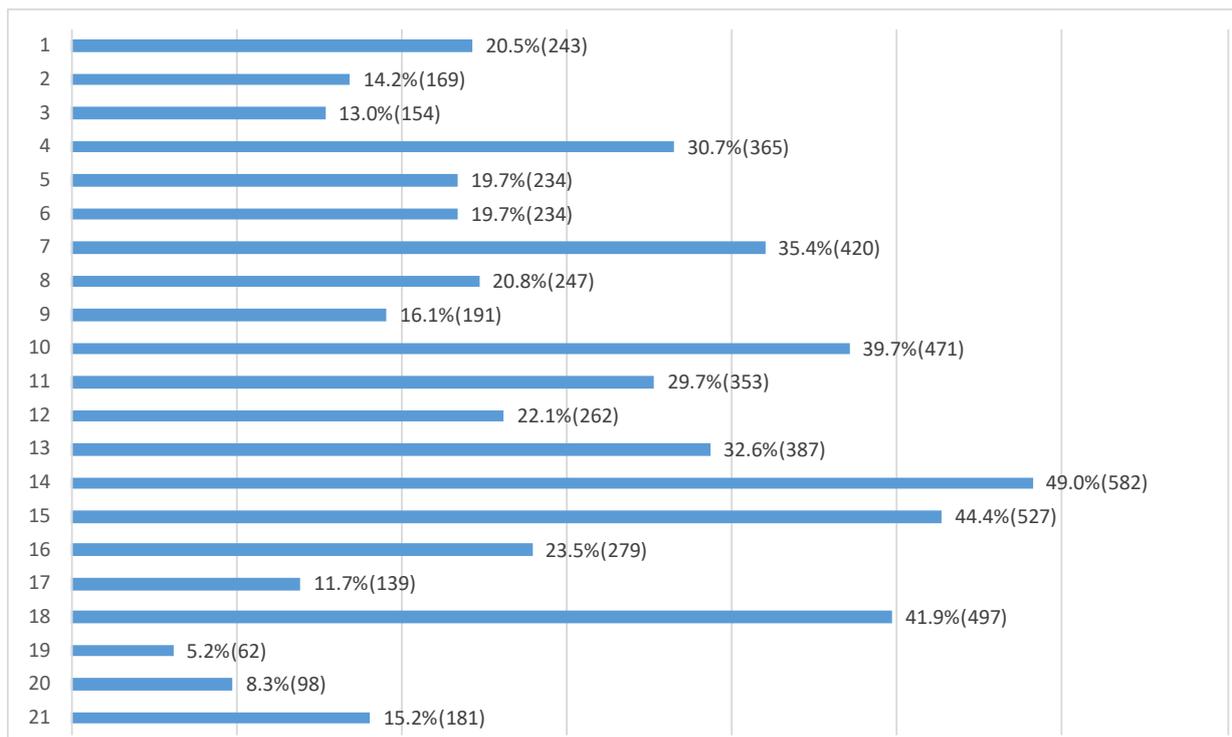
【N=304】



問33 あなたは、埴町社会福祉協議会が実施している下記の事業を知っていますか 【N=1187】

(あてはまるものすべてに○)

- 1 ボランティアセンター事業(ボランティア活動に関する相談、登録受付、連絡調整、情報発信及び啓発活動)
- 2 生活福祉資金の貸付事業(低所得世帯等の生活の立て直し、更生、経済的自立と生活の安定を図るための貸付)
- 3 生活援護資金貸付事業(一時的に生活資金などでお困りの方を対象に、生活の安定と助長を図るための貸付)
- 4 福祉用具等貸出事業(車いすや TENT、ニュースポーツセットの無料貸出)
- 5 あんしんサポート事業
(高齢や障がい等により判断能力が不十分な方を対象とした福祉サービスの利用支援、金銭管理)
- 6 福祉バス運行事業(各種福祉事業や福祉団体等の活動の支援をするための福祉バス貸出)
- 7 百歳賀寿事業(百歳を迎えた高齢者に対し、その長寿を祝い記念品を贈呈)
- 8 災害見舞金支援事業(災害及び水害等により罹災した方に対し、共同募金や日本赤十字社より見舞金を贈呈)
- 9 高齢者福祉電話貸出事業(非課税65歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、安否確認のための電話を貸与)
- 10 心配ごと相談事業(相談所を定期に開催し、日常生活上の様々な悩み事や困りごとの相談に応じる)
- 11 ひとり暮らし高齢者交流会(ひとり暮らし高齢者の方々の交流を促し、楽しんでもらう)
- 12 寝たきり高齢者介護世帯慰問事業(日常的に介護を行っている家族介護者のご労苦を慰労し慰問品を贈呈)
- 13 歳末たすけあい慰問事業(支援を必要とする人たちが新年を安心して迎えることができるよう慰問品を贈呈)
- 14 共同募金事業(「じぶんの町を良くするしくみ」である赤い羽根共同募金運動の推進)
- 15 日本赤十字社事業(国内の大規模災害や世界の自然災害の被災者支援のため社費募集)
- 16 福祉団体事務
(民生児童委員、老人クラブ連合会、赤十字奉仕団、身体障がい者福祉会、心身障がい児(者)親の会、遺族会)
- 17 福祉団体助成(町内の福祉団体や福祉事業所を対象に助成)
- 18 社協広報誌「こころ」の発行(地域福祉を推進することを目的に広報誌「こころ」を発行、全戸配布)
- 19 インターネットを活用した情報発信(社協ホームページ、インスタグラム、Twitter等SNSでの情報発信)
- 20 知らない
- 21 無回答

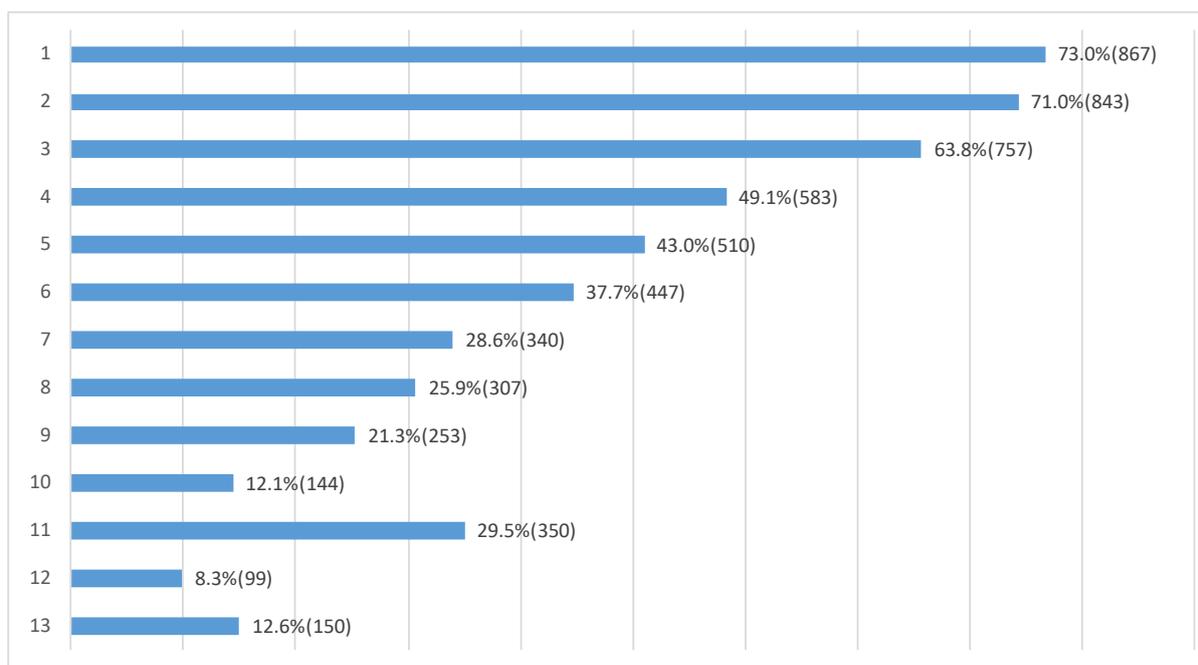


問34 あなたは、埴町社会福祉協議会が実施している下記の福祉サービスを知っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

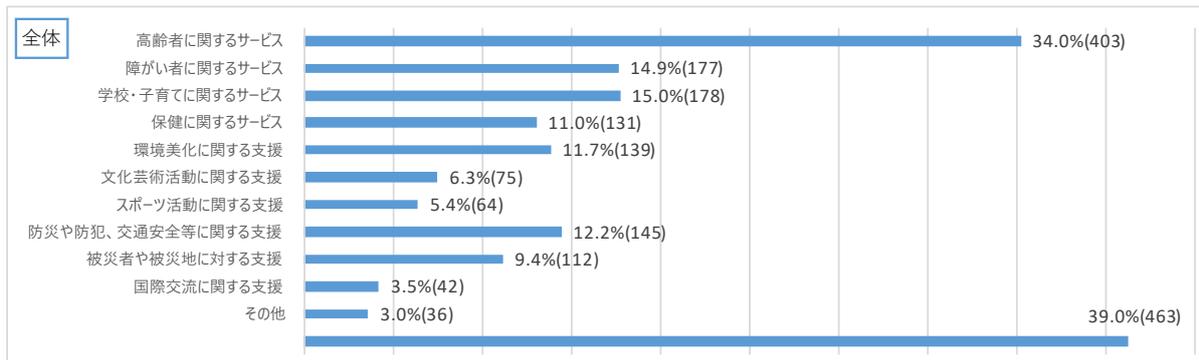
【N=1187】

- 1 訪問介護事業〔ヘルパー〕
(訪問介護員が利用者宅を訪問し身体介護や家事援助を行う)
- 2 通所介護事業〔デイサービス〕
(入浴や運動(機能訓練)を行う日帰りのサービス)
- 3 訪問入浴介護事業〔入浴車〕
(移動入浴車で浴槽を利用者宅に持ち込み入浴介助を行う)
- 4 居宅介護支援事業〔ケアマネージャー〕
(介護支援専門員が本人や家族の要望等からケアプランを作成)
- 5 訪問調査事業〔ケアマネージャー〕
(介護判定に必要な認定調査票の作成を行う)
- 6 地域包括支援センター
(高齢者の総合的な機関として町民の相談に応じたり、要支援認定者のケアプランを作成)
- 7 自立支援訪問介護事業〔ヘルパー〕
(障がい者を対象に訪問介護員が身体介護や身体介護を行う)
- 8 軽度生活支援事業〔ヘルパー〕
(在宅で生活する高齢者で介護認定等を受けていない方を対象に家事援助を行う)
- 9 移動支援事業〔ヘルパー〕
(単独での外出が困難な障がい者を対象に、訪問介護員が外出に付き添う)
- 10 育児支援家庭訪問事業〔ヘルパー〕
(養育支援の必要な家庭を対象に訪問介護員が育児指導や家事援助を行う)
- 11 障がい者訪問入浴事業〔入浴車〕
(障がい者を対象に、移動入浴車で浴槽を利用者宅に持ち込み入浴介助を行う)
- 12 知らない
- 13 無回答



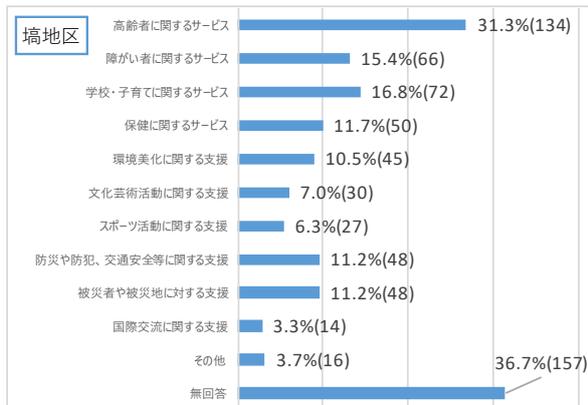
問35 地域で生活する上で不足していると思う福祉サービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【N=1187】

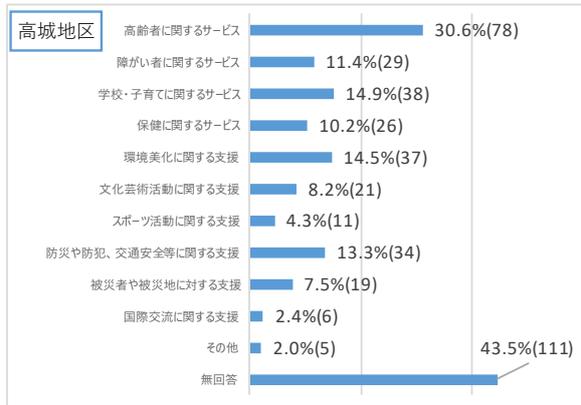


【N=428】

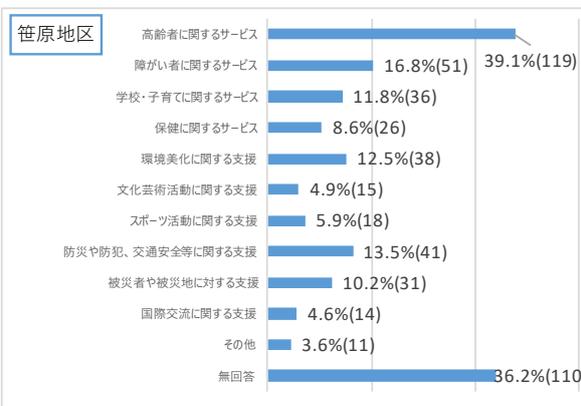
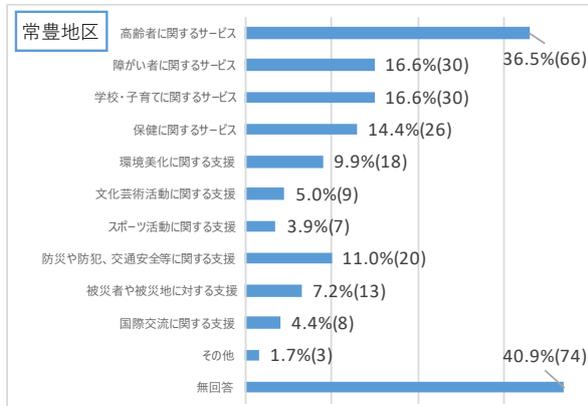
【N=255】



【N=181】



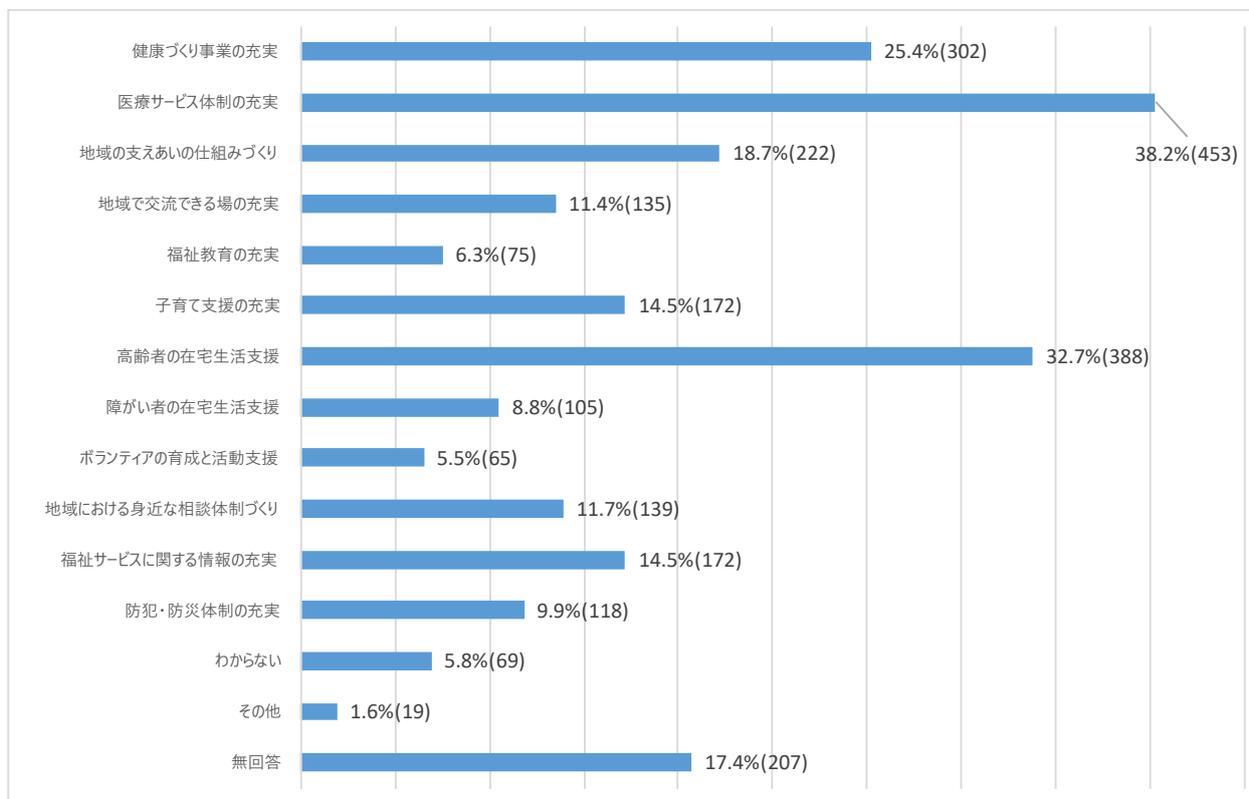
【N=304】



問36 今後、地域福祉を進めるために埴町・埴町社会福祉協議会はどのような施策に取り組むべきだと思いますか。

(優先度が高いと思うもの上位3つまで○)

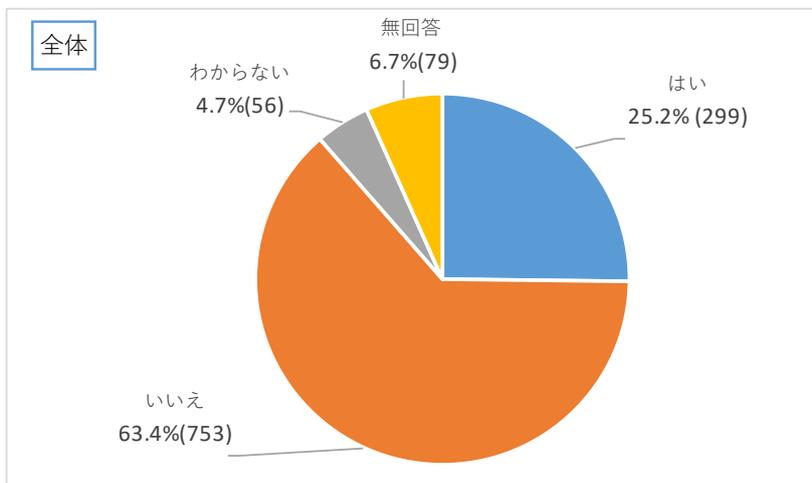
【N=1187】



5 災害時の対応について

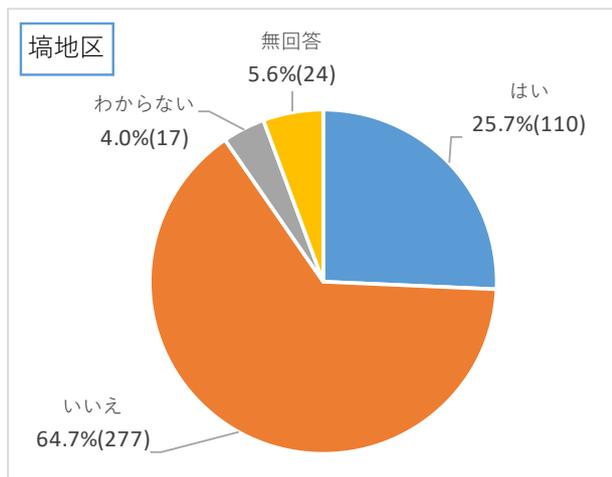
問37 あなたやあなたのご家族の中で、災害などの緊急時に、避難所への誘導など手助けが必要な方はいますか。(1つだけに○) 【N=1187】

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない
- 4 無回答

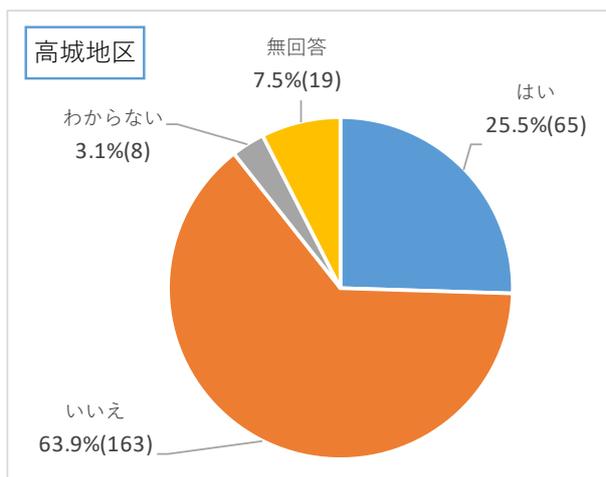


【N=428】

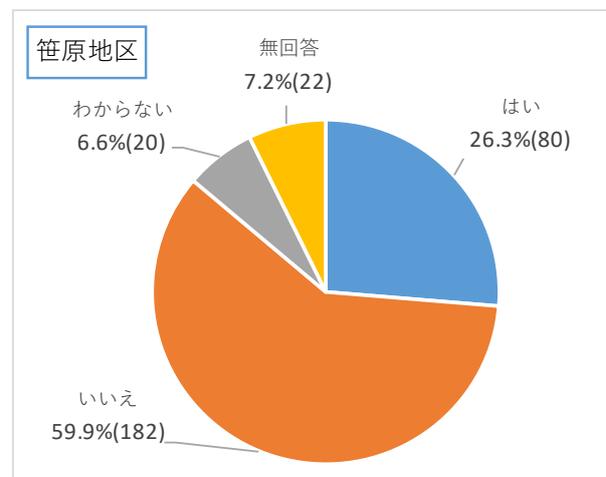
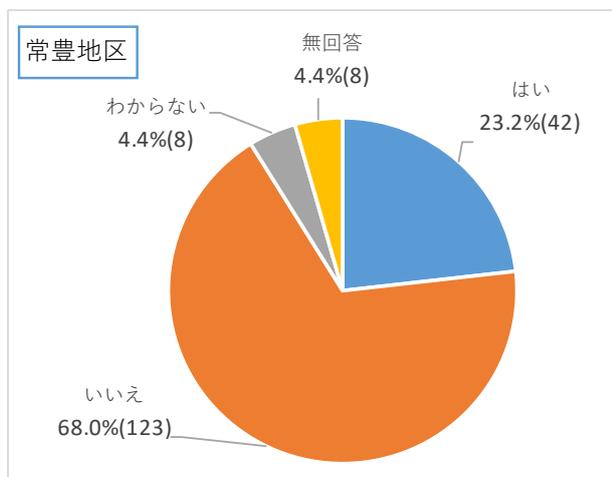
【N=255】



【N=181】



【N=304】

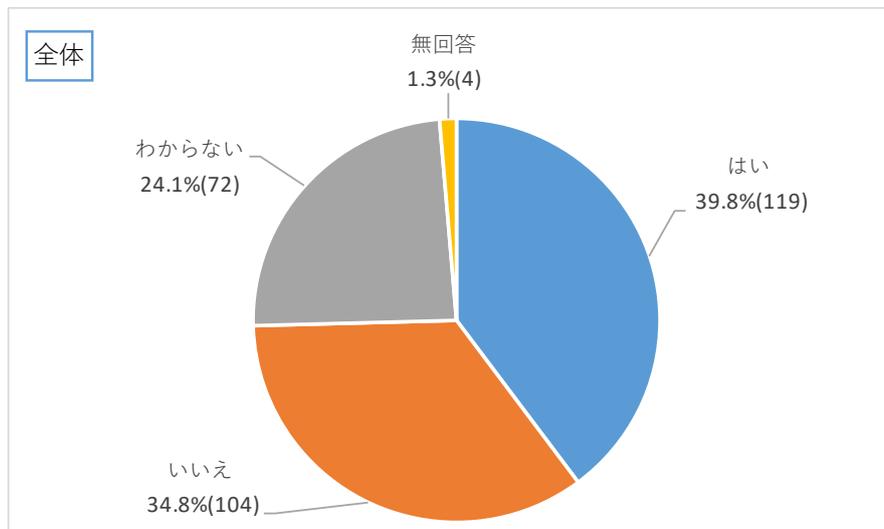


問38 問37で「1 はい」と答えた方に伺います。ご家族以外に手助けを頼める方はいますか。

(1つだけに○)

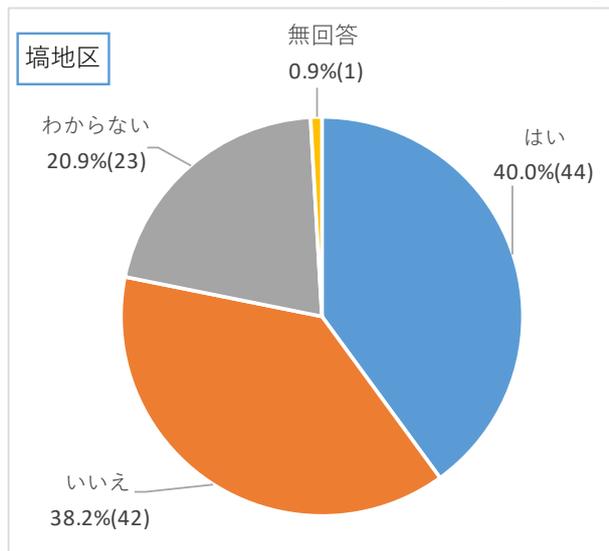
【N = 299】

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない
- 4 無回答

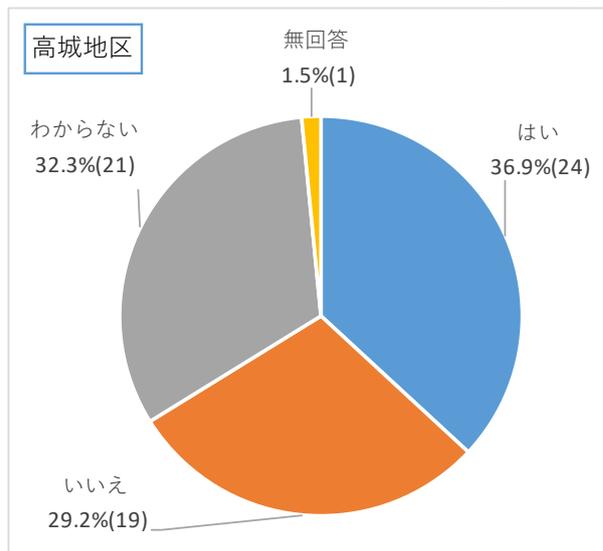


【N = 110】

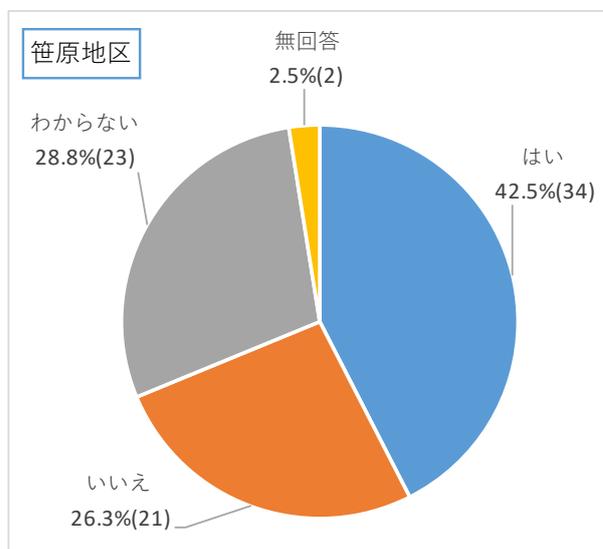
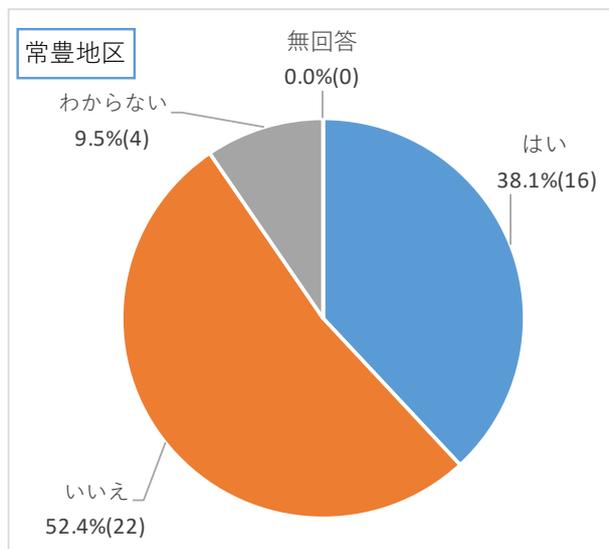
【N = 65】



【N = 42】

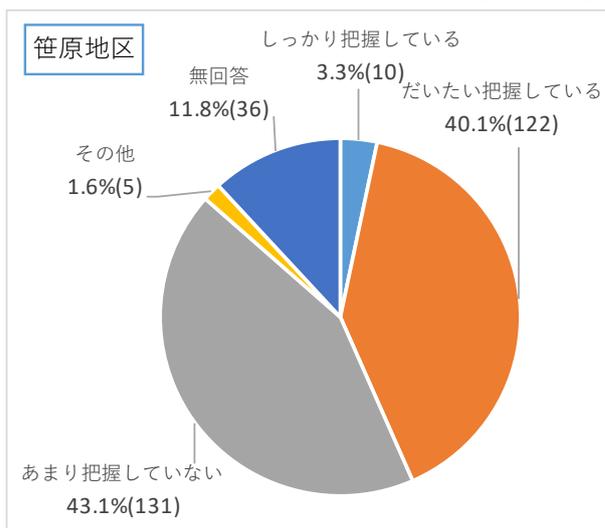
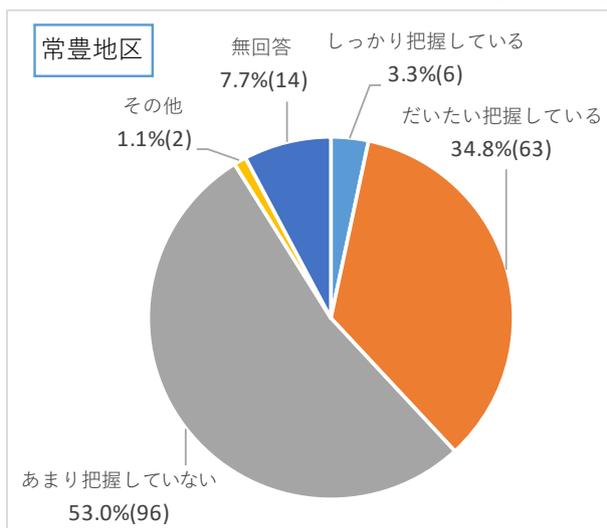
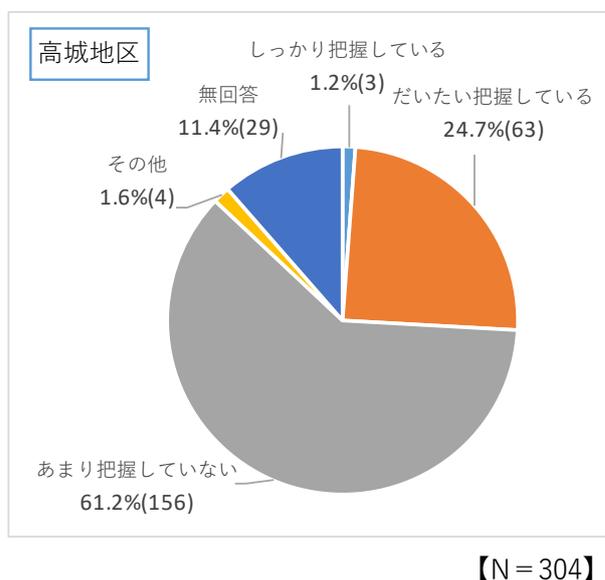
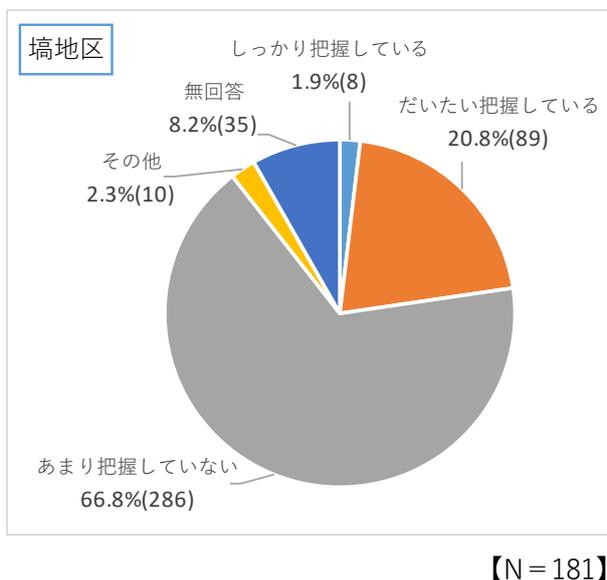
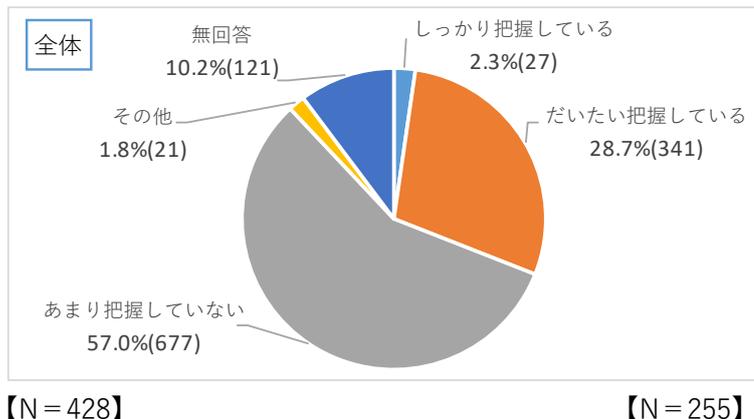


【N=80】



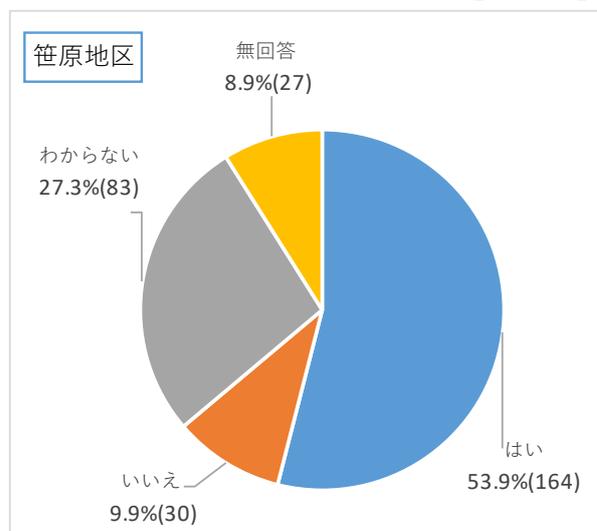
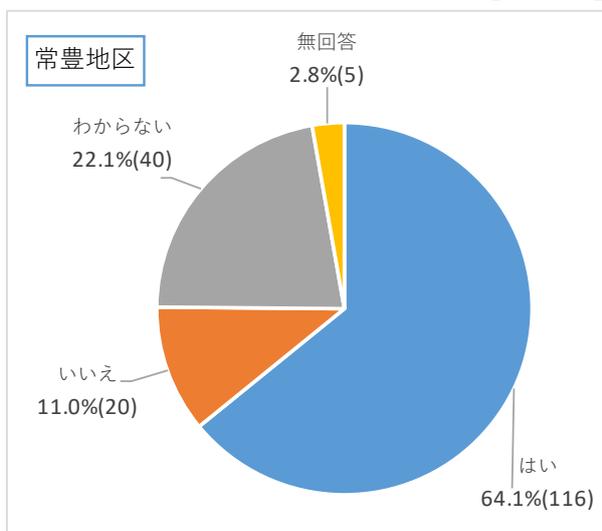
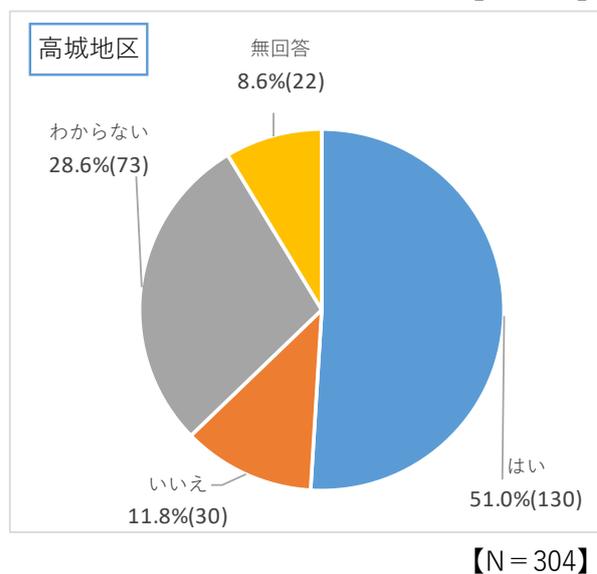
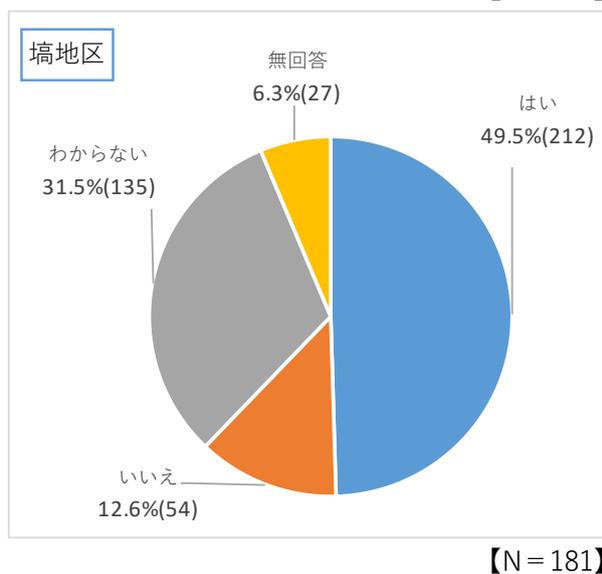
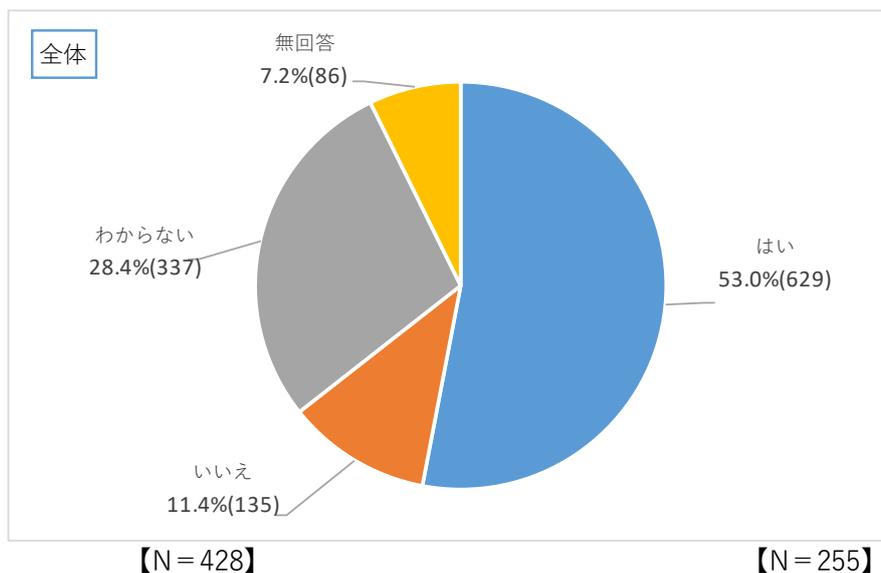
問39 あなたの地域の高齢者や障がいのある人のうち、災害発生時、避難所への移動に援助が必要な方がどのくらいいるか把握していますか。(1つだけに○) 【N = 1187】

- 1 しっかり把握している
- 2 だいたい把握している
- 3 あまり把握していない
- 4 その他
- 5 無回答



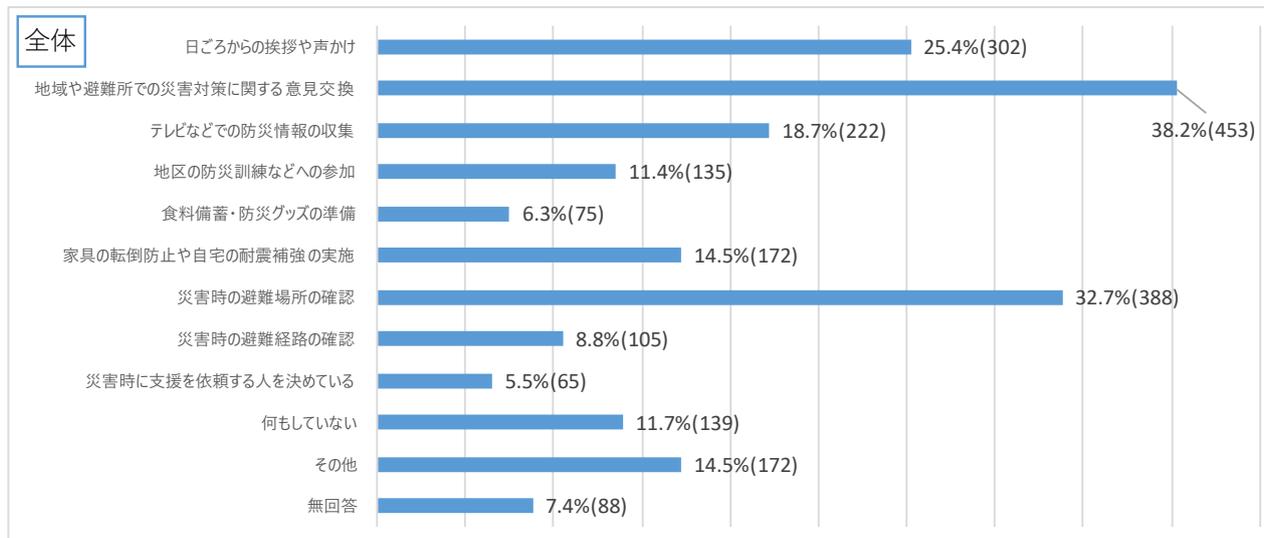
問40 災害などの緊急時に自分の安全が確保できたら、周りに援助が必要な高齢者や障がいのある人などがいた場合、その方の避難等の手助けができますか。(1つだけに○) 【N = 1187】

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない
- 4 無回答

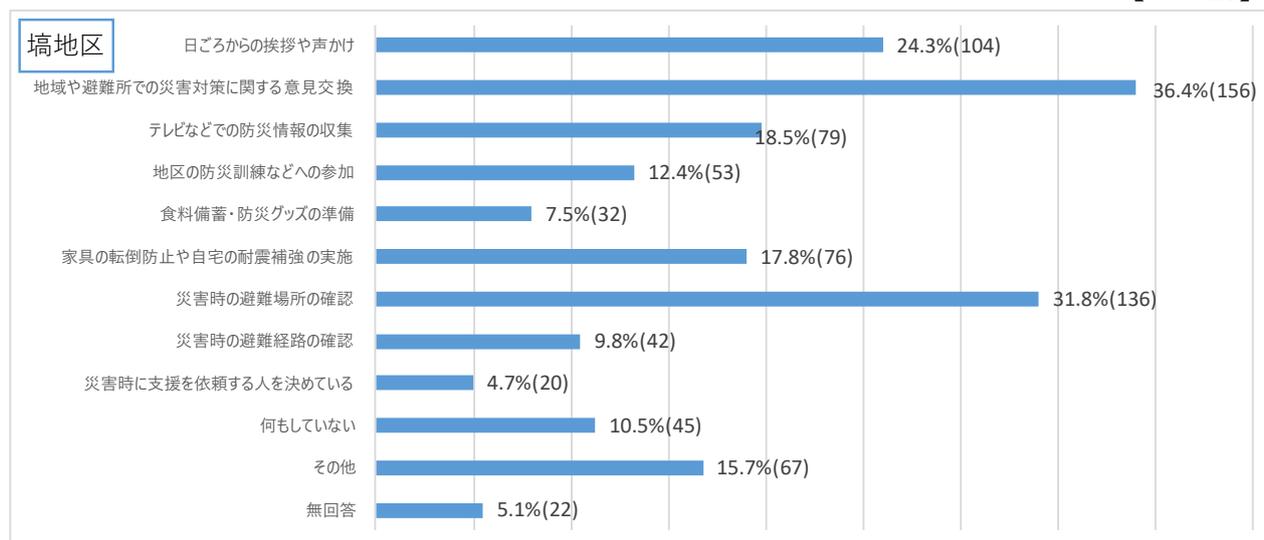


問41 災害発生に備え、日ごろ話し合いや準備などをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

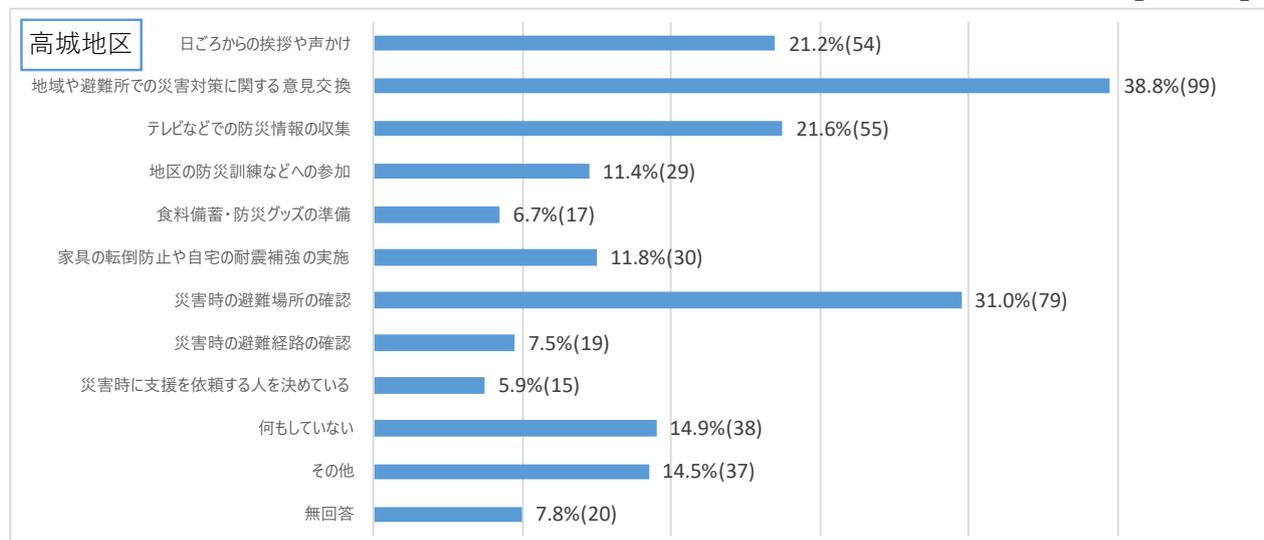
【N = 1187】

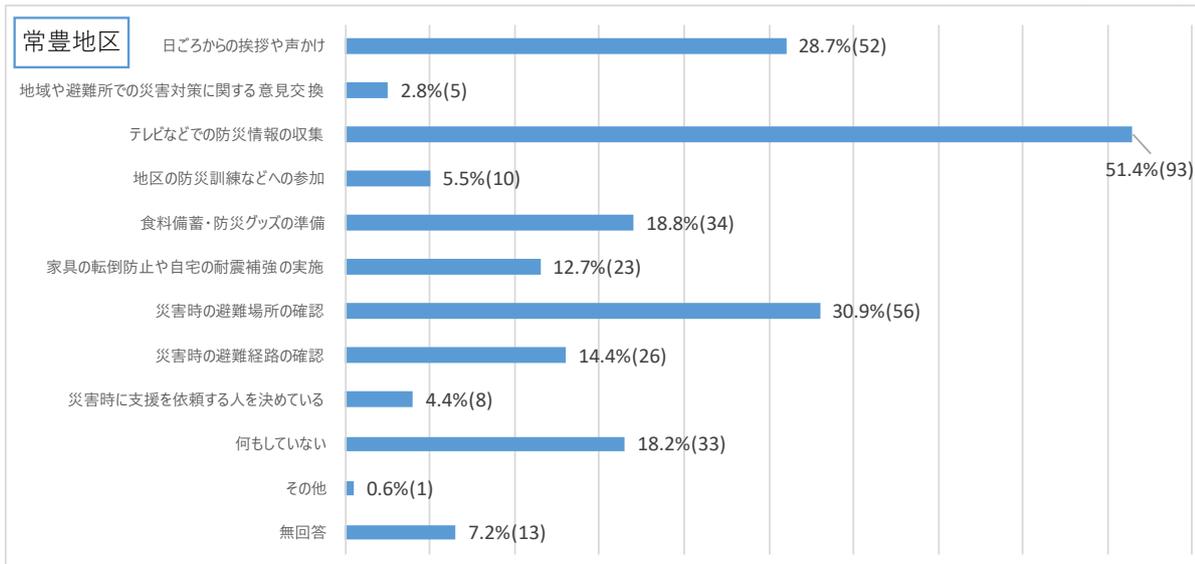


【N = 428】

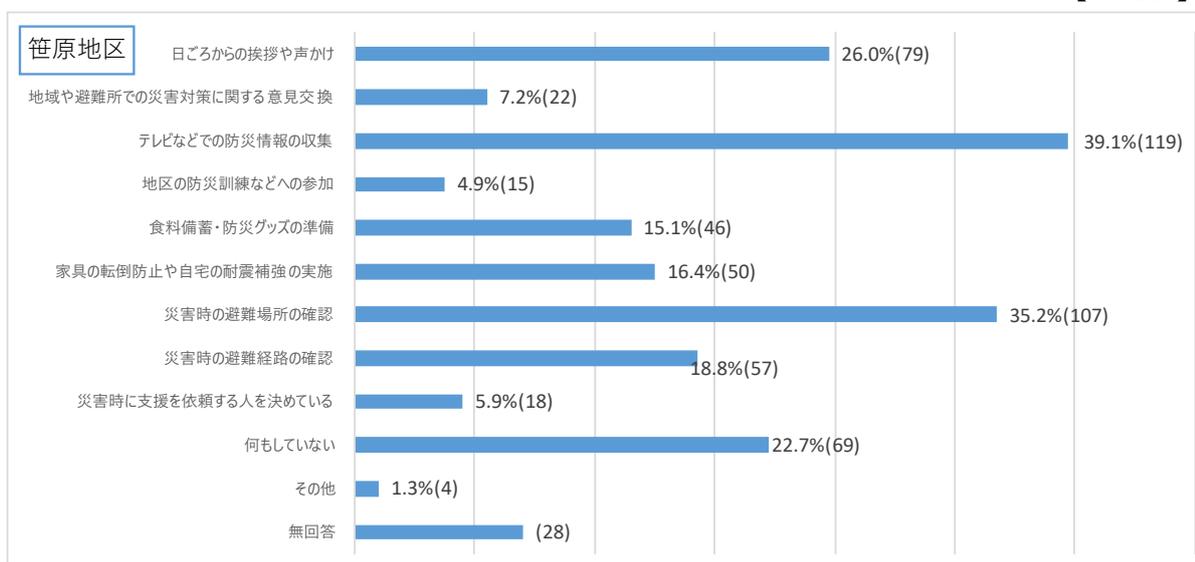


【N = 255】



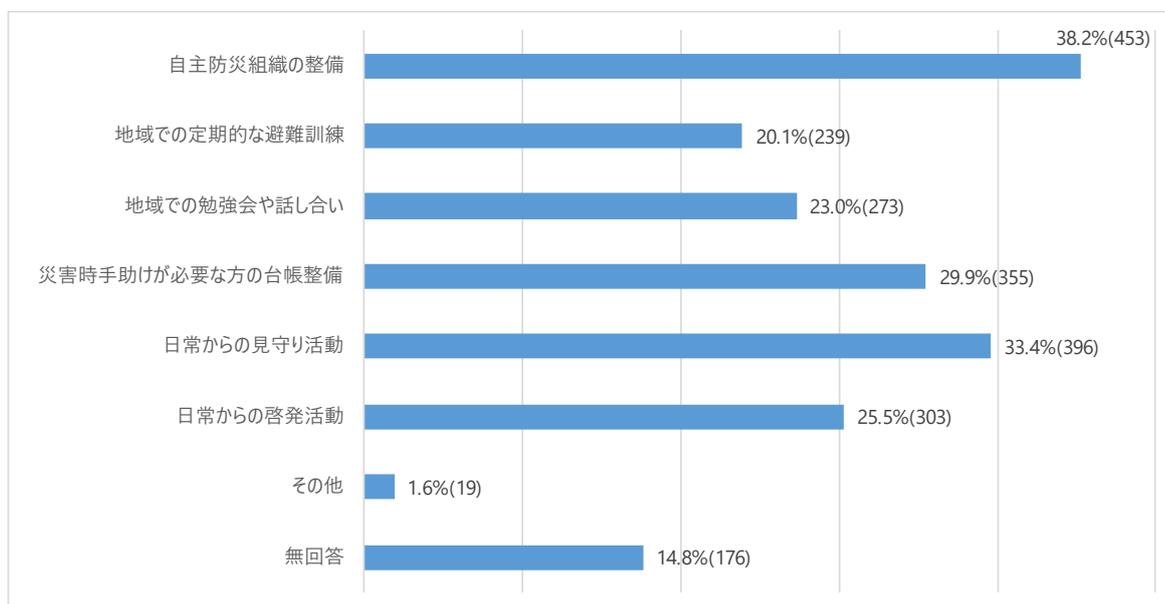


【N = 304】



問42 あなたは災害時に住民が支え合う地域づくりに何が必要だと思いますか。(主なもの3つまでに○)

【N = 1187】



2 子育て世代へのアンケート調査結果

子育て世代へのアンケート調査の概要

1 調査の目的

埴町社会福祉協議会では、本調査において、「子育て世代」の子育て支援のニーズ及びボランティアへの意識を把握し、「埴町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、アンケートを実施した。

2 調査の内容

上記の目的を達成するため、本調査では下記の項目について質問を実施した。

- (1) 回答者について
- (2) お子さんの人数について
- (3) お子さんの年齢について
- (4) 同居の家族について
- (5) 就労状況について
- (6) 子育てを主に行っている方について
- (7) 休園、休校の際について
- (8) 近所付き合いについて
- (9) お子さんの病気やけがの時の対応について
- (10) 保護者の方の用事の際の対応について
- (11) 子育ての環境を良くするためにあったらよいと思うもの
- (12) ボランティアについて

3 調査対象者

はなわこども園及び笹原幼稚園園児の保護者
埴小学校及び笹原小学校児童の保護者

合計 605名

4 調査方法

調査方法は次のとおりである。

- (1) 調査方法
各園、各小学校から保護者の方へ配布いただき、アンケート記入後は各園、各小学校でとりまとめいただいた後回収。
- (2) 調査期間
令和2年7月22日（火）から8月31日（月）

5 回収結果

有効回答数：293人（回収率：48.4%）

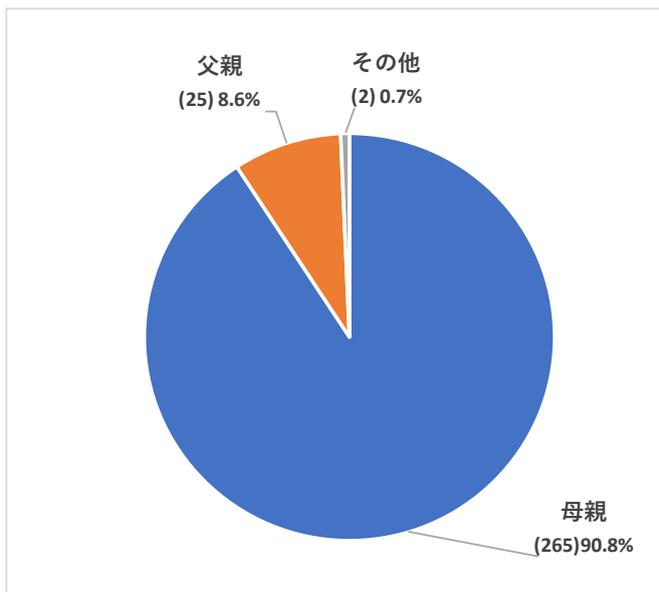
【資料編】 2子育て世代へのアンケート調査結果

問1： ご回答いただく方はどなたですか？お子さまからみた関係でお答えください。
 (1つに○をつけてください。)

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 母親	265	90.8%
2 父親	25	8.6%
3 その他	2	0.7%
合計	292	100.0%

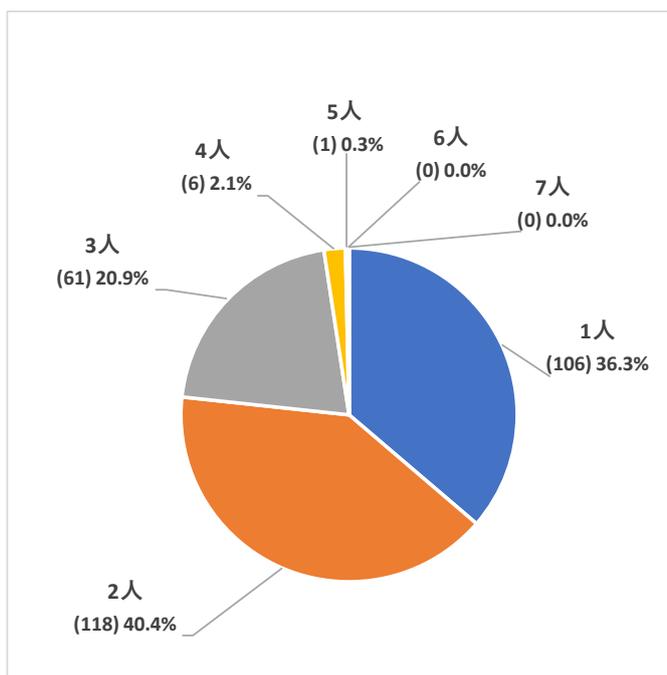
【その他】 祖母 (2)



問2： 12歳以下のお子さんの人数は何人ですか？

【N = 293】

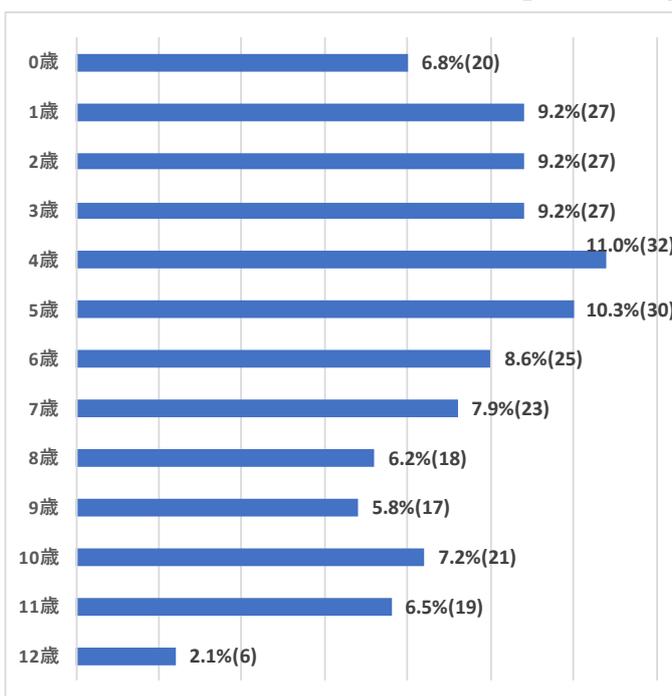
	人数(人)	割合(%)
1 1人	106	36.3%
2 2人	118	40.4%
3 3人	61	20.9%
4 4人	6	2.1%
5 5人	1	0.3%
6 6人	0	0.0%
7 7人	0	0.0%
合計	292	100.0%



問3： 一番年下のお子さんの年齢は何歳ですか？

【N = 293】

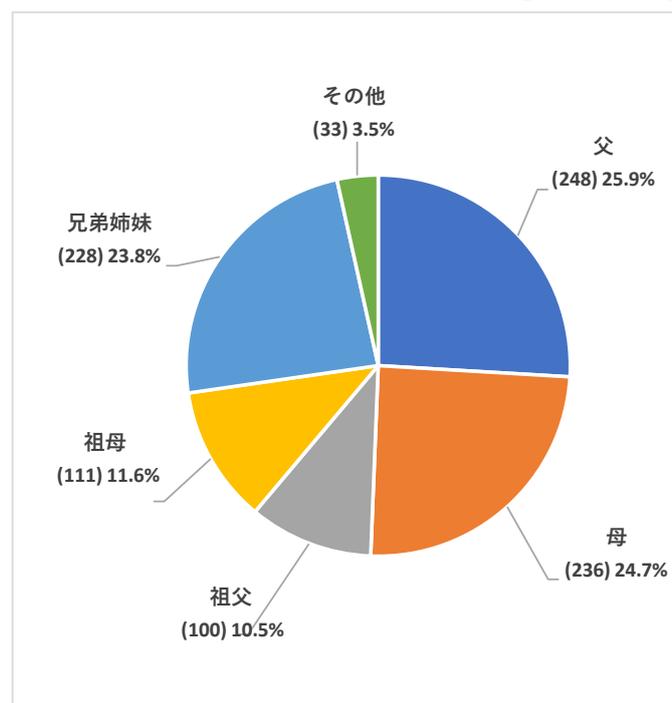
	人数(人)	割合(%)
1 0歳	20	6.8%
2 1歳	27	9.2%
3 2歳	27	9.2%
4 3歳	27	9.2%
5 4歳	32	11.0%
6 5歳	30	10.3%
7 6歳	25	8.6%
8 7歳	23	7.9%
9 8歳	18	6.2%
10 9歳	17	5.8%
11 10歳	21	7.2%
12 11歳	19	6.5%
13 12歳	6	2.1%
合計	292	100.0%



問4： 同居の親族はどなたですか？（あてはまるもの全てに○をつけてください。）

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 父	248	25.9%
2 母	236	24.7%
3 祖父	100	10.5%
4 祖母	111	11.6%
5 兄弟姉妹	228	23.8%
6 その他	33	3.5%
合計	956	100.0%



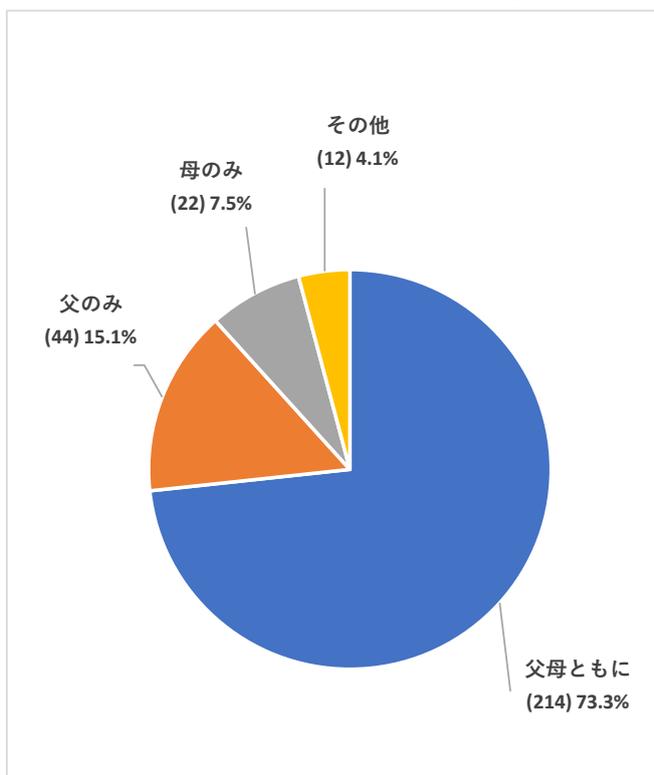
- 【その他】
- 子供だけ
 - 曾祖父・曾祖母
 - 曾祖父（2）
 - 曾祖母（5）
 - 叔父（2）
 - 叔母（4）
 - 叔母・叔父
 - 叔母・曾祖母
 - 叔母・従兄弟
 - 甥
 - いない

問5： 就労しているのはどなたですか？（1つに○をつけてください。）

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 父母ともに	214	73.3%
2 父のみ	44	15.1%
3 母のみ	22	7.5%
4 その他	12	4.1%
合計	292	100.0%

【その他】 父・祖父母（2）
 父・祖父・祖母
 祖父
 祖父母
 父・母・祖父・祖母・叔母
 母・祖父
 母・祖母
 母・兄
 母・祖父・祖母・叔父
 曾祖母（2）

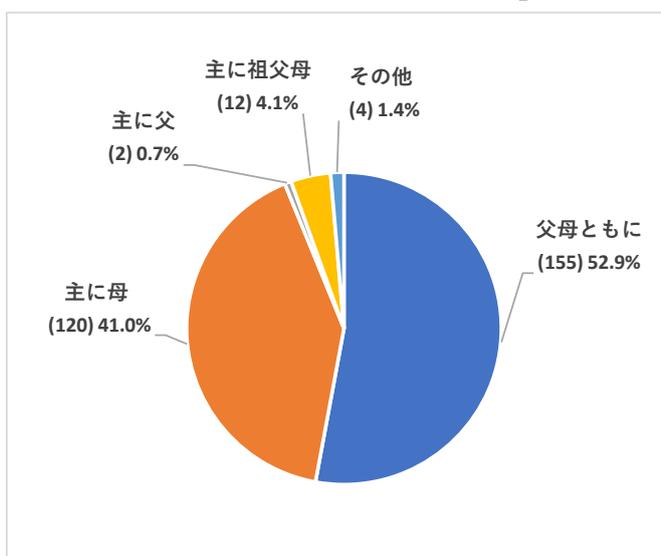


問6： 子育てを主におこなっているのはどなたですか？（1つだけに○をつけてください。）

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 父母ともに	155	52.9%
2 主に母	120	41.0%
3 主に父	2	0.7%
4 主に祖父母	12	4.1%
5 その他	4	1.4%
合計	293	100.0%

【その他】 母・祖父母
 叔父（2）
 叔母

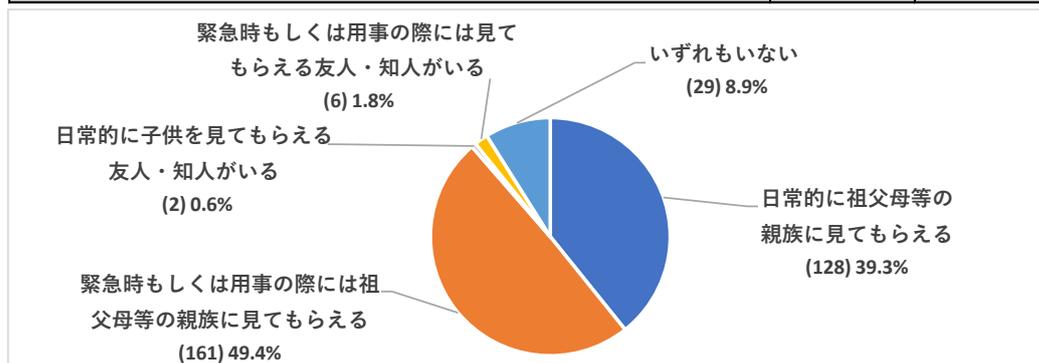


問7： 休園、休校の際にお子さんを見てもらえる親族・知人はいますか？

(あてはまるものに○をつけてください。複数回答可)

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 日常的に祖父母等の親族に見てもらえる	128	39.3%
2 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に見てもらえる	161	49.4%
3 日常的に子供を見てもらえる友人・知人がいる	2	0.6%
4 緊急時もしくは用事の際には見てもらえる友人・知人がいる	6	1.8%
5 いずれもない	29	8.9%
合計	326	100.0%

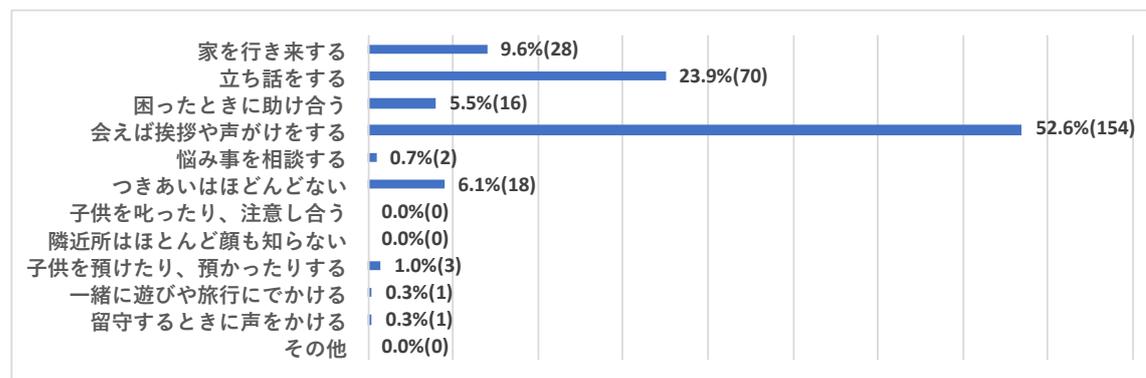


問8： あなたのご家族では、ご近所とどの程度お付き合いをしていますか？

(最もあてはまるもの1つに、○をつけてください。)

【N = 293】

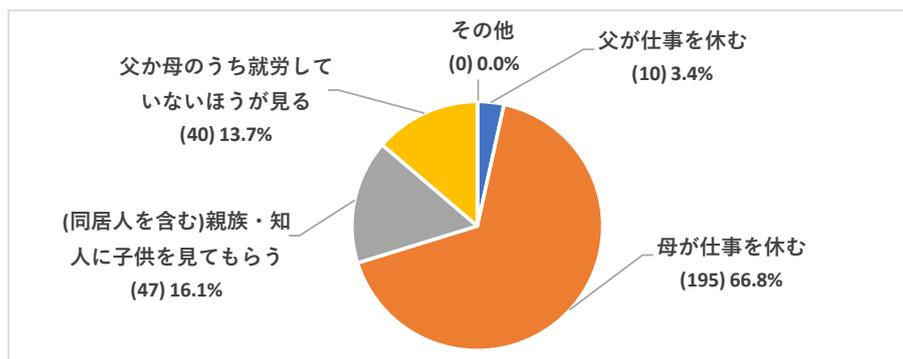
	人数(人)	割合(%)
1 家を行き来する	28	9.6%
2 立ち話をする	70	23.9%
3 困ったときに助け合う	16	5.5%
4 会えば挨拶や声がけをする	154	52.6%
5 悩み事を相談する	2	0.7%
6 つきあいはほとんどない	18	6.1%
7 子供を叱ったり、注意し合う	0	0.0%
8 隣近所はほとんど顔も知らない	0	0.0%
9 子供を預けたり、預かったりする	3	1.0%
10 一緒に遊びや旅行にでかける	1	0.3%
11 留守するときに声をかける	1	0.3%
12 その他	0	0.0%
合計	293	100.0%



問9： お子さんが病気やけがをされた際の対応で一番多い対応はどれですか？
 (1つに○をつけてください。)

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 父が仕事を休む	10	3.4%
2 母が仕事を休む	195	66.8%
3 (同居人を含む)親族・知人に子供を見てもらう	47	16.1%
4 父か母のうち就労していないほうが見る	40	13.7%
5 その他	0	0.0%
合計	292	100.0%

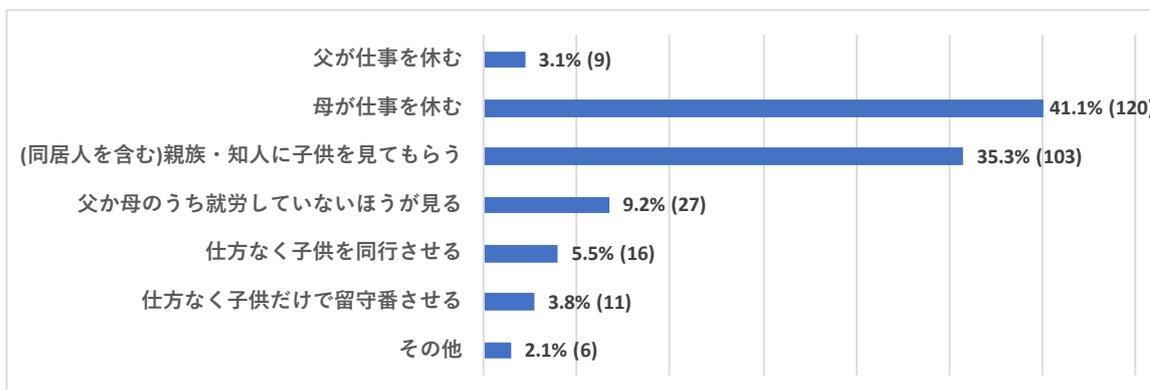


問10 保護者の方の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)が長時間に及んだ際にお子さんへの対応で一番多いのはどれですか？ (1つに○をつけてください。)

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 父が仕事を休む	9	3.1%
2 母が仕事を休む	120	41.1%
3 (同居人を含む)親族・知人に子供を見てもらう	103	35.3%
4 父か母のうち就労していないほうが見る	27	9.2%
5 仕方なく子供を同行させる	16	5.5%
6 仕方なく子供だけで留守番させる	11	3.8%
7 その他	6	2.1%
合計	292	100.0%

【その他】 保育園・預かり保育 祖父母に頼む(3) 時と場合による

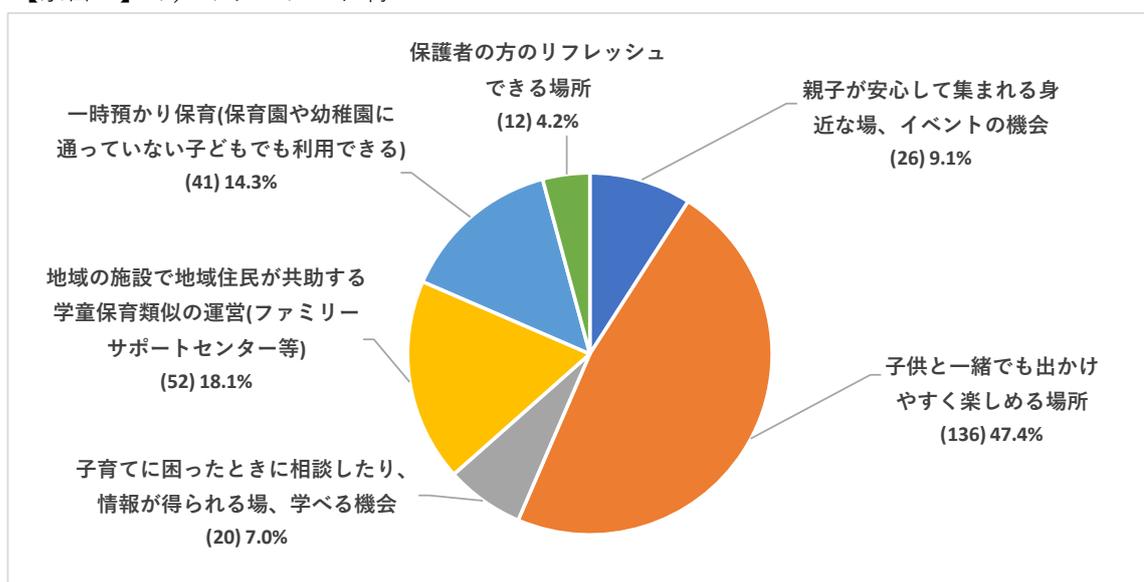


問11：子育ての環境を良くするために、一番あったらいいと思うものは、次のどれですか？
(1つに○をつけてください。)

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会	26	9.1%
2 子供と一緒にでも出かけやすく楽しめる場所	136	47.4%
3 子育てに困ったときに相談したり、情報が得られる場、学べる機会	20	7.0%
4 地域の施設で地域住民が共助する学童保育類似の運営(ファミリーサポートセンター等)	52	18.1%
5 一時預かり保育(保育園や幼稚園に通っていない子どもでも利用できる)	41	14.3%
6 保護者の方のリフレッシュできる場所	12	4.2%
合計	287	100.0%

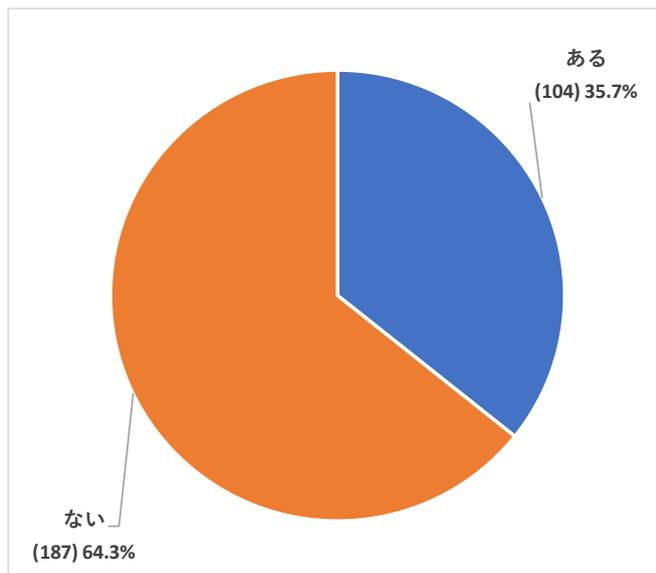
【余白に】キ) キッズランド塙



問12：ボランティアに興味はありますか？(どちらか1つに○をつけてください。)

【N = 293】

	人数(人)	割合(%)
1 ある	104	35.7%
2 ない	187	64.3%
合計	291	100.0%

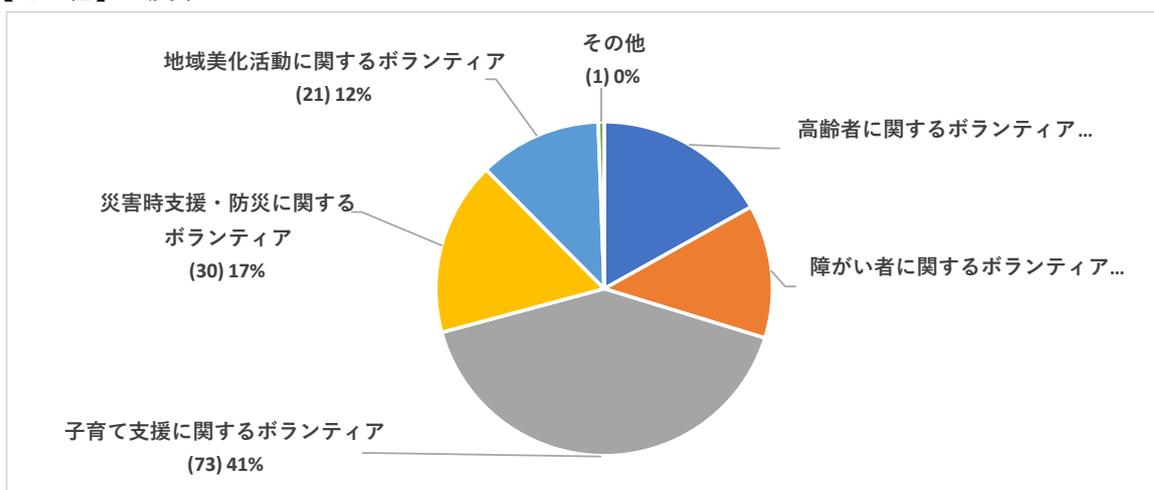


問13： 「ある」と答えた方に聞きます。どのようなボランティアに興味がありますか？
 (あてはまるものに○をつけてください。複数回答可)

【N = 104】

	人数(人)	割合(%)
1 高齢者に関するボランティア	30	28.8%
2 障がい者に関するボランティア	23	22.1%
3 子育て支援に関するボランティア	73	70.2%
4 災害時支援・防災に関するボランティア	30	28.8%
5 地域美化活動に関するボランティア	21	20.2%
6 その他	1	1.0%
合計	178	171.2%

【その他】 農業



3 民生児童委員との方部委員会結果

民生児童委員との方部委員会の概要

1 方部委員会の目的

埴町社会福祉協議会は、民生児童委員が活動を通じて感じる地域の課題等について把握し、「埴町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、民生児童委員との方部委員会を実施した。

2 委員会の内容

上記の目的を達成するため、本調査では下記の項目について質問を実施した。

- (1) 所属する地域での住民同士のつながりについて
- (2) 担当地区の高齢化、少子化について、孤立した人や引きこもりの人について
- (3) 民生委員活動について
- (4) 福祉の活動について地域の人への関心の高さ
- (5) 福祉活動を行いやすくするために必要だと思うもの

3 出席民生委員

埴方部	9名	
高城方部	6名	
常豊方部	6名	
笹原方部	12名	合計33名

4 実施日・場所

日 時：令和2年8月19日（水）13時50分から15時00分

場 所：埴町公民館

(1) 所属する地域での住民どうしのつながりは強いと思いますか？

- ・全地区とも地域のつながりは強いと感じている。しかし、昔に比べるとだんだんと住民どうしのつながりは薄れてきているように思う。
- ・特に高齢者のつながりが強い。
- ・笹原地区では地域で差がある。
- ・つながりが薄れてきている原因として、地域での交流の場がなくなったことが考えられる。

(2) 担当地区について

① 高齢化が進んでいると感じますか？

はい	33人
いいえ	0人

② 少子化が進んでいると感じますか？

はい	33人
いいえ	0人

③ 孤立した人や引きこもりの人がいますか？

- ・男性のひとり暮らし高齢者が引きこもりがちである。
- ・高齢者で引きこもりの人がいる。地域で声がけをしている。
- ・若い人でも引きこもりの人がいる。
- ・孤立している人は、地域と関わりがなくても、その生活に満足していて、楽しんでいるように思われる。
- ・引きこもりや孤立した人が出ないように、地域で声がけや近所の人気がにして立ち寄りしたりしている。
- ・引きこもりの人や孤立している人はいるが、対応が難しく苦慮している。

(3) 民生委員の活動やりがいを感じていますか？

- ・総体的に、現在は新型コロナウイルスのこともあって活動が制限されていることもあり、どちらとも言えない という意見が多数であった。
- ・コロナ対策の関係で、玄関先での訪問であるが、訪問すると喜ばれるので頑張ろうと思う。
- ・どこまで関わっていいのかという難しさもある。

(4) 福祉の活動について地域の人に関心が高いと思いますか？

はい	0人
いいえ	33人
どちらとも言えない	0人

- ・ 近所同士の見守りなども難しい感じがある。
- ・ 近所同士の見守りはある。
- ・ 高齢者宅の見守りは自然とされている感じがある。
- ・ 近所での助け合いはできているように思う。

5) 福祉活動を行いやすくするためには、何が必要だと思いますか？

- ・ 子どもの時からの福祉に関する教育
- ・ 地域でできるボランティアに関する取組
- ・ 地域交流の場が必要
- ・ 行政区との連携

4 サロン参加者への聞き取り調査結果

サロン参加者への聞き取り調査の概要

1 調査の目的

埜町社会福祉協議会では、本調査において、町民アンケートの結果「交通が不便」「高齢者の居場所がほしい」などの声があがったことにより、アンケートでは把握しきれない具体的なニーズを調査し、「埜町地域福祉活動計画」策定のための基礎資料とするため、聞き取り調査を実施した。

2 調査の内容

上記の目的を達成するため、本調査では下記の項目について質問を実施した。

- (1) 高齢者の移動の問題について
- (2) 高齢者の居場所について

3 調査対象者

「いきいき健康教室・サロン」参加者

4 調査方法

調査方法は次のとおりである。

- (1) 調査方法
町内各地区で開催している「いきいき健康教室・サロン」参加者に聞き取り調査。
参加者は挙手で回答。
- (2) 調査期間
令和2年7月27日（月）から9月17日（木）

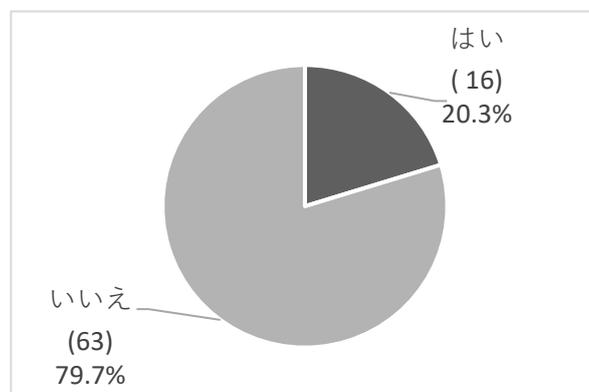
5 回答結果

有効回答数：9地区 79人

(1) 高齢者の移動の問題について

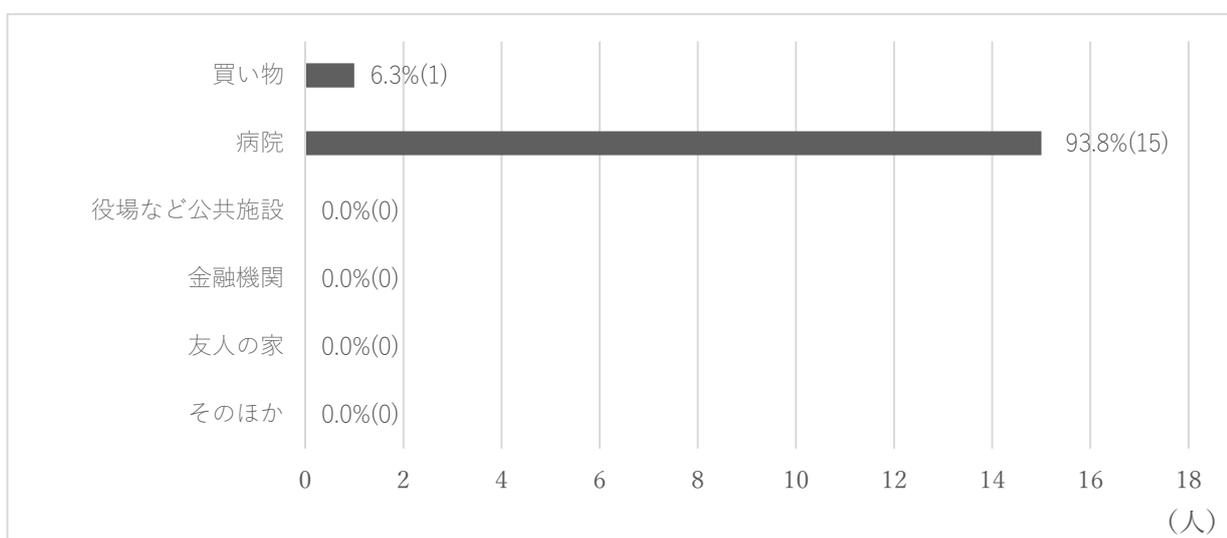
① 現在、生活する上で、移動手段で困っている方

	人数(人)	割合(%)
はい	16	20.3
いいえ	63	79.7
合計	79	100.0



② 困っていると答えた方で、次のうち最も困ることは何ですか？ ※1つまで

	人数(人)	割合(%)
買い物	1	6.3%
病院	15	93.8%
役場など公共施設	0	0.0%
金融機関	0	0.0%
友人の家	0	0.0%
そのほか	0	0.0%
合計	16	100.0%

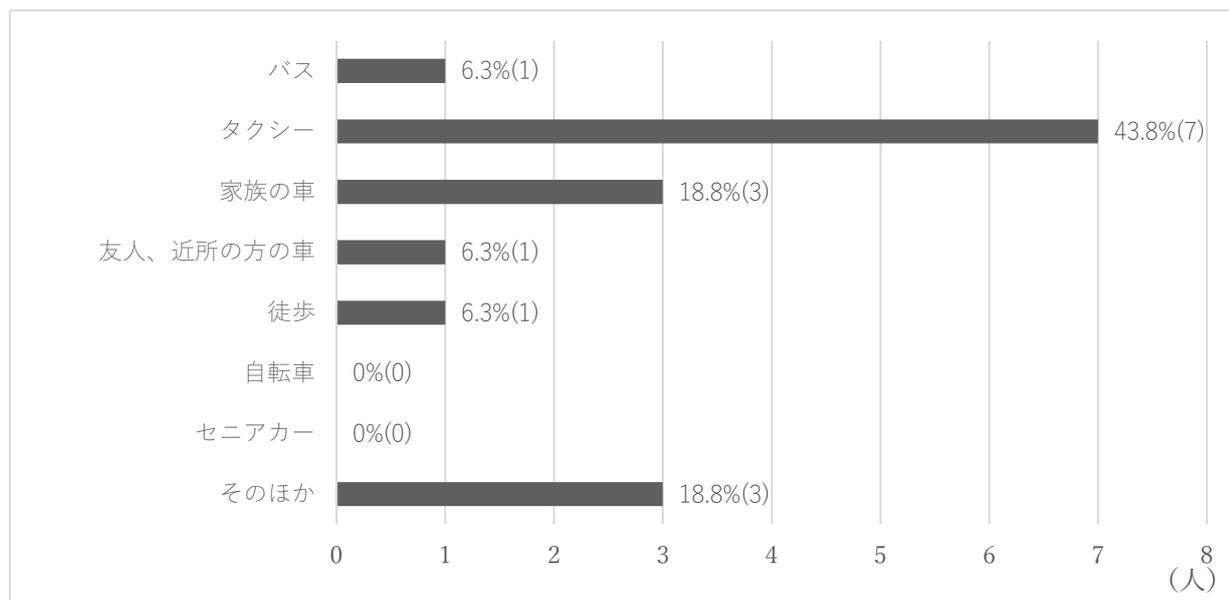


③ 困っていると答えた方で、現在移動に不便さを感じる中で、どのような手段で移動していますか？ ※1つまで

	人数(人)	割合(%)
バス	1	6.3%
タクシー	7	43.8%
家族の車	3	18.8%
友人、近所の方の車	1	6.3%
徒歩	1	6.3%
自転車	0	0%
セニアカー	0	0%
そのほか	3	18.8%
合計	16	100.0%

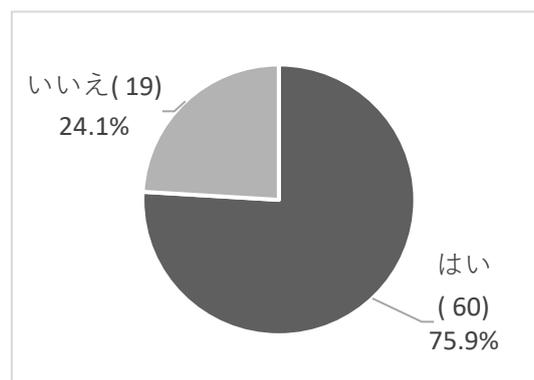
【そのほか】

- ・行きは家族の車、帰りはタクシー



④ 今後、生活する上で、移動手段で困ると思う方

	人数(人)	割合(%)
はい	60	75.9
いいえ	19	24.1
合計	79	100.0

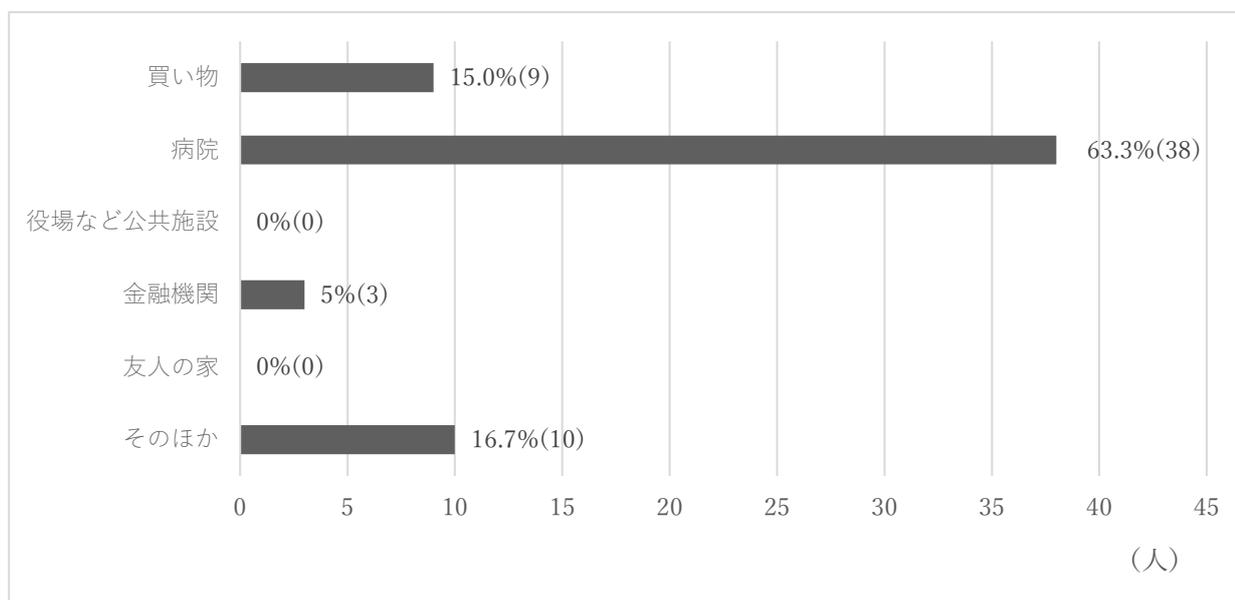


⑤ 困ると答えた方で、次のうち最も困ると思うことは何ですか？ ※1つまで

	人数(人)	割合(%)
買い物	9	15.0%
病院	38	63.3%
役場など公共施設	0	0%
金融機関	3	5%
友人の家	0	0%
そのほか	10	16.7%
合計	60	100.0%

【そのほか】

- ・すべての移動に困る

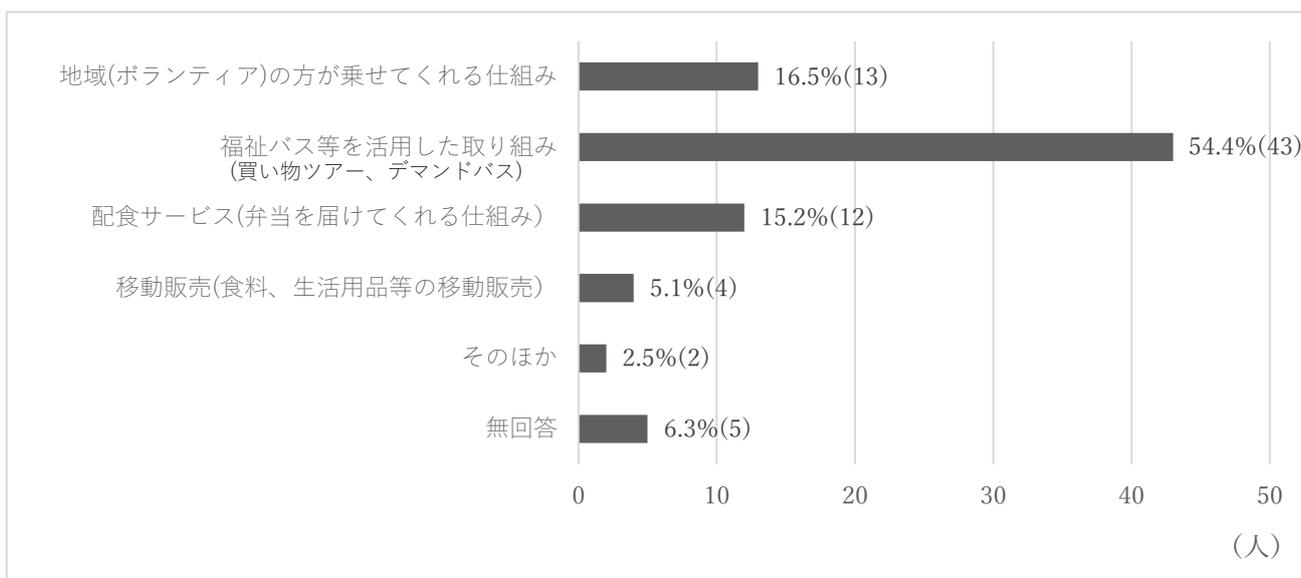


⑥ 次のうちどんなサービスがあればよいと思いますか？ ※1 つまで

	人数(人)	割合(%)
地域(ボランティア)の方が乗せてくれる仕組み	13	16.5%
福祉バス等を活用した取り組み	43	54.4%
配食サービス(弁当を届けてくれる仕組み)	12	15.2%
移動販売(食料、生活用品等の移動販売)	4	5.1%
そのほか	2	2.5%
無回答	5	6.3%
合計	79	100.0%

【そのほか】

- ・ 病院が送迎する仕組み
- ・ 福祉バスと地域ボランティアを併用して利用



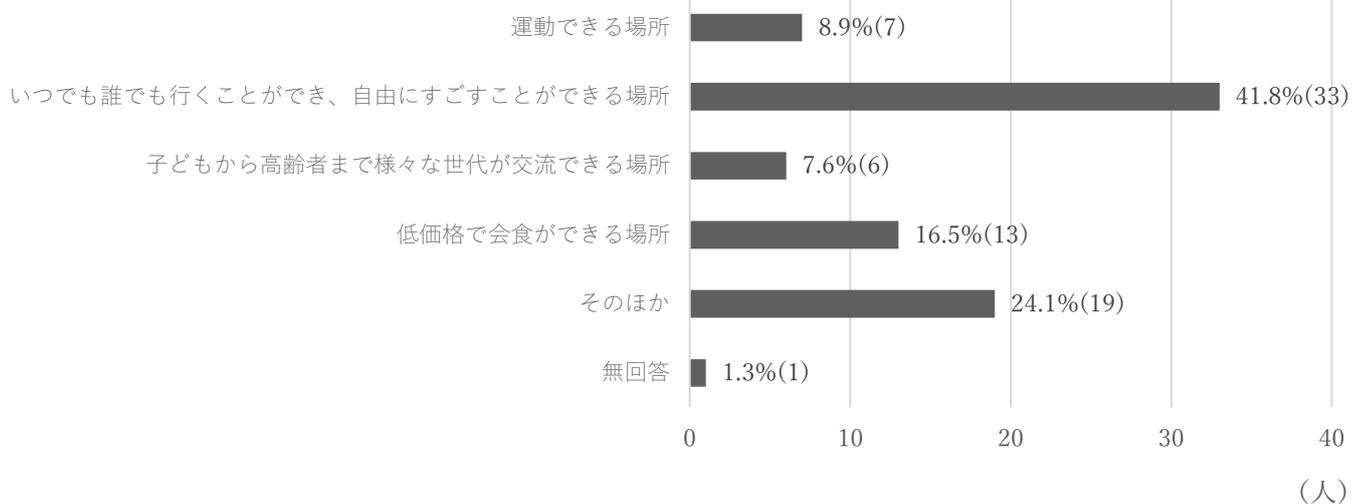
(2) 高齢者の居場所について

① どんな居場所が欲しいですか？ ※1つまで

	人数(人)	割合(%)
運動できる場所	7	8.9
いつでも誰でも行くことができ、自由に過ごすことができる場所	33	41.8
子どもから高齢者まで様々な世代が交流できる場所	6	7.6
低価格で会食ができる場所	13	16.5
そのほか	19	24.1
無回答	1	1.3
合計	79	100.0

【そのほか】

- ・自由に過ごせて低価格で会食ができる場所
- ・内容関係なく近くにある居場所



5 策定経過

策定経過

年月	会議等	内容
令和元年度	R1年 11月6日	作業部会 ・策定委員会発足にあたり設置要項、委員の委嘱、計画の説明について、今後のスケジュールを検討する。 ・福島県社会福祉協議会を通して東北福祉大学 森明人准教授に入っただき計画の内容、策定委員会での説明等について助言いただく。
	11月21日	作業部会 第1回策定委員会のついでの打合せを行う。
	11月22日	第1回策定委員会 委嘱状交付式 議題 ・役員選出 ・計画の内容について ・策定スケジュールについて ・計画の名称について
	12月5日	作業部会 ・町民アンケート実施について、検討を行う。
	12月24日	作業部会 ・町民アンケート実施について、どのような内容で行うか、他の市町村社協の実施状況を参考に検討を行う。
	R2年 1月8日	作業部会 ・アンケートの実施方法について
	1月16日	作業部会 ・アンケートの実施方法について ・今後のスケジュールについて
	1月21日	作業部会 ・アンケートの実施方法について ・策定委員会の内容について ・今後のスケジュールについて
	1月23日	第2回策定委員会 議題 ・計画の基本的な考え方について ・町民アンケートの実施について ・今後のスケジュールについて
	2月21日～ 3月13日	町民アンケート 実施 ・全戸回覧アンケート実施期間

【資料編】 5 策定経過

	年月	会議等	内容
令和2年度	4月1日～ 6月上旬	作業部会	・アンケート集計作業
	6月9日	作業部会	・アンケート集計結果について ・アンケートから見える課題について ・基本理念、基本目標について
	6月17日	作業部会	・アンケート結果から見える地域の課題について ・東北福祉大学 森准教授との協議事項について
	6月22日	作業部会	※東北福祉大学森准教授とリモート会議を行う。 ・アンケート結果から見える地域の課題について
	7月1日	作業部会	・森先生のアドバイスをもとに、地域の課題をさらに掘り下げる作業について話し合う。
	7月8日	作業部会	・地域の課題をさらに掘り下げる作業について話し合う
	7月15日	作業部会	・子育て世代へのアンケート実施について ・各サロンへの聞き取り調査について ・民生委員との方部委員会の開催について
	7月21日	第3回策定委員会	議題 ・町民アンケート結果について ・アンケート結果から見える課題について ・計画の構成について ・今後のスケジュールについて
	7月22日～ 8月31日	子育て世代への アンケート調査実施	・夏休み期間を利用して、はなわこども園、笹原幼稚園、埴小学校、笹原小学校への子育て支援に関するアンケート調査を実施。
	8月～9月の サロン開催日	サロン参加者へ 聞き取り調査	・サロン参加者へ移動の問題と高齢者の居場所づくりについて、聞き取り調査を行う。
	8月7日	作業部会	・サロン聞き取り調査の途中経過報告 ・民生委員との方部委員会開催について
	8月19日	民生委員との 方部委員会開催	※地域福祉活動計画の説明をしたうえで ・各地域の課題について ・地域で必要な取組について などの意見交換を行った。
9月1日～ 9月10日	子育て世代への アンケート集計	・子育て支援に関するアンケートの集計を行う。	

年月	会議等	内容
9月10日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との方部委員会開催結果について ・子育て支援アンケート結果について ・基本理念、基本目標、実施計画の内容について
9月23日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン聞き取り調査結果について ・基本理念、基本目標、実施計画の案について ・策定委員会に提出する資料の内容について
10月8日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念、基本目標、実施計画の案について ・埜町へ依頼するデータの内容について ・森准教授への確認事項について
10月19日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ※東北福祉大学森准教授とリモート会議を行う。 ・計画の体系図の説明と確認について ・課題と計画の実施事業に整合性がとれているかの確認を行う
10月28日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の基本理念、基本目標、実施計画について ・今後のスケジュールについて
10月30日	第4回策定委員会	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の基本理念、基本目標、実施計画について ・今後のスケジュールについて
11月30日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画素案について
12月10日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画素案について
12月17日	第5回策定委員会	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画の素案について ・今後のスケジュールについて
R3年 1月25日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画概要版について
2月12日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画概要版について
2月16日	第6回策定委員会	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画概要版（案） ・今後の取り組みについて
2月24日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・策定委員会に提出する計画（最終版）について ・印刷部数、計画書・概要版の送付先について
3月1日	第7回策定委員会	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画（案）について
3月	印刷製本	

令和2年度

6 埜町地域福祉活動計画 策定委員会設置要項

埧町地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目 的)

第1条 埧町における地域福祉の推進を図り、さまざまな地域生活課題に対応する地域共生社会の実現のために、住民、行政や関係機関・団体との協働により埧町地域福祉活動計画（以下、「活動計画」という。）を策定することを目的に社会福祉法人埧町社会福祉協議会（以下、「本会」という。）に設置する。

(名 称)

第2条 委員会の名称は、埧町地域福祉活動計画策定委員会（以下、「策定委員会」という。）と称する。

(組 織)

第3条 策定委員会は12名以内の委員をもって構成する。

2 策定委員会の委員は、次に掲げる者のうちから、本会会長が委嘱する。

- (1) 地域住民関係者
- (2) 福祉関係機関・団体関係者
- (3) ボランティア団体関係者
- (4) 地域サロン関係者
- (5) 行政機関関係者
- (6) その他本会会長が必要と認める者

(任 期)

第4条 委員の任期は、策定委員会作業終了日までとする。

2 補欠によって就任した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役 員)

第5条 策定委員会に、次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

(職 務)

第6条 委員長は、策定委員会を代表し、会務を総括する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会 議)

第7条 策定委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

【資料編】 6 埜町地域福祉活動計画策定委員会設置要項

(作業部会)

第8条 活動計画策定にあたり必要な事項や施策の検討及び円滑な業務の推進を図るため、作業部会を置く。

2 作業部会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 本会の職員

(2) その他本会会長が必要と認める者

3 作業部会には、部会長及び副部会長を置く。

4 作業部会は、部会長が招集し、会議の議長となる。

(関係者の出席要請)

第9条 策定委員会、または作業部会が必要と認めたときは、関係者の出席を求め、説明、意見及び助言を聴くことができる。

(事務局)

第10条 策定委員会の事務局は、本会事務局内に置く。

(費用弁償)

第11条 委員が、策定委員会に出席した場合の費用弁償は、本会役員等の費用弁償に関する規程に準じる。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、本会会長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、令和元年10月29日から施行し、活動計画の策定が完了したときに効力を失う。

2 この要綱の施行後最初に開催される策定委員会は、第7条第1項の規定にかかわらず、本会会長が招集する。

7 埧町地域福祉活動計画 策定委員会委員名簿

埴町地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

No.	氏名	選出区分	団体等	備考
1	金澤 秀浩	地域住民関係者	行政書士	
2	藤田 礼子	福祉団体関係者	埴町民生児童委員協議会	会長
3	七宮 昭子	団体関係者	婦人会	副会長
◎ 4	斎藤 隆之	福祉団体関係者	埴町心身がい児(者)親の会	副会長
5	吉成 公男	ボランティア団体関係者	傾聴ボランティア	副代表
6	青砥 ハツ子	ボランティア団体関係者	介護予防ボランティア	副会長
7	石井 みつ子	地域サロン関係者	にぎわいサロン	代表
8	藤成 寛味	行政機関関係者	埴町健康福祉課	課長
9	金澤 周一	福祉団体関係者	埴町社会福祉協議会	理事
10	青砥 喜代美	福祉関係機関	地域包括支援センター	管理者

◎…委員長

作業部会 埴町社会福祉協議会職員

第1次埴町地域福祉活動計画 概要版

(令和3年4月)

発行 社会福祉法人 埴町社会福祉協議会

〒963-5405 福島県東白川郡埴町大字埴字材木町 32 番地

TEL 0247-43-2154 FAX 0247-44-1002

ホームページ <http://www.hanawa-shakyou.or.jp>

E-mail hanawa-shakyou@luck.ocn.ne.jp